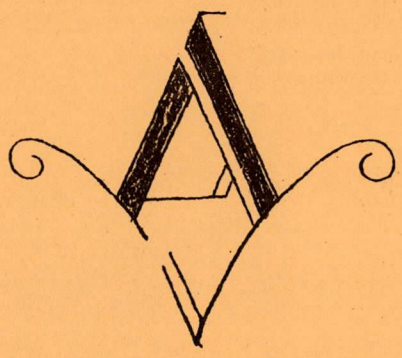
建築と社會

第八輯　第十号



日本建築協會

大正十四年十月一日

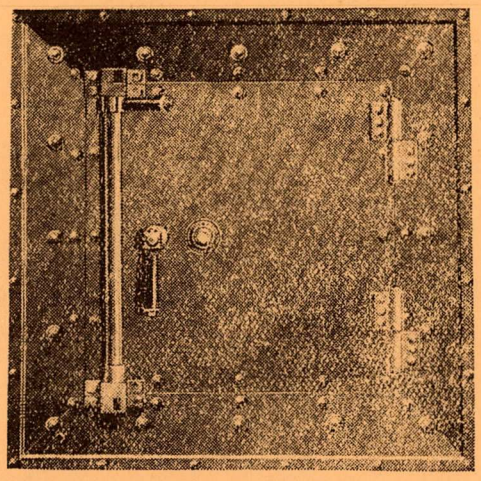
大正八年九月十日　第三種郵便物認可
大正十四年十月一日發行（毎月一回一日發行）

（第八輯第十號）

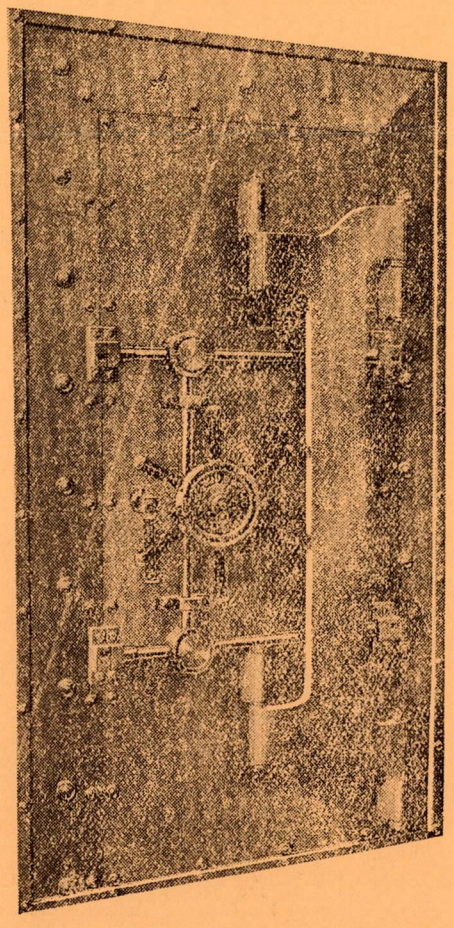
大谷製
舶來形金庫扉



大谷金庫店技師
獨逸工學士
アルハレツトシユハルト



正金銀行大阪支店納



製作品目

一金庫
一金庫室扉
一保管金庫
一御眞影奉安庫（デポジツトボックス）

東京市京橋區岡崎町二丁目二十五番地
大谷金庫店
電話銀座三一三四番

大阪市淀屋橋筋道修町四丁目
大谷金庫店
電話本局三九三四番

京都市松原通東洞院東入
大谷金庫店
電話下五三二番

神戸市楠町六丁目
大谷金庫店
電話本局四八〇七番

回轉扉

米國ヴアンカンネル
レボルビングドアー
コムパニー製造



特徴

1. 煖房燃料ノ節約
2. 塵芥ノ防禦
3. 雜音ノ遮斷
4. 出入ノ整然
5. 換氣ノ良好
6. 耐久ノ堅牢
7. 體裁優美

其他一般建築ニ關スル

確實 次ノ附帶工事 嶄新

▲昇降機 A: B. See式 客及荷用昇降機、其他リフト竝コンベーヤー一般

▲煖房換氣 自動ガススチームラヂエーター、煖房裝置一般、キヤリアー式溫濕度調整裝置

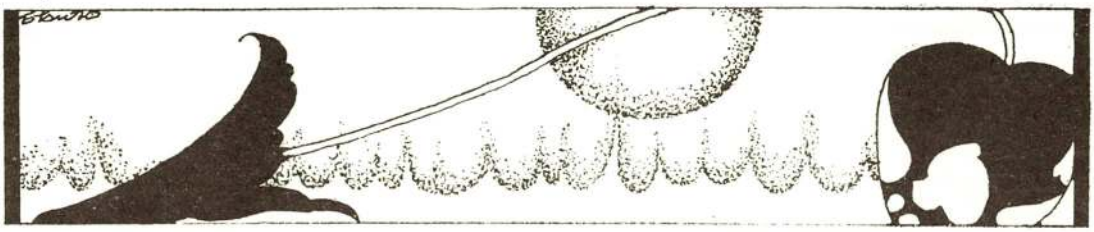
▲氣動輸送 ラムソン式高壓及眞空氣動輸裝置、テムソン式ウアイアリングセージシステム

▲電氣工事 ガーランドチユーブ、ブライアントスキツチ、其他電氣配線工事一般

▲金庫扉 米國最古ノ歷史ヲ有セル、ハリングホールマルビン金庫及金庫扉

内田商事株式會社 大阪市北濱四丁目三〇

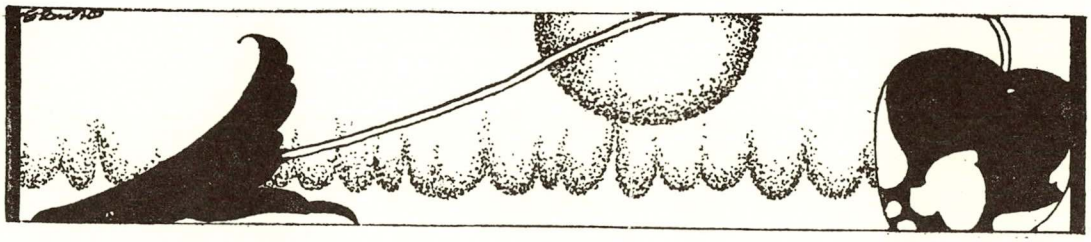
紐育 東京 神戸



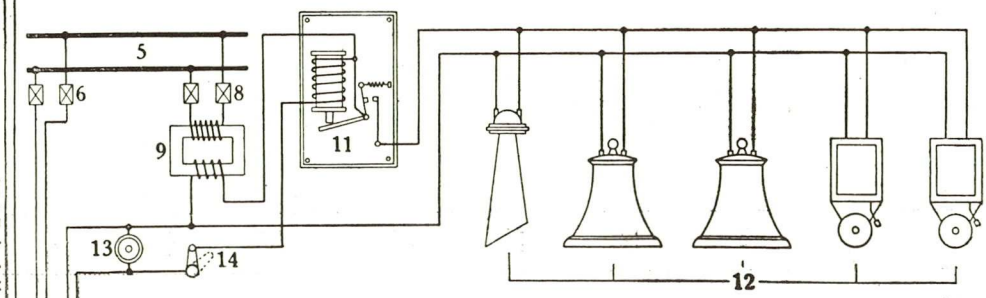
▲美の理想と美の自然……（一）
▲薄芒……（二）

◎何處へ行く可きか……大須賀巖（三）
◎都市計畫に對する市民の理解に就いて田中氏に答ふ……伊藤俊雄（七）
◎地震の豫防と震災の輕減……須田皖次（二）
◎都市計畫の實際的施設……K・S（三）
◎明治大正に於ける建築觀……增山新平（二七）
◎『太山寺』建築……菅田登美雄（五一）

繪口絵
回生病院之遠望
回生病院新館之側望
回生病院新館之廊下
回生病院新館一階平面圖
同上二、三階平面圖
同上四階平面圖
同上屋階平面圖



◎鐵及び鋼等の腐蝕に就いて……細木松之介…（四〇）
◎汚物處理槽及び其他……澤部實之介…（四四）
◎建築は好況でない……Q Q生…（五〇）
◎人生のための建築……加須賀澄…（五六）
◎創作 菊と嫉妬……草房主人…（六二）
——歸米して結婚せるエム・ケイ。へスラに——
▲俳壇……溪舟選…（七一）
▲秋に入りて……溪舟…（七二）
■世相の動き……（七三）
■主要建築材料値段……（七六）
■日本建築協會々報……



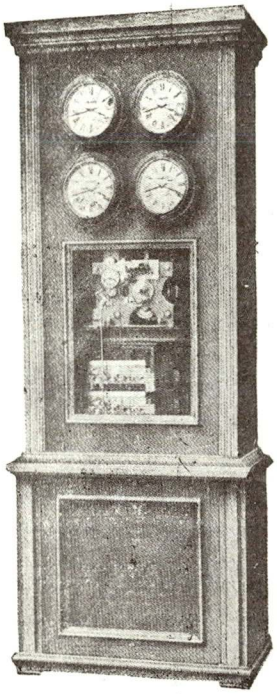
瑞西マグネタ會社インダクタ

無電池式電氣時計

親時計内ニ裝置スル永久磁石ニヨリ自ラ發電ス

最小十五單位ヨリ最大六〇〇單位迄

室用、街路、船舶、塔用各種



最近御用命先

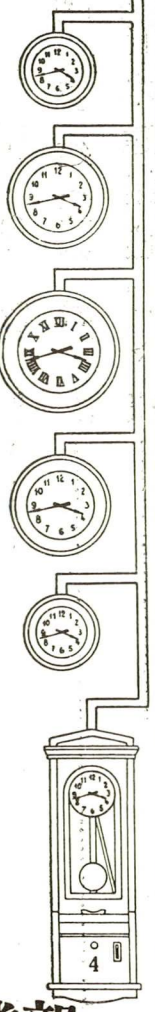
大同ビルデイング　大阪中央公會堂

宮内省　名古屋鐵道局

東京市電氣局　大阪三品取引所

御紹介被下バ型錄進呈致スベク尚御說明御希望ノ向キヘハ係員參上可仕候

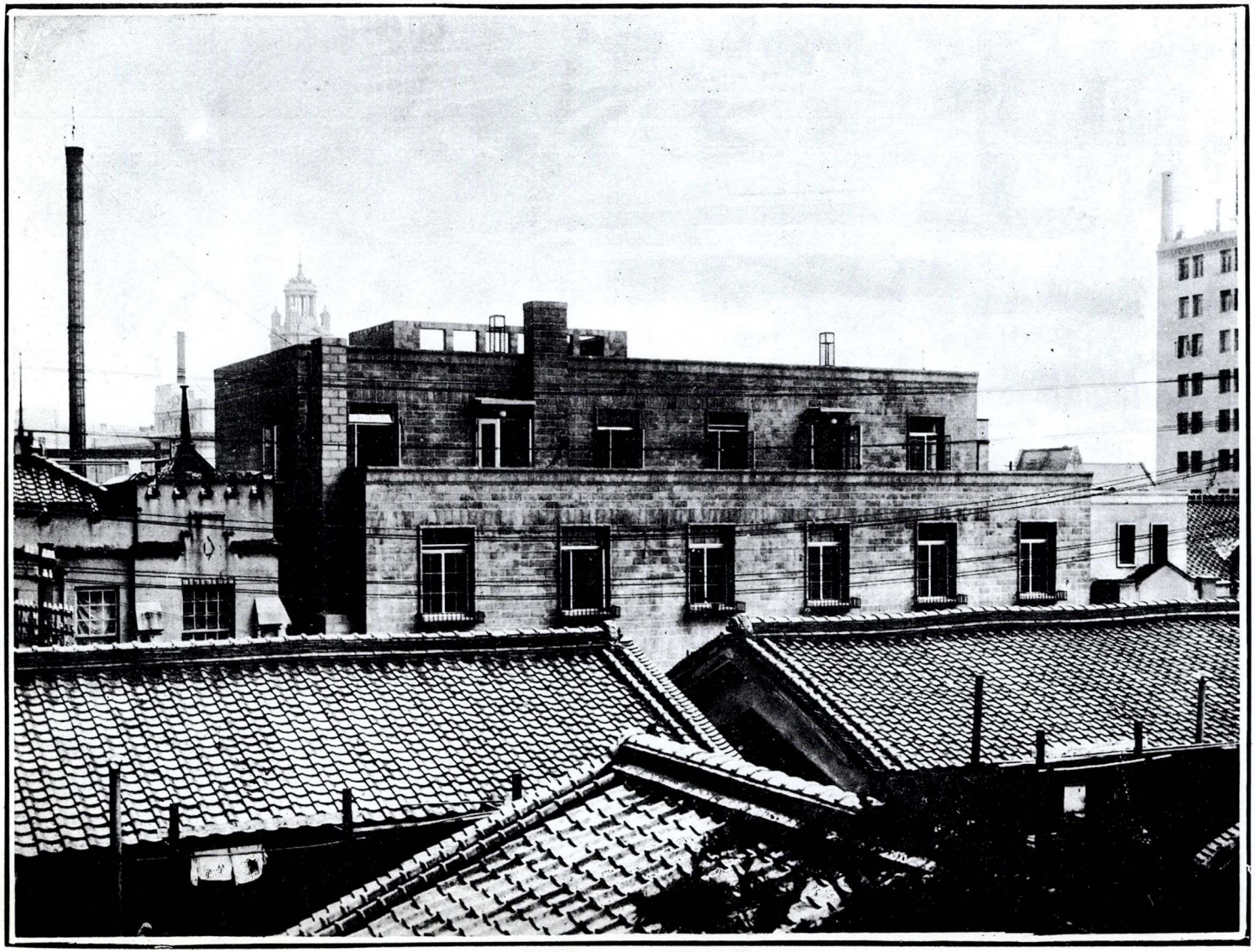




東洋總代理店　シーベルヘグナ商會工業部

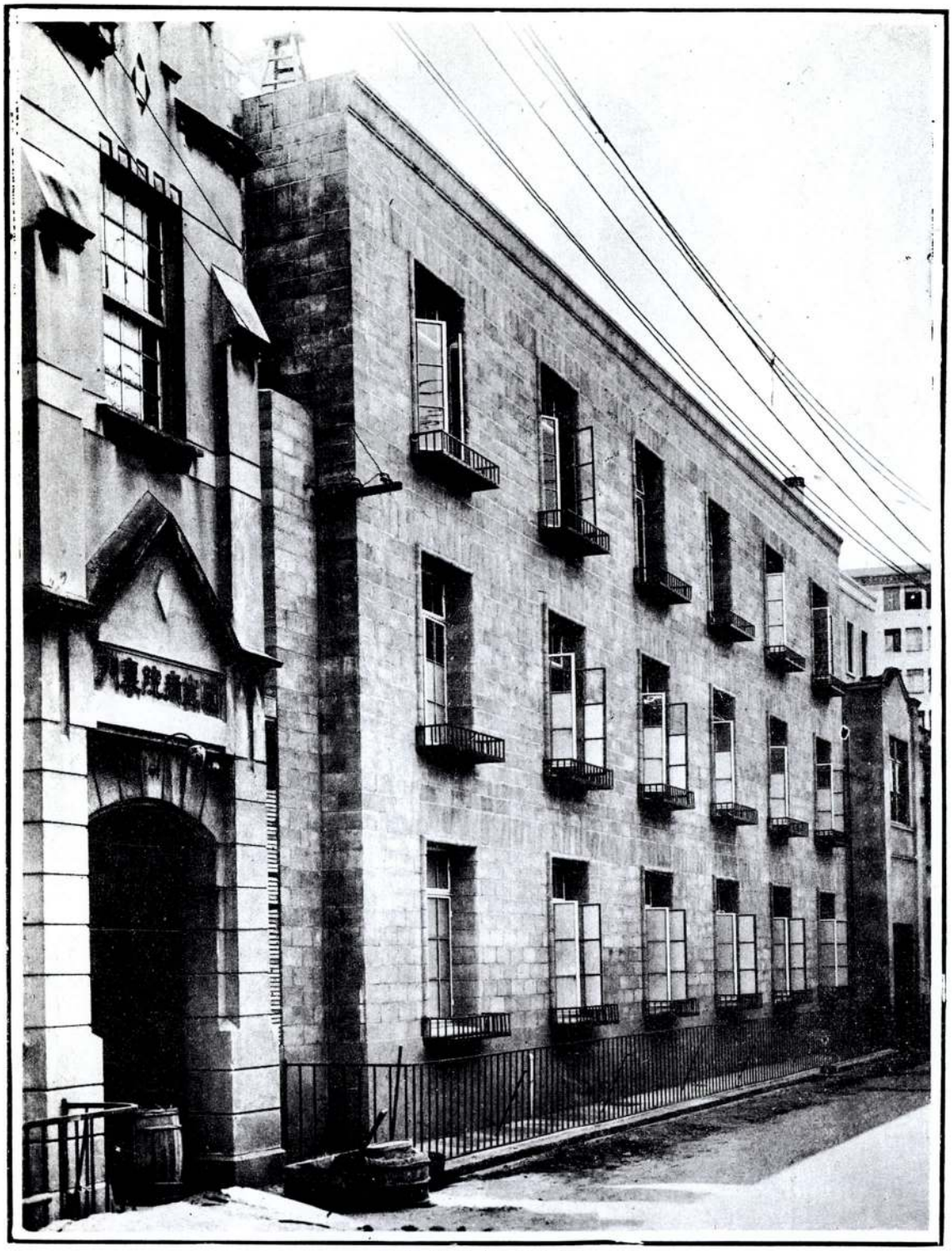
電話　土長三五四六番　土五七五四番

關東代理店　神奈川電氣株式會社

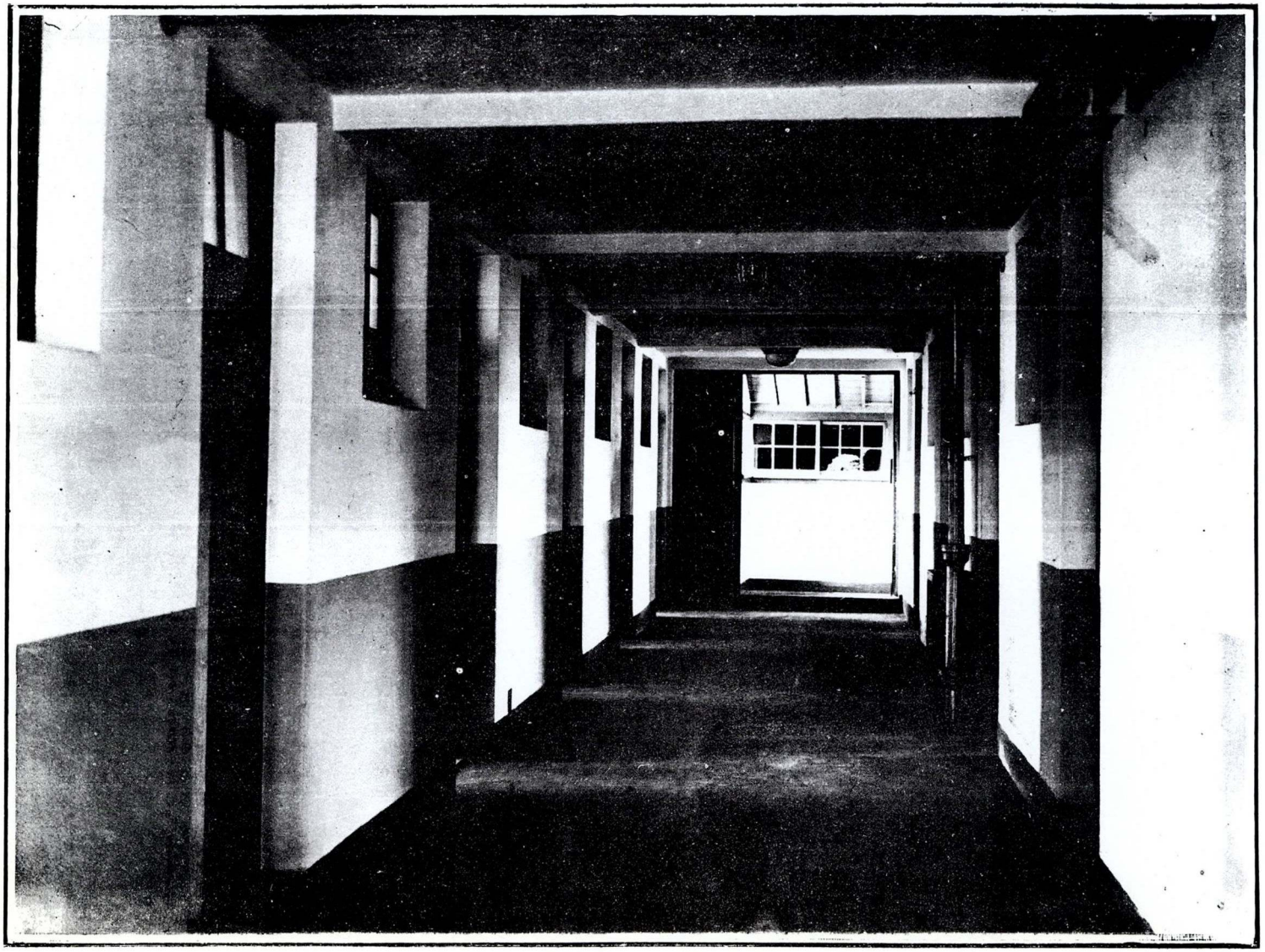


新裝成れる回生病院遠望

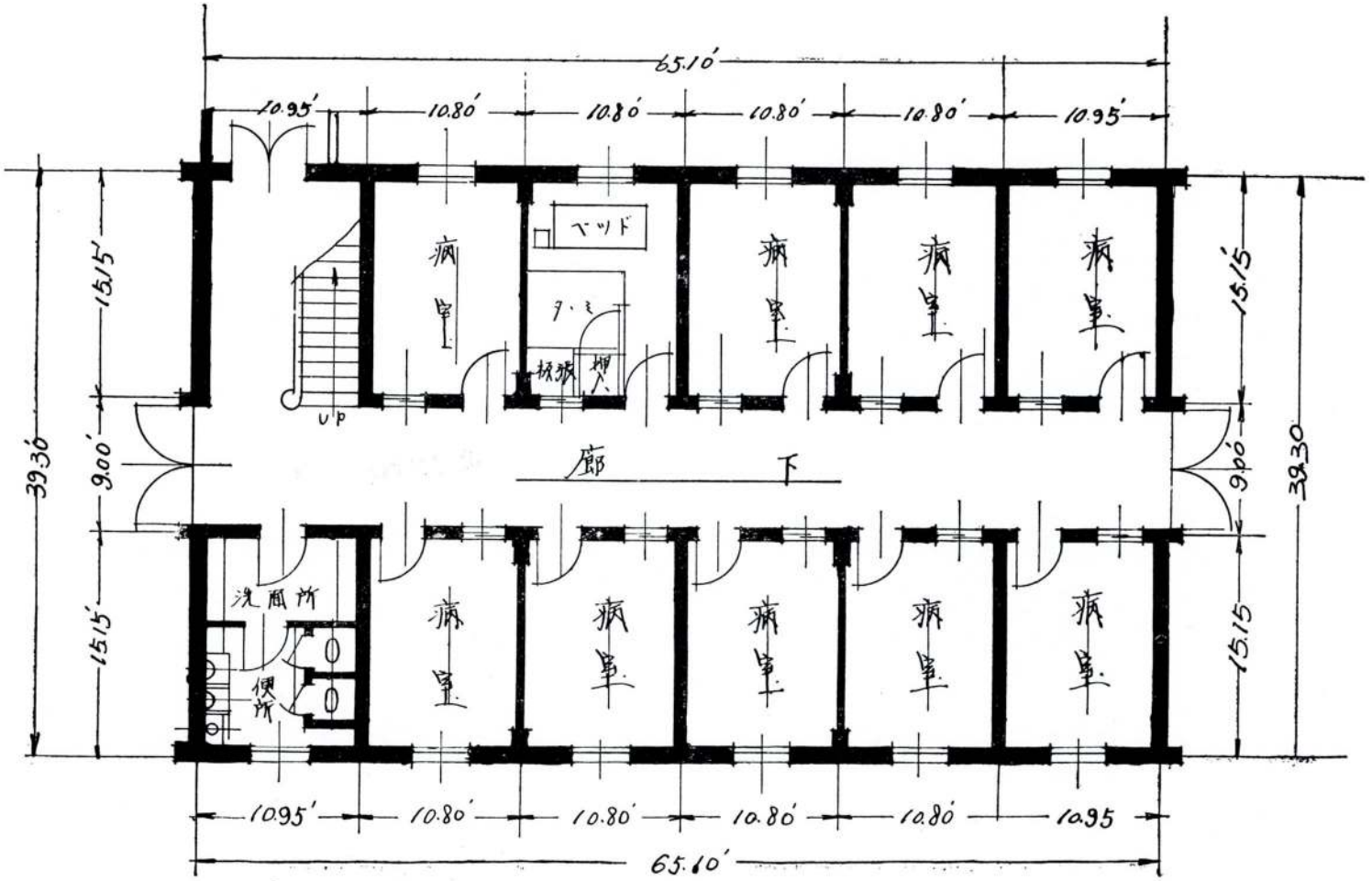
——大阪市北區絹笠町——



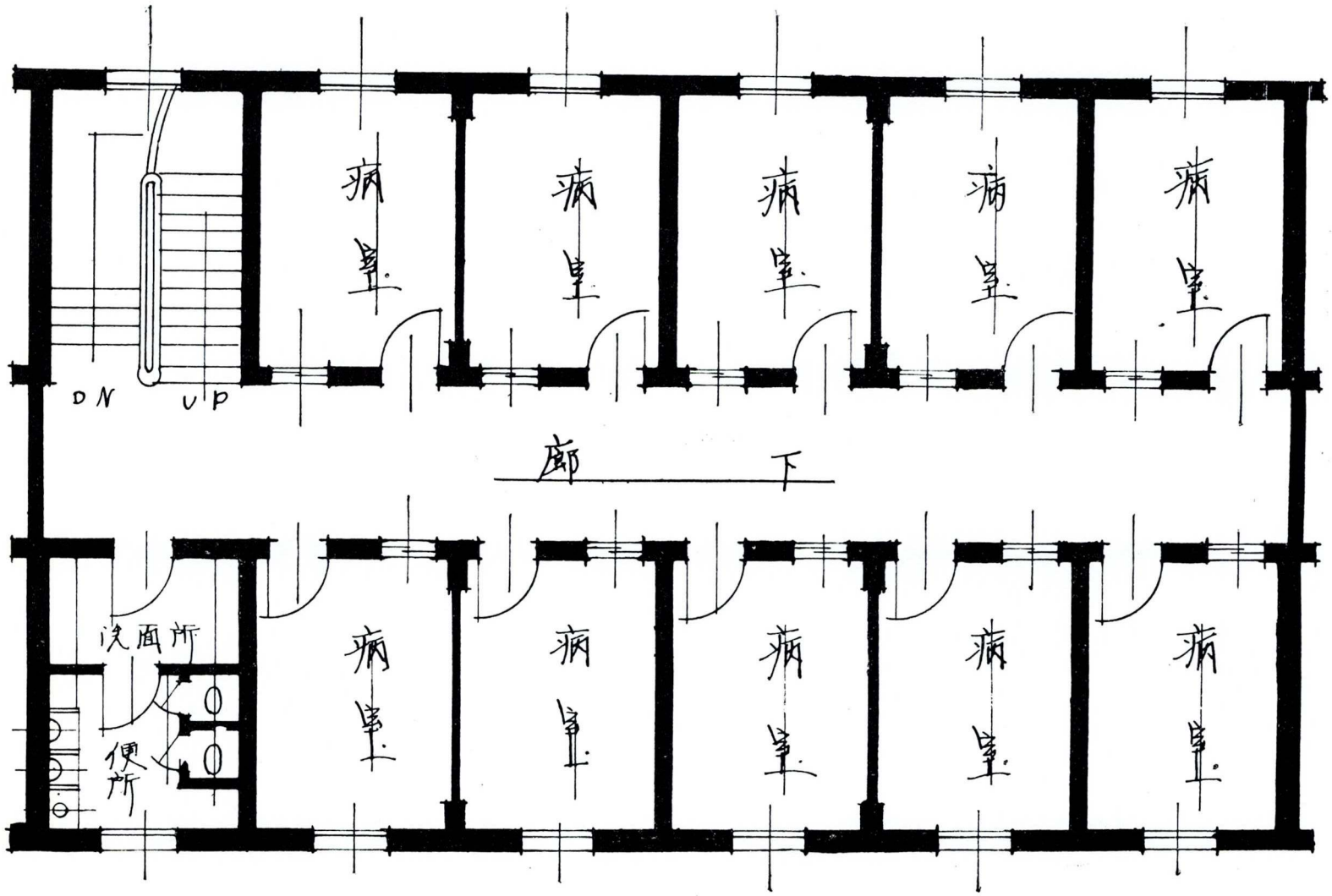
—— 回生病院新館側望 ——



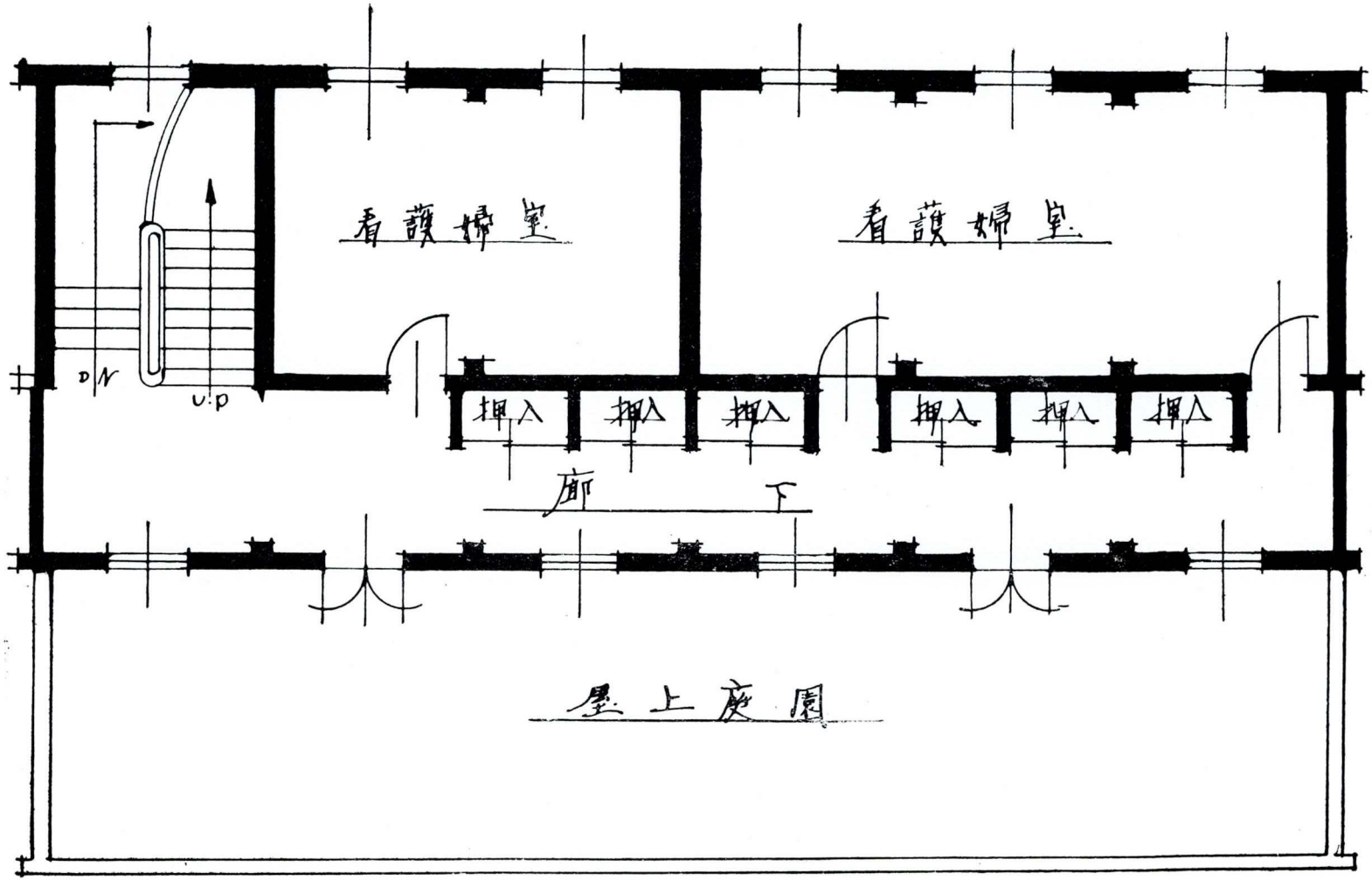
回生病院新館廊下


65.10′
10.95′
10.80′
10.80′
10.80′
10.80′
10.95′
病室
ベッド
ﾃｰﾐﾊﾞﾙﾎﾞｰﾙ
UP
廊下
洗面所
便所
15.15′
9.00′
39.30
39.30′

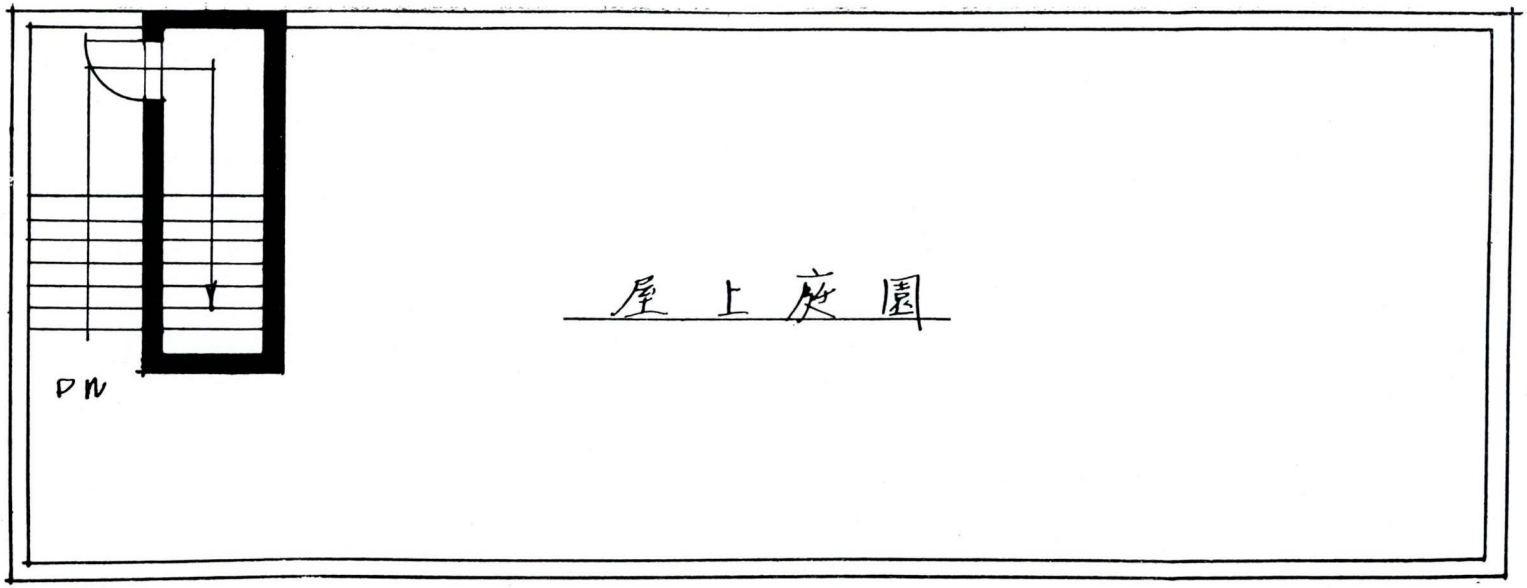
回生病院一階平面圖



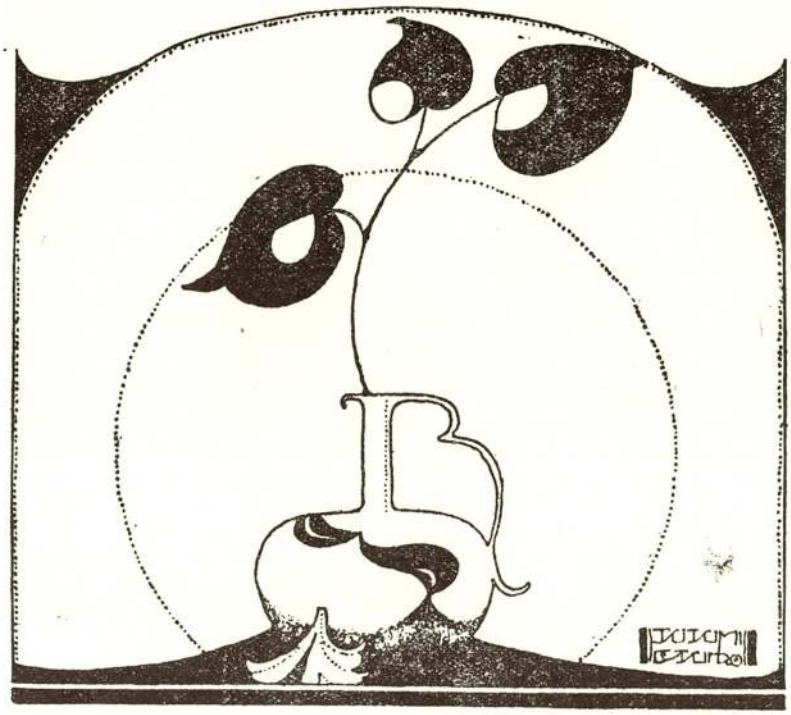
回生病院二三階平面圖



回生病院四階平面圖



回生病院階屋平面圖



美の理想と美の自然

美學の根源的なる二大形式は、倫理に於けるそ同じく理想主義そ自然主義である。吾々の見るところに據ればその二者は要するに一に歸せしめることが能るそ思ふ。吾々は道德に關しての研究のうちにおいて道德そ理想そを綜合して、自らその法則そなりまた絶へず自ら發達してやまぬ一原理を抽出せんそ試みた。最も内包的なるそ共に、最も外延的な、その結果そして必然的に自他に對しても最も豐沃な且つ最も社會的最も個人的な生命此れである。その同一原理を以て二種の美學、理想主義說そ自然主義說を歸一せしめ得るものであることは勿論論我の餘地はない。眞の藝術は、吾々の見解を以てすれば、吾人に、最も内包的でるそ同時に、最も外延的であり、最も個人的であるそ共に最も社會的な生命の直接感情を與へるもの即ちそれである。

薄芒

◎庭園と彫刻

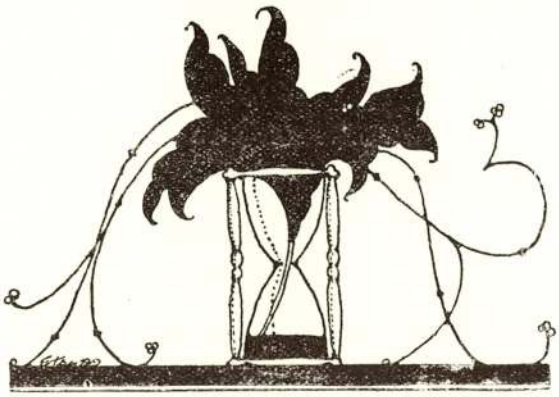
庭園といへば薫り高い花園とか、枝ぶりの面白い古木とか、或は幽邃な池などを想ふのが我々の常であり、そして自然の乱雑と更に美化された他に求め難き何ものかを求めようとするのが、従来庭園には、日本でも西洋でも各の聖があつて、それに當て嵌めるやうに造つてゐたが、近来は漸創的、或は自分の趣味に依つて拵へるやうになつて来た。庭園にはこれまで彫刻としては大抵きまつた石燈籠が置かれる位のものであつたが、近頃に至つて、いろ〳〵なる美術的價値あるものが配置せられるやうになつた。草木や泉等の中に優れた調和ある種々の彫刻を配置すれば、庭全體が非常な魅力を持つに至るは、庭園のみならず、また住宅なども、庭に置かれた彫刻に依つて美化されることが往々ある。庭前に彫刻は、庭や住宅の程度次第に依つて、大小種類等も立派なものがあるのも目を惹くものであるさうした場合には貧弱な住宅でも、一つの彫刻によつて、非常に奥ゆかしいものに見えるのが普通である。彫刻の周圍には、しだとか、蔦とか、その他野生的な草や、古木が應しとせられてゐた、然るにこの頃になるとさまざまの色彩に富んだ草花を配合することが少くなく、なつた即ち大理石などの彫像を薫り高い花で埋ることが如何に美しいものであるかを知るに至つた。彫刻を繞る花は必ずしも洗練されたものに限らない、寧ろ普通には、野花や、それに近い實科の花こそ面白いものである。庭園と彫刻とは不思議な對照をなすもので、如何なる種類の彫刻でも面白く見られる、すなはち彫像でも、石燈籠でも、銅の魚や鳥でも水盤でも、また石等の腰掛でもその他庭から庭に掛けて低い石の階段でも、それ〳〵面白味があるものである例へば古木や蔦などの中に、一つの佛像を安置するとする、そして室を逍遥する毎にその前に立つとする、しのゝめの雲が暁の風に動き出す頃には朝露にしつとりと濡れたその像、さゝやゝした氣分を起させるに違ひない、また夕ぐれの仄暗い木がくれにそんで像を眺むれば、しみじみした心持を自らせるに相違ない。或は、狭い庭にたつた一つの粗末な、石の水盤を置いてもあなどり難い興味がある、雨の日には雨の音楽がその水に和して、妙なる音楽を奏してくれる、そして二羽三羽の雀が楢から飛び下りては愛らしい聲を立てながら、庭の彫刻は水を飲むであらう。庭の彫刻はうして、それ〳〵吾々の目に何かの面白味を授け、何かの慶み難い生活を與へてくれる、かうした意味からも、庭をもつ人は、その中に一つ〳〵の彫刻を据えて置きたいものである。

◎快適な寢室に食堂

歐米人は夕の食卓は家族團欒のうちに世間話や、笑談をしながら樂く食事をし、後ではトランプや子供のための遊戯などをして愉快に夜を送るのであるが日本では飛脚の早飯といふ言葉もあるやうに早く食事をすましてて食卓を離れる習慣があるが、それはともかくとして、氣持よく食事が出來るやうにつとむべきである、この意味で場合によつては客室或ひは居室と兼用にすることも至難なことではなく衛生的にはリノリユームがよくベツトや化粧臺の下などにラツクを置く事は理想的といふべきである、家具として用意するものは化粧テーブル、洋服タンス小椅子、ナイトキヤビネツトなどで材料は普通櫻材、檜材のものがよいであらう、また入口よりベツトや化粧テーブルの直接見えぬやう屏風などを置くことを忘れてはならぬ。

◎森本博士のアパートメント

北海道帝大敘授法學博士森本厚吉氏は我國民生活の改造に力をつくしてゐるが、わけても住宅問題の根本的解決を圖る爲にその第一期事業として最も經濟的と認められる最新式合同住宅「文化アパートメント」を建設する事につとめ、それが來る十一月十日に、本郷元町の停留所前に美しいお菜の水の川を見下してい よ〳〵落成する事となつた。住宅問題については博士の夫人靜子さんも非常に興味をもち一年間米國のコロンビヤ大學に住宅問題研究の爲め留學したと云ふ位の熱心家で今度の建築なども大方は技師によつて設計されたが實際に當つての細部の注意は皆夫人自らの指圖によつたものだそうだ「政府の低利資金と他の金とをせて五十二萬圓の建築費をかけました。これは全くの社會事業で、とてもアパートメントの經營だけでは當分の間は年に約一萬圓の缺損となるのです、それで雜誌「文化生活」や私のやつてゐる雜貨店及びアパートメントの食堂などから上る利益によつて補つて行くつもりで居ります。瓦斯料理ストーブ、洋式流し、洋式浴槽、水湯兩用洗面器、洗濯式便器、醫藥容器、室内電話、暖房、塵埃焼捨器、自動エレベーター、その他あらゆる近代的便利を設備してあります もう四十三の世帯に對して四倍位の申込者がありますが、そのうち外國人が三分の一入る事になつてゐます食物はすべて科學的に獻立を作つて、人間はこの位の物を食べてゐればいゝと云ふ標本を作りたいと思つてゐます。女中は一切連れて來て頂かない事にしてあります。特に手傳ひを要する場合には四人の女中を置きまして、一時間なり二時間なり使つてその料金だけ頂くやうにします。さうなれば日本の奥さん達はずつと進歩します。今までのやうに女中まかせでは駄目ですそれから又小さな部屋は獨身の男子と婦人を兩脇にはなして住んで頂き、社交室に於て清く交際して頂き、氣心が知れたら及ばず乍ら監督をして幸福にしてあげたいと私はそんな事にも理想と興味を持つてゐます、個人々々は絶對に自由で他人に迷惑をかけないやうにして頂き、即の方で花柳界に出入するやうな方があれば一度お入りになつてもお斷りします。とにかく數へきれない程の澤山の希望を持つて、すつかり出來上つて行くのを見守つてゐませう」と夫人は自分の子供の成長を思ふやうに樂しげに語つた。



何處に行くべきか

大須賀巖

（一）

畏友大屋氏は「青年建築」を連想する雑誌、「都人」八月號に、アメリカンシティよりの抄譯、アンウキン氏の北米都市觀を寄せてゐられた。氏一流の堂に入つた筆致を以て、原文以上だと思はれる程に、ア氏の云はんとする處を、吾々日本人に解るやうにスラ〳〵と書いてある。

ア氏は人も知る通り、大倫敦といふ大都市の都市計畫を、右にも左にも出來る權威でありながら、都市分散論者であることは、我國の關大阪市長を偲ばせる。田園都市のハワード翁との親交は勿論、ハ翁の事業の有力なる幇助者であることも、ハ翁の著書によつて知られる。此人が今日の摩天閣と、碁盤の目式亞米利加都市を觀、之れを批評したのであるから亞式都市の缺陷を深刻に穿つたことは當然である。ラスキンやモリスや乃至オーウエンなどの白い人影が、ストラトフオードオンアヴオンの屋氣樓と共に、アンウキン氏の背後にボーツと立つてる感を、吾人に抱かしめる。「地上に四つ這ひになつて、而して徐ろに手を地上から離せ！」「足を地上にシツカリ着けて心靜かに天を仰げ！」。ア氏の摩天閣を仰ぎ自動車の群に眺め入つた時の心持はこんなでなかつたらうか。

（二）

何をいふても、二點間の最短距離は直線であると、吾々も吾々の後の人も、中學校で正確に教へられて居る。假令高等

數學が、平行線を一點に合する處あるを說きても、高等の理學者が相對性を唱ふると雖も、歩いて見て、通つて見て、二點間が最短距離であることは、三角形の二邊の和が其一邊より近道なることは、近郊散策でも商用の往來でも現實に解ることである。平城平安の奠都以前、長安一片の月下に笛聲を戀ひ、朔風をば唄ふた千年二千年此方、眞直な道は便利である。都市計畫は國家の事業である、市民の大なる公共心であると宣傳して見た所で、計畫路線に當面せる小店舗の主が其處を立退たがらぬは、老舗の關係もあらうが、打算以外に執着心である。自分では其町の其處で、其丈けの利用が出來ぬと知りつゝも、他人が此土地を使用して立派になつたら羨みの心も起る。此等の人々を滿足せしむるためには、一地點に二個の要求する人の滿足は、一階建を二階建にする外無い。又便利な地點は誰も其地を占め樣とする。餅撒きに轉んだ人の上に乘りかさなる人情は、二階を三階に、三階を四階にしても、其土地へ集まらう〳〵とする。商業の多忙と機敏とは摩天閣の必要も起る。茲に於てか、田園都市の美術的な道路とを、バンガロー式やコテージ式の建物は餘りに高價な贅澤品となる。亞米利加人はブツ付かる所まで遣る、英國人は凝ツと睜める、ドチラが眞理か。紐育だつて、所謂フンドシ横町の間に、現代離れのした寺院と小公園もある。倫敦だつてトラファルガー交叉路は高層建築の壕壁を繞らして居る。珊瑚礁の殘骸を見る時、冬の土の中に蟄居して泰然自若たる蚓殿を考ふる時、人生の蠢動にも斯の二道の岐れと、其處に採るべき或者の啓示がある樣に思はれる。

（三）

これも近頃發行の或る新聞紙上に、某醫學士の「技術者の一般的傾向と其社會的任務」といふ論文が載つてゐる。其論旨の大略をいふて見ると、自然科學的智識を有する者は、其專門的領域に於ては科學的であるが、社會人としては非科學的なものが多いのは何か。之れツメコミ主義、間に合せ主義の教育を受けて因習的に科學的知識を有て居る結果、科學丈けはドウやら遣るが、折角修業したものに就いては全然無自覺な結果であるといふて居る。則ち科學者にもなれない、隨つて藝術者ともなれない、模倣許りであると。更らに第二の點に於て、現時の工學が資本階級の搾取の手段に供せられ、一部富裕階級の私有物たる觀を呈して居る。技術者專門家がその眞摯にして峻嚴なる自己省察の下に、明確なる社會意識に目覺め、其の鋭利に磨き上げたる技術專門を以て、無產階級解放運動に從事する時にこそ、初めて其の歷史的使命を全ふすることが出來るのであると論斷して居る。

私は曾て此誌上に述べたことがあるかも知れないが、此間故人となつた名人、二代目圓朝の氣焰を博多で聞いたことを思ひ出す。彼は近頃の噺家に名人の出ないことを痛論して、是れ畢竟噺家の弟子になるものが、少し許りの給料の多からんことを希ふて、「アチラの師匠コチラの師匠を歩き廻つて眞に藝を研かうといふもの、自己を創造せようといふものが無いからでガス」と結論をつけた。

（四）

ヨク法學者がエンドレスの大議論を闘はして居ることがあ

る。一方に理想の法學世界にアテはまる定義を論じ、一方は現實の世界を包容する定義を金城鐵壁として、他を排し自分をエラシと嘯く。こういふ爭は都市計畫を論ずる者や、建築を說く人の間にもヨクある樣に思ふ。世界の大勢を論じ、人類發達の跡を探ねて、所謂都市計畫の大勢なり、建築の歸趨なりを主張する、一方に現實の論として「到底今の日本人に西洋人の生活が出來るものか」「吾々の生活を變更してからでなければコンナものに住めるものか」而して其の出來ないといふこと、變更してからと思ふことは、何を以て之をするかといへば、都市計畫があつたり、改良住宅があるのでなければ出來ない相談となつてしまふ。ツマリ論理上の兩蛇論法である。卑怯な者、老獪な者の慣用手段である。

理想は吾々の生命である。之あるが故に希望が生じ、光明の世界が認められる。然かし理想は常に彼岸にあるべきものである。曾て古人の理想であつたものでも、現實に吾々が之に即した時は、最早現實であつて理想ではない。吾々の生命は更らに他の理想の存することが必要である。即ち現實と理想とは生きてる吾々に必要的二要件である譯である。都市計畫、建築が吾々の生活其者である限りは、其の中にも所謂理想と現實とがなければならぬ。

到達を希ふ彼岸と、之に到るべき方便とは分かつて考へなければならぬ。而して理想（或は空想に近い）にも勿論階段があると信ずる。斯の點に就いて兎角、都市計畫の大家諸君の間に議論が岐れる樣である。殊に藝術氣分の豐な理想家の都市計畫に對する要求が、何時もこれである。彼の帝都復興を論ずる際に、東京の藝術家の諸君が唱道せられたとかいふ、都市計畫に藝術味を缺ぐことは、生きた人間の生活場所として無意義である。在來のものは之を缺いて居る。仍つて大に之を加味（？）する爲めに、藝術家の參加を要求する。（之に對して所謂藝術家の此際を利用しての失業救濟運動だと叫んだ失禮な批評者もあつた）而して大に藝術の粹を以て帝都を飾らねばならぬといふのである。當時（今日に於ても）復興事業の何を先にすべきが問題であつた。然かも此費用の半以上は、左なきだに貧弱なる、自己には都市計畫の都の字の恩惠も曾て得られなかつた、又生活の氣の毒な地位にある地方民の負擔で遣らなければならぬ。第一事業は何を遣るべきかであつた。必要と便利と快適との三階段ならば、便利と快適とは偖て措き、必要丈に止めなければならぬ國民生活の事情にあつたのである。將來に斯る美的建設物を設くる場所を存して、便利以上に費用の出せる時期を待つといふことならば、現實の論であらう。直ちに美觀其ものを即行しやうといふならば、理想と現實とをゴッチャにした議論となつてしまふ。理想としても、果して之が第何位の階段に置くべきかによつて不用の議論となつてしまふ。

（五）

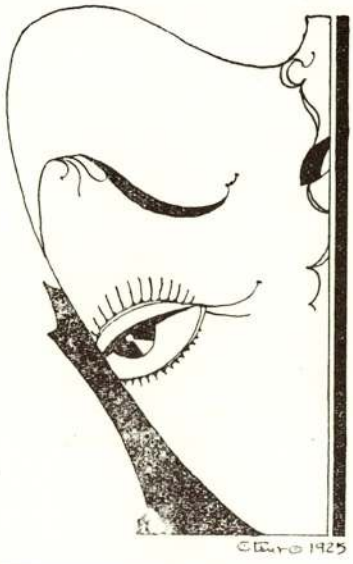
學者は吾人に誨へていふ。彼の北極のオーロラを現出せしむる陰極線は胚種に對して致命的な破壞力を有す、然かも之によつて生ずるX光線は空中の胚種を撲滅してしまふと。又た彼の太陽の紫外放射線は如何なる胚種も亡されることなしに、眞空を横ぎる事が出來ぬと。先以て人類の生活の場所は限られて居るものと考へる外あるまい。摩天閣を無制限にし

た所で、行き詰りはあると思はねばならぬ。去らばとて英吉利流に自然へ焦れつゝも、矢張り商業地は四階、五階重ねゝば生活を失つてしまふ。日本人なるが故に、樺太や滿洲に住む者は琉球臺灣の住宅では濟まされぬも、滿洲土着の人や樺太の人種又臺灣の生蕃諸君となつてしまふ事も不能である。

支那の建築は我國に入つて所謂文人雅客の好むところとなり本場の支那に喪はれて我國にのみ存する工法すらある。日本人の實際に住居して、精神的に物質的に、調法な住宅、安全な建築こそ、現實に於ける日本人の建築で、少くとも第一次㊟理想建築であらう。寒い所、暖い所に從つて。

この風景の悲しいルフラン

乳色の赤く濁つた水は
廣い河原を滿し流　れてゆく。
寂しい騷音の針金は
岸邊の枯れかけた草葦に　頭へてゐる。
陽は輝き　忽ち　萎れる
ああ　この風景の悲しいルフラン
蒼ざめてゆく歡喜……
私の哀しい旅心にも
はや秋はしのびやかに近づいてゐる。



都市計畫に對する市民の理解に就て田中氏に答ふ

伊東俊雄

五月號の本誌の一隅に掲載せられた拙稿『市民の理解を基調とする都市計畫』が、はしなくも、靜池に小石を投じたる感があつて、之に關連して白井、田中の兩氏が所見を披瀝せられた。予は先づ拙劣にして見る蔭もなき小稿が、兩氏の如き熱心なる人士によつて閲讀されたことを深く悦びとし、且之に對して懇切なる批判を垂れられた兩氏に對して深甚なる敬意を表するものである。唯遺憾とする所は、小生の筆其の意を盡さず、前號田中氏の『誤解されたる都市計畫と理解されざる其法制』に於て、手嚴しき論難を蒙りたる點であつて斯の如きは筆者の洵に意外とする處なると共に今更ながら吾筆の拙劣なるを恨むより他ない次第である。

然れ共玆に一言したいのは凡そ斯種論爭の原因は、對手の論旨の誤解に因るか、若くは意見の相違に出づるの二者に過ぎない。於之予は先づ最初に田中氏に對して、曩の拙稿を熟讀せられて、文辭の枝葉に囚はるゝことなく、其拙き文句の中より筆者の言はんとする處奈邊に在るかをよく玩味されむことを希望するものである。

次に予は不幸にして、同氏と其所見を異にする點の多々あるを深く悲しむ。氏は先づ『都市計畫の意義は誤解されたり』と云ふ命題を前提として、其原因を『識者の誤りたる宣傳と當事者の心なき作爲に因る』と論斷して居らるゝが、識者（？）の宣傳に因りたるか否かは知らざるも、此程都市計畫―否市區改正が外圍都市の華美壯麗を目標とした時代があつた。而して其結果として、現時に於ても民衆が都市計畫を以て都市の裝飾事業と概念してゐるものも寡からざることは認められる。かるが故にこそ吾等は常に『總てのための都市計畫』を大聲叱呼してゐるのであつて、前揭拙稿亦此膨湃たる時代の大勢に逆流することなく、總ては『市民のために』、『市民によつて』計畫せられ、實施せられねばならぬことを說いたものに過ぎぬ。氏の所謂『當事者の心なき作爲』とは意義不明で予の解し能はざる所であるが、其擧例とも思惟せらるゝ『大阪都市計畫事業が眞に大阪の健全なる發達を促進

するに忠實なるおでない云々』の點に至つては、予と氏との間に最早や到底踰越し難きギャップの横はつてゐるものと謂はねばならぬ。

予は此處には大阪都市計畫當局の代辯者たらむと欲する者に非ざるを以て、必ずしも理を曲げて之を擁護せむとするものではないが、都市計畫に改造、創造の兩面の存する事は斯道の專門家たる同氏に說くまでもないことであつて、大阪市長が現在爲さむとし、且爲しつゝある所謂誤謬訂正としての道路新設擴張乃至橋梁の改築の如き明かに前者に屬するものであり、而も其緊要の度に於て後者に優るとも決して劣らざるものなるが故に、今日此緊縮せる市費の中より巨額を投じて施行せむとするものなのである。

田中氏の說く、急激なる發達途上に在る郊外の準備的唱導や固より良し、而も市の中心部に於けるコンゼスションの狀態を如何に見るや。道路の効用は交通のみに止まらざること今更說くまでもないが、其一方面のみについて謂ふも、日夕雜沓し紛亂し、運輸の能率を妨げ、市民の道德を低下し、頻々として發生する事故を今日の儘に放任して顧みざる如きことあらむか、市長は實に殺人行爲を是認するものなりと批難せらるゝも辨解の辭がないであらふ。人各々意見を異にするは已むを得ずとするも、關係當局者が多年の調査と蘊蓄を傾けて之を立案し、尙衆議に諮りて決定を見て今日實施の途に在る都市計畫事業を以て『暴君的所業なり』と斷言し去つた氏の勇氣に至つては小膽なる予の眞に『唖然たらざるを得ない』處である。我邦に於ける現時の社會事情は、果して外國に於ける若干の實例の如く理想的都市の建設を許容し得るであらうか。夫よりは寧ろ先づ過去の過失に基く現存の禍惡を除くに全力を擧げざるを得ない狀態ではあるまいか。眉を焦くの火は如何なる犧牲を生ずるも之を拂はねばならぬ、況んや都市中心部の地價と郊外部のそれを比較して其得失を論ずるが如き悠暢な問題ではないのである。斯點に於て田中氏はキングスウェーの擴築に六百萬磅を投じた倫敦を以て愚とする論者の議論を踏襲せらるゝ如きも、余は郊外地の經營に依つて都市の中心部、就中經濟的中心は容易に移動するものにあらず、中心部は郊外の發達に拘はらず次第に交通量其他を增大するものであると信ずるのである。

然し、斯く云へばとて、大阪市が決して市の中心部のみを偏重して、周圍部を等閑にせむとするものではない。從來市長の事業執行を困難ならしめた行政區劃の差別が今春の市域擴張に依つて統一されたるを機とし、混沌たる舊市周圍部の改善郊外部に於ける土地區劃整理等に就いて着々計畫を樹立中であるから其具體的成案を見るも遠い日ではあるまい。

又都市計畫が道路計畫のみに限らざることは言を俟たざる處であるが、氏の謂ふ如くんば、『地域も地區も、道路網も運河網も、公園も軌道も鐵道も之等の計畫は凡て確立して——少くも當務者に於ては確立してあらねばならぬ』のであるが、斯の如き全般に亘る立案の如きは藉すに數年若くは十數年の長日月を以てするに非ずんば到底不可能の事であらふ。而も本市の如き發展の勢旺勃として一日の凝滯を容さゞるものあるに於ては、濫りに調査の範圍を擴めて時宜に遲るゝを容さないのである。大阪の都市計畫事業が何故に交通系統整正を最初の目標としたか、住宅問題、其他都市計畫事業とし

て爲すべき凡百の事項を後とせし理由等に就いては、大阪市市區改正部長直本博士以下が時の市長に對する復命書を一讀されたなら氷然として會得せらるゝ所があるであらふ。

予は交通系統の確立と、地域の決定とを以て現時の我邦都市計畫の根幹を爲すものであるとの信念は、田中氏の反對に拘はらず確く把持する所である。但予は決して獨逸の所謂街路萬能論者ではなく、都市計畫としての住宅問題、市場問題其他重要なるもの多々あるは夙に之を認め、今日に於ても機會ある毎に之が考究を懈らざる心算であるが、我現狀に於ては先づ地域を整正し道路網を確立して、都市將來の經營を統べ、併せて市民今後の施設を律する事が當面の急務であり、都市の改善發達に資する最根幹基本の事項であらねばならぬと信ずる者である。

氏は『道路事業には國庫の補助以外に受益者負擔金が徵收し得られるから之許りは大々的に都市計畫事業として執行されてゐる』と述べて居らるゝが、斯の如きは餘まりに穿ち過ぎたる見解ではあるまいか。受益者負擔金の如きは決して道路事業にのみ限るものではない。軌道、公園、港灣、上下水道其他總て都市計畫事業として執行するものについては、其享益者に對し負擔金を賦課し得らるゝものなることは都市計畫法を一見すれば直ちに明瞭なことである。之と反對に道路に對する國庫補助の如きも法規上確乎たる依據を有するものでなくして、殆んど之に依賴するを得ざる狀況にある事は、實務の衝に當らるゝ田中氏のよく氣付かるゝことゝ思ふ。

五月號所載の拙稿は畢竟するに、

一、大阪都市計畫區域内に於ける地域の決定を見たるも市民は之に對し無關心なること。

二、之等市民の無理解に就いては都市計畫當局の宣傳（言辭に嫌味があるが）が未だ足らざること。

を述べ、之に對比すべく米國に於ける該宣傳の實況を簡單に紹介したに過ぎない。

最後に、小生――若くは白井氏が職を市の都市計畫に奉ずる身なるの故を以て、大阪の都市計畫及之に附隨する施政に就いて批判――從つて批難を伴ふことのある――することを許されざるものゝ如き御見解に就いては、吾人は團體の構成分子としては、其團體の所業に就いて素より十二分の責を分つの義務と名譽とを有してゐる者であるが、又一私人としては該團體の決定し、實行した行爲に就いて必しも悉く謳歌、讃美する者でなく、時あつてか全然之と正反對の見解を抱懷することも有る者であることを申上て置き度い。

敢て借問す、田中氏は氏の職を奉せらるゝ地方委員會乃至は府都市計畫課の爲政に就いて悉く滿悅し讃唱せらるゝや。之が例を遠くに求めず、氏は本論中に於て『所有權に大なる制限を加へる此の地域制がそれに對して保護を與ふべき何等の施設をも計畫爲されないで單獨に施行されることは寧ろ批難すべきことではあるまいか』と述べて居らるゝが、抑も其の批難さるべき地域制を立案し、或は氏が暴君的所業と論斷せる大阪都市計畫事業たる道路の新設擴築を審議可決したのは、氏が其創立以來參畫せる地方委員會に非ずして何人であるか。予等に指向けたる批難の鋒先は、即ち執つて逆まに氏の胸前に擬して自殺を促す匕首たらずむば幸である。

惟ふに法制は素一般公衆にとつて緣遠きを常態とする。發

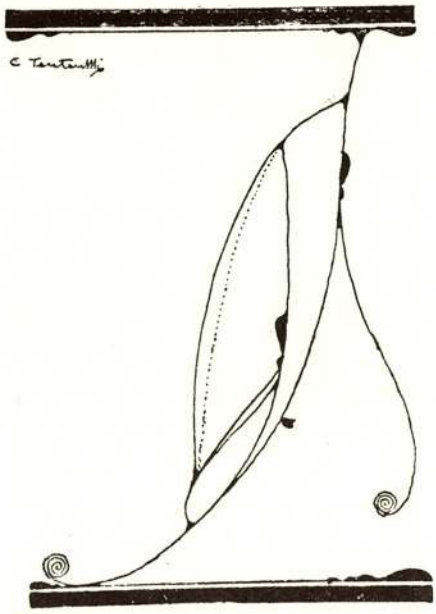
布以來既に數十年を經、日常生活に即して切實の關係ある法令にして尙且然り。要は其路に當る者に於て可及的其法の趣旨を周知徹底せしめ、以て其運用の圓滑を期すべき義務を有するものであり、吾人が前說も亦斯の趣意を敷衍せしに過ぎざりしものである。

本文の初めに述べたるが如く、誤解若くは見解の差違より起る本論の如き事項に關し再三貴重なる誌上を割く如きは、第三者たる讀者にとりて甚しき迷惑の儀なるべきを思ひ、本問題に關して予は本誌を煩はすことを欲せざる者であつたが偶々都市計畫の運行に關して一般の危懼を招く惧ある點があつたので、讀者諸彦の迷惑をもかへりみず、敢て再び茲に貴重なる數頁を割愛して頂いた次第である。妄言多謝。

一四—九—一〇稿

野井戸の小魚

晴れ渡つた大空に
鷹が大きく廻つて居る
時々　頭を左右にしながら。
私は　もうすつかり獲入れられた
田野の小道のそばの井戸
十年前と變化なく
水は底の銀砂を見せて
限りなく湧く。
小魚は獨り棲んで居る
じつと底に沈んで、朽葉の樣に
彼はふと小供に還つて
此の小魚を凝視する。（一四、九、二五、菊辻）



地震の豫防と震災の輕減

須田皖次

緒言

本稿は日本建築協會の求めに應じて去る七月末大阪實業會館に於て同會員のために三時間程講演をしたものを基として多少取捨斟酌を加へたものである。實は誠につまらない御話しなので雜誌になどのせて印刷物として形を殘して置きたい種類のものでないのと自分は目下種々の仕事を引き受けなければならない立場にあるので忙がしいのとで原稿を書く事もあまり氣が進まなかつたが編輯の方の御熱心に動かされて遂ひペンを取る事にした。

思ふに我が國の如く地震が多い國で而も地震に關する流言蜚語の多い所は少ない。此れは恐らく地震學其の物が發達して居ない事や地震學者が無責任な放言をする事にも一半の罪はあるが一面世の所謂先覺者と云はれて居る人々でさへも多くは科學的智識に乏しく此等の流言蜚語に對する正當な判斷を下し得ない事に基かなければならない。

私は過日北但地震に際して震央附近の田舍を視察中其の附近の治安を掌る可き警察署名で『舞鶴測候所の發表によれば明二十七日正午頃更に强震來襲の恐れあれば云々』などと麗々しく道傍の電柱や塀などにはり出されて居るのを見て驚かざるを得なかつた。一體舞鶴などに何所を訪ねても測候所などありはしない。こんな次第であるから私が此から述ようとする事も地震に關する一般の常識を增す上に多少の參考になり得れば幸だと思ふてペンを走らせる事にした。

昔の地震學と今の地震學

地震の現象は天氣現象と共に人類が此の世に出て第一に驚異を感じたものゝ一つに異ひない。日本人は極めて簡單に此れを地下の大鯰の運動に歸して鹿島の要石でこれを押へ付けようなど如何にも日本人らしい呑氣な考へ方をして居つた。

西洋に於ても早くから此の現象は多大の注意を以て觀察されて居つた。紀元前七百年も前にタレー、ド、ミレーは地震を以て舟が水上で動搖すると同樣なものと考へ其の原因は水にありとなした之が地震學說の最初のものと云ふ可きであらう。ついで有名な哲學者アリストテレスは地震の原因は風である即ち今日の瓦斯體說を立てたのである。此の學說は當時の學界を風靡して遠く中世期の頃まで伊太利地方に於て信ぜられたものである。セネークは地震の振動時間に長短ある事を發見して其の理由を研究した。これなどは稍々觀測に基礎を置いた研究方法と云へるであらう。ついで紀元七十九年ベスビアス火山の噴火に際して橫死したプリニユースは地震と其の發生する季節との關係を研究して地震は春秋に多く冬夏に少いと云ふ說を出した。これなどは其の說の正否は別として今日の統計地震學の始めとも見らるべきものであつて此の研究方法が既に二千年近くも昔に始まつて居ると云ふ事に注意すべき點が存在する。ついでプルタークは地震の原因として地球收縮說なるものを唱へ地震は地球が次第に收縮する爲に發生するものだと云ふ極めて進歩した學說を提唱した。

斯くの如く紀元年代に於て既に相當の發達を見た地震學も其後中世紀の宗敎運動の盛なのと地震の觀察が常に定性的であつて定量的でなかつたと云ふ二つの理由のために全く進歩を阻害されて何等の發達を見なかつた。

然るに明治初年に當つて我が國は急速に歐米先進國(當時の)の文化を取り入れる必要から外國から學者を招いて大學其の他に雇つたものである。此等の人々の中ミルン、グレー、ユーイング、ノツトと云ふ樣な物理學者は地震の頻發する日本に來て始めて夫れを科學的に研究する事の興味を覺え自ら地震計を作つて地震の觀測を行ひ其の結果を統一し始めて近世に於ける地震學の基礎を作つた。今でも古くから出來た測候所に行くと、當地參考にされた地震計が塵埃にまみれて室の隅に轉つて居るのを見るであらう。ついでストークスやロードレーレーなどによつて、地震に縱波と橫波の二種ある事や主要動は此の二種の波によつて出來た表面波であると云ふ樣な事が理論及び觀測から證明される樣になつた。一面また獨逸に於てはウィーヘルト敎授によつて新しい地震學が建設され主として地震波の觀察を基として地球の內部構造を探求する事に努力を費しつゝある。

我國では前記諸學者の後をついで、關谷大森の兩博士が主として地震の研究を續けられ殊に豐富な歷史的材料を用ひて地震の統計的研究に於て諸外國に一步をぬきんでた發達を示した、又一面地震帶の研究から地震豫報の問題にも一步を步み出して居る。然しながら此統計的地震學も關東の大地震でこれ丈けでは不充分だと云ふ事が遺憾なくあらはれた。そして學者の間に期せずしてもつと物理學に基礎を置いた地震物理學とでも名く可きものが新しく、建設されなければならないと云ふ事が暗默の間に一致した意見となつてあらはれた。今日の多くの地震研究者は大部分此の主義の下に研究を進めて居る筈である。即ち今は日本が此の獨得な地震學に改造を加ふ可き轉換期である。そして將來如何なる方面に發達して行くかは極めて興味ある問題でなければならない。

地震の源因に關する諸學說

地震學は以上の様な經過を以て次第に發達をして來たのである。從がつてタレード、ミレーの水動說を始めとして地震の原因に關して種々な學說があらはれて來た。其の中二三のものに就いて簡單な說明と評論を加へる事にしよう。

(1)**地球收縮說**。これは最も早く現れた學說であつて地球が次第に冷却するにつれて收縮する結果地表面は次第に側面から壓迫を受けて所謂皺を生ずる山や谷は主として此の作用によつて出來たものでこれから此の橫壓力を造山力と命名して居る。造山力が或る程度以上大きくなつて來ると地殼はもはや此に耐る事が出來ないで折斷される事になる。此れが即ち地震だと云ふのである。此の說は昔から勢力のある說で小學校の敎科書などにも皆採用されたものである。然るにキッソー夫人によつてラジウムが發見研究されるに及んで此の說明は次第に勢力を失なつて來た。即ちラジウムが其の放射作用によつて電子を放射する結果其の物質が變つてラジウムエマネーション、ホロニウム、ピッマス、鉛と云ふ樣になつて行く道程に於て多量の熱を發散する。ジョリーと云ふ人は此の發散する熱量を計算した結果地球が宇宙間に失ふ熱量よりも反つて多い位だと云ふ事になつて地球は必ずしも收縮して居ないと云ふ結論に到着した。東北大學の中村博士が北但地震の原因を此の地方に於けるラジウム放射能で說明しようとして居るとかで如何にも珍らしい樣に思はれて居つたが實はジョリーが十數年も以前に提唱した學說の反覆に外ならない。ジョリーの說は熱量の計算が非常に大ざつぱなものであるから俄に此の正否は斷定出來ないが兎に角くラジューム放射能なる大切な現象を考へに入れた所に新し味がある。從つて夫れだけ從來の地殼收縮說が勢力を失ふ樣になつたのは事實である。何れにしても此の說は適當に改造を加へて新しい物理的事實と適合する樣にしなければならない。

(2)**天體引力說**。これも各國の地震學者によつて太陽、月、地球の三者の相對的位置と大地震の發震時等の關係から統計的に或は地殼潮汐論などから理論的に研究されたものである。我國でも大森博士は明治三十九年三月臺灣に起つた四回の激震に就いて調査した結果によると此等の激震は皆月齡の零時か又は十二時の極めて近くに起つた事を發見した。即ち此の樣な時刻は臺灣に於て最も、强大な潮汐力の働く時である。此度の北但地震も月齡で云ふと丁度新月の直後に起つて來て居るから此の考から云ふと天體引力論に贊成し度い樣な氣もする。

然しながら實際正確に調査して見ると大地震が必ずしも此の樣な場合に起るとも限らない。從つて天體引力說を以て地震の原因となすのは『特別な場合を以て一般を律する』ものであつて論理的に不合理なるを免れない。

此れと似た問題に緯度の變化によつて地震が發生するであらうと云ふ考へがある。緯度の變化にも二種類あり得るもので一つは地球の自轉が原因となつて約十四ケ月ばかりの週期を以て變化するものと、他は緩漫ながら永久的に除々なる變化をなすものとである。此處で云ふ緯度變化とは主として前者であるが、これはミルン博士や大森博士によつて種々調べられたが充分な結果には到着しなかつた。思ふに此等外力の變化は主として地震の誘因の一つとしては働くであらうが原因にはなり得ないものであらう。實際に力の變化を計算して見

ても小さいものだし又た統一した結果を得ないのも其の爲であらう。

(3)**空中電氣地磁氣說**。これは空中電氣地球磁氣などの變化が地震を起すであらうと云ふ考であつて地磁氣や地電流などの異常變化と地震の發生とを結びつけて此の兩者に密接な關係があるものとするのである。安政二年の江戸大地震や明治二十九年の三陸の大津浪や同年の陸羽大地震明治三十八年四月印度のコングラ地震などには皆其の發生の前後に地磁氣の異常變化を觀測して居る。又た先年關東の大地震の際には仙臺大學で地電流の異常變化を觀測したと發表して居る。此れと關連した問題で太陽の黑點が地震と關係を有つであらうと云ふ考へから東京帝大の寺田博士などによつて研究されたが決定的な決論には到着しなかつた。思ふに地球は一つの大きな磁力であると同時に電流の流れて居る導體である。從つて此れを包む外界の磁場や電場の變化が地球に及ぼす、電磁力に影響するは當然である。それ故此の考へは仲々面白い點があるけれども現在地電流や空電の觀測が不充分のため理論からも實際からも此說の正否を判別する材料がない。唯だ將來の研究結果を待つより外に仕方がない然し恐らく此等外界の電磁場の變化も地震の誘因の一つではあるまいかと思はれる。

(4)**地殼平衡論**　地球は內部に入る程其の溫度壓力が增すと同時に密度も增して居つて極く中心に近くなると殆ど鐵に近い比重を持つて居るであらうと云ふ事は地震波の研究から到着した重要な地球構造說の一つである。そこで此の比重の大きい物質が如何なる狀態にあるかと云ふ事は各學者によつて意見を異にして居るが或る深さに於いて靜水壓の狀態にあるであらうと云ふ見解は或る程度まで自然なものでなければならない。即ちある深さになると丁度盥の中に水を盛つて靜止せしめて置いた時の樣に其の中の一點では各方向の皆等しい壓力の狀態でなければならない。密度の小さい大陸や密度の大きい大洋底などは皆この等壓層の上に浮いて居るものに外ならない。そして風化其の他河川によつて陸地から海岸に土砂が運ばれて重くなると除々に海洋底では直ぐ此の等壓面の上で海から陸に向つて物質の移動が行れて平均が保たれる。此の所謂海陸が平衡して居ると云ふ說は始めダットンによつて提唱されヘイフォード其の他によつて地質學的數學的に說明されたものであつて、其の等壓面の深さは約六十粁から百二十粁位であるとした。そしてもし此の平衡が何等かの理由で破れると地震が發生すると云ふのが此の說が地震の原因を說明し得る理由である。多くの地震が主として大陸と大洋との境界地方に多い事や地震の震源が多くは五六十粁の深さにある事などは此の說が力學的に可成り有力だと云ふ事を示すものでなければならない。兎に角く此の說は或る程度まで事實を根據として物理學的に推論して行く所に强みがある。

(5)**陸地移動說**。この說は近頃喧しいものであつて其の思想は今に始まつたのではない。然し大陸が次第に移動すると云ふ說を明確に立てゝ主張したのはジョリーとエゲナーの二人であるジョリーは地質學的の見地から今日の五大洲は必ずしも生成の始めから此の如く離れ離れになつて居つたものでなく相當に密集して居つたものが陸地が除々に長年月間移動する結果今日の如き狀態になつた者で此の移動は現在でも行はれつゝあると云ふのである。エゲナーの說は此の理論の根據

を力學に當くものであつて前にも述べた樣に大陸や海底が岩漿の上に浮いて居るものとすると地球の自轉のために生ずる遠心力や天體の引力や季候風等のために陸地が移動して行くと云ふのである。この說に從へば陸地移動の不同な二つの地方の境は最も多く無理を受ける筈であるから此處に地震の起るのは當然である。近時中央氣象臺の藤原博士が唱へて居る陸地渦動說なるものも此移動說にヒントを得たものであらう此の說は未だ諸種の學者によつて論議せられ事實の證明を經て居ないものであるが地震の原因やこれに伴ふ土地の隆起や陷沒を說明するのには極めて都合のよい說である。

(6) **塊裂運動說**。これは最近我が國一部の地質學者によつて唱へられて居るものであつて大地震に際し大小幾多の斷層を生ずる結果から地震の原因は土地の塊裂運動にありとするものである。これはあまりに地震の際に生じた斷層等に重きを置きすぎるものであつて其の塊裂運動なるものが如何にして生ずるかを說明しない限り有力なる說とはなり得ない。

此れを要するに地震の原因に關する學說も諸說紛々として定まる所がない。言ひ換れば地震の眞の原因はまだ判らないと云ふ事になる。此れは在來の地震の觀測方法が惡かつたためであつて將來地震に關係する諸種の物理的現象を觀測研究する事によつて始めて確立さる可きものである。

大地震の發生に必要にして充分なる條件

前述した樣に地震の原因が充分明瞭でないものとすると地震の豫報と言ふ事は全く不可能な事の樣に考へられる。然しそう悲觀したものでもない。力學が我々に敎へる所によると地震の原因は何であるにせよ地震の發生するに必要にして充分なる條件は強大な或る力が永續的に其の震源地方に働く事と而もそこに舊斷層線の樣な弱線が存在して居る事である。今日の力學の法則に從ふと大地震は長い間地殼內に歪として貯へられたポテンシャルエネルギーが一時的に發現したものだとしないと說明出來ない。此の歪を除々に地殼內に生じて行く力が所謂起震力と名づけられて居るものであつてそれが如何なる種類のものにせよ震源其のものの中に發生するものではなくつて震源以外の地域から震源地域に向つて作用するものである。

ある地域に如何なる起震力が働いて居るかと云ふ事は直接には觀測出來ない。然しもし吾々が後節に述べる樣な起震力が働く結果除々として震源地域に生ずる所謂地震の前兆とも云ふ可き物理的現象を觀測する事によつて其の存否や大小を知る事は決して不可能ではない。

次ぎに相當起震力が大くて永續的に働いたとしても其の附近が皆一樣に非常に强剛な地質であるとすると大地震は仲々起り難い。夫れ故起震力が强大であると共に其の附近に弱い所があると云ふ事が大地震の發生には是非とも必要な條件である。よく材料試驗の際に見る樣に弱線が試驗力の加はる部分から可成り遠く離れてある場合でも其の程度によつては思ひ掛けない所で切斷する場合が時々ある。これと同樣に起震力の働く場所と其の結果のあらはれる場所とは可成りに離たつて居る場合があり得る筈である。そしてかゝる事柄が地震をして益々複雜なものにするであらう。弱線の存在は或る程度

まで過古に於ける地震活動の歴史や其の地方の地質や地形の研究から其の大體を察する事は決して難くない。茲で一寸現在世に唱へられて居る所の地震帶なるものゝ意義を明にして置きたい。今日では誰でも地震帶と云へばよく、判つて居る樣なつもりで素人でも外側地震帶の活動だの淀川地震帶がどうしたのと云ふて居るが此れなども實は色盲にかゝつて居る事を示すよい例である。地震帶と云ふ名前でおぢかされてそれに對する何等の疑問をさしはさまないのだから問題にならない。

一體現在世に唱へて居る地震帶なるものは過去に於て大地震が起つた地點を人間が任意に連ねたと云ふに過ぎない。然しながら前に述べた二つの條件の中何れを有するものか二つの條件を兼備して居るものかと云ふ樣な根本的な物理的の條件は少しも判つて居ない。自分が七月號の本誌に『何々地震帶の活動だ』と事ふのは誤間化しに近いと云ふたのは此の意味があるからである。思ふに構造物の弱線なるものを調べて見ると多くは帶狀をなして居る、從つて私は地震帶なるものを茲に否定しようとするのではない。更に此に明瞭な、物理的意義を有つ樣に研究を進めて行かなければならない事を力說したいからである。地震豫知問題の如きも地震帶の此の性質が明瞭になつて始めて解決さる可きものに外ならない。

自然現象の豫報

豫報と云ふても種々雜多で素人でも云へるものもあれば專門家に俟たなければ判らないものもある。また豫報に必要な三要素のかげて居るものなども少くない。然し科學的の豫報と云ふものは必ず其の現象が起る時と所と强さとを或る極限された範圍で指定し得るものでないといけない事は七月號に詳論した通りである。所で如何なる場合に此如き科學的豫報が可能であるかと考へて見ると大體次ぎに述べる樣な二通りの場合に限られる事になる。即ち第一は其の現象が或る一定の週期を以て繰り返して現はれる場合であつて此の方面で最も成功して居るのは天文學である。日出日沒の時刻や月の盈虧や其の他週期的に起る、現象は殆ど分秒の相違なしに豫報出來る樣になつて來た。これは一面から云へば此等の現象が規則正しく週期的に起る事と一面多くの古の天文學者が死を賭しても尙ほ且つ熱心なる觀察をなした賜物であつて今日我々が易す〳〵と其持つて居る時計を正時と合す事の出來るのも其の蔭に幾多の科學者の犧牲的努力がひそんで居る事を思はなければならない。

然しながら自然現象は必ずしも此如き一定週期を以て現れるとは限らない。事實に於て定週期を持つた現象なるものは少ない。夫れ故統計的乃至幾何學的方法で其の發現を豫知するのは極めて困難である。

思ふに宇宙間に於ける諸現象は一見雜然として其の間に何等の關係も存在して居らない樣であるがこれは詳細に觀察すると其の各の間に不離不即の因果關係が存在して居るのを見出し得るであらう。佛道の所謂大悟徹底と云ふが如きも此の因果關係を靜觀する所に發するものであらうし物理學の如きも此の基礎の上に立たなければならない。豫報の可能な第二の場合は即ち此の前に發生する事象も其に繼いで後發する現象との間に顯著な因果關係の存する場合である。此の前に發生

する現象を便宜上茲に前兆的物理現象と呼ぶ事にしよう。今日の天氣變報も氣壓、氣温、雲量、雲形、風向、風力と云ふ樣な前兆的物理現象と天氣との因果關係を研究した結果を實際に應用したものであつて不規則な週期を有つた自然現象の豫報としては可成り成功して居る部類であると云はなければならない。

現象が偶發的のものであるならば之れは全然人力では豫知さる可きものではない。よろしく大本教あたりの御旨介になる可き代物である。

從つて或る自然現象が豫知出來るか否かは其現象が週期的であるか否か因果律に支配されて居るかどうかと云ふ二つの事柄で決まつてしまう。もし此二つの何れにも這入らないものを對照として豫報の問題を議論研究するのは全く化物を相手に角力を取る樣なもので愚の骨頂と云はなければならない。地震の豫知が可能か否かと云ふ事も此の見地から議論を進めなければならない。

大地震の前兆的物理現象と地震豫報の可能性

大地震は多くは外見上突然的偶然的に發生するのが多く一寸考へると科學的豫報の埒外に入つてしまいそうであるが詳細に調べて見ると必ずしも豫知不可能なものではない事が判つて來る。即ち大地震には必ずこれに伴ふ前兆的物理現象なるものが存在して居るし又前述した起震力が强大で、永續的に働くと云ふ大地震の發生に必要なる條件からでも理論的に當然な解決として前兆が發生しなければならない筈である。そこで此處には今まで觀測されたる前兆乃至必ずあらはれなければならないと想像さるゝ現象と夫等を利用しこの豫報問題に就いて自分の私見を提案する事にしよう。

其の前に在來我が國で行れた地震豫知方法と其の正確度に就いて一應の說明を試みる事にしよう在來行れた豫知の方法は大體に次ぎの四つである(一)大地震の發生前に其の前震と名づく可き小地震が頻發する場合がある(二)統計的研究の結果或る地方では大地震はある一定限度の週期を以て發生する事(三)或る地震帶上に於ける震源の移動分布から次期の地震發生を豫知する事(四)動物等の擧動から判斷を下すもの等である(一)に就いては安政元年六月十五日の伊賀伊勢の大地震や明治二十九年八月三十一日の陸羽國境地方を侵した陸羽大地震や大正十一年十二月八日の島原地震の樣に顯著なる前震を伴ふ場合には、誰れ人も、危險の狀態にあるのを豫察し得べく縱ひ二三時間前にでも大地震來を知り得たならば其の爲に被害の輕減は蓋し莫大なる可く此のものの觀測は地震豫知上有力なものになる。然し大地震は實際前震を伴ふよりも寧ろ關東大地震や北但地震の樣に無警告に發生するものが多い。從つてこれだけでは始末が惡い何とか更に精密な觀測をする方法を案出する必要がある。(二)に就いては所謂豫報なるものが二十年も三十年も違つて居つても差支がないと云ふのならば少し昔から地震の多い地方だと其の歷史地震の幾つかを取つて平均週期を求めただけでも可成りな程度には正確さを有つて居る。然しながら學問的に見て地震の樣に地殼生成時代から將來地球が死の狀態に達するまで幾億年間連續的に發する現象に對して、其の間隔年數の極めて不規則不同な、然

も少數な材料から求めた週期に三文の値打もない事は統計學の一頁を繙いた人はよく知つて居る可き筈である尙ほ此の說の缺陷は求める人々によつて其の地方の大地震の週期が異つて來る事である。或る地震學者は二三十年ひの誤差はあつても結構だ。反つて其の方が事前に警告を發して社會をして地震に對する充分の用意と覺悟をさせる事が出來ると云ふて居る。所が此の程度の豫報なら今日では敢て學者を俟つ必要がない事だ。小學校の卒業生なら出來る仕事であつて國家は高給を以て算術の先生を養ふ必要は少しもない。此の頃の流行の計算機でも買ひ入れる方が何程の得策か判らない。

(三)の地震帶上に於ける地震活動の移動に就いては大森博士等によつて種々研究されて信濃川地震帶などでは可成り統一した結果に到着した樣だが、前にも述べた樣に地震帶其の物の物理的性質が判らない以上、或る程度まで兒戲に類する科學的放言たるを免れない。唯だ將來多數の材料から地震發生の同一地震帶上に於ける時間的空間的分布から推論して其の分布則を確立する事は必ずしも不可能ではないであらう。

(四)に就いては主として俗間に流行して居つたものであつて今日少くも其の道の專門家でこんなものを問題にして居る者はないが、俗衆に迎合しようとする新聞紙などが時々飛で、もない出鱈目を書き立てゝ讀者を迷はすから、茲に一言を加へる事にするが、雉子や鯰や猫や魚類や鰐と云ふた類のものが地震の來る前に異常な叫聲や身振などをするのは、主として既にそこには地震による初期微動が來て居るのであつて、地震は既に起つて居るのである。即ち地震を豫知するのでなくつて人間などより稍微動に感じ易いと言ふに過ぎない。大森博士は雉子に就いて精細な觀測を行つて前述の樣な決論に到着した。尙ほ動物は地震以外の類似の微動でも騷ぎ立てるから夫れ等の擧動が當てになる筈がない。茲に記して下らない新聞記事などに迷はされない樣に御願して置く。

此如くして在來の地震豫知の方法は其の經費が僅少で然も誰れでも其の道に少しく携はると出來る樣な簡單至極のものであるからして、もし此の方法で科學的豫報が可能であるならば是に越した良法はないのであるが、如何せん前記の始末では大體の目安さへも付け難い次第である。それで更に茲には費用其の他の點は考慮の外に置いて理論上如何なる方法に從へば地震豫知が可能になるかと云ふ事を述べて批正を仰ぎたいと思ふて居る。勿論此等の方法は必ずしも地震豫知が目的ではなくつて、寧ろ地震其の物の性質を究めるに必要と信ぜらるゝ新研究方法に過ぎないが、唯だ夫れがたま〳〵豫知上の助けになるものだと云ふ事を斷つて置く。尙ほ此等の方法が果してよいものか悪いものかは實地にかゝる觀測研究をやつて見て更に次期大地震の洗禮を經て證明されない以上一つの理想案に過ぎない。然し世を擧げて地震豫知問題で頭を惱して居る際であるからして、たとい私案なりとも提唱し識者の批判を受ける事は決して悪い事ではないであらう。

(ロ)微動觀測。茲に云ふ微動なるものは今日の地震計が記錄する程度のものでなく夫れよりも更に小さいもので振幅が一ミリの百萬分の一と云ふ樣な微細なものを指すのである。一體地震の起る樣な五六十粁の深さになると非常な高温と高壓の下にあるからして岩石の力學的性質の樣なものでも地表面にあるものとは大いに趣を異にして一般に或る程度まで粘性體

の性質を有して居るだらうと信ぜられて居る。然るに粘性體に除々に力を加へて破壊する場合を見ると始めから大破損が起こるのではない。最初は微細な小破が起つて次第に大きく破壊し行く此の道程が地殻にも當てはまるものとすると大地震の前に必らず前震があはれなければならない事になる。また純理上の立場から云ふても突然に大破壊が起ると云ふ事は現象の連續性と云ふ事から考へ難い事である。尚ほ地震計の倍率の大きなものが出來るとそれに從つて微細な震動が觀測される事を考へてもとても人間や普通の地震計で感じない様な微動が存在して居るだらうと云ふ事は想像に難くない。夫れ故適當な方法で此の微動の觀測を行ふ事は地震豫知上大切な事になる其の方法としては在來の機械的方法では到底不可能であつて光學的か電氣學的のものでなければならない。目下自分も此の方面の研究をやつて居る其の詳細は何れ他日適當な機會に於て御話出來る事と考へられる。

(2)**土地の隆起又は降下の觀測**。前に述べた様に大地震の發生する様な地方は必ず永續的に強大なる起震力が働いて居るからして地下に於ける歪の狀況が一部分地面上にもあらはれるであらうと云ふ事は決して想像に難くない。事實昔から大地震のあつた様な所では大抵緩漫前兆の一つとして陸地の上昇か降下を來たして居る。其の顯著なるものは明應七年の東海道地震の時には其の前兆として陸地が次第に上昇して江の島が陸續になつた事を記錄して居るし關東大地震の前兆としては三浦半島や房州方面の海岸が次第に降下して海水が陸地内に侵入して來たし北但地震では圓山川の河口附近が永い間上昇運動を續けた事を示して居る。陸地の内部では海面の様な目安がないから一寸人目には付かないが、精密な水準測量の結果から見出し得るに相違ない。これが觀測としては海岸では檢潮儀によつて陸上では水準測量で結構であつて、地震發生の恐れある地方には是非共かゝる觀測を行つて地震發生と此等現象との關係を精確に見出す必要がある。

(3)**地殻斜傾動の觀測**。土地の上昇や下降運動は廣區域に亘つて一様に行くものでない。また事實廣區域に亘つて一様に行くものならば實際大地震は起らない。寧ろ此等の運動が不一様な所程危險な筈である。即ち土地の傾斜動の盛な場所は最も警戒すべき場所である。此の問題もつとに地震學者の注意を惹いたものであるが不幸にして未だ我國では精密なる觀測をやつて居ないために如何なる程度の傾斜動を現したら地震が發生するかと云ふまでには判明して居ない。アメリカのシカゴ大學のマイケルソンと云ふ人は長さ五百米もある水準器を作くつて其の水面の變化から地球の剛性を測定した時の副産物として地震の起る前に此の水面に急激の變化が起ると云ふ事を發見して學界の注意を惹いた。先年今村博士が地震豫知機(これは或は新聞屋の自己流に付けた名前かも知れない)として世を賑したものも此の傾斜計に外ならない。この觀測も一ヶ所や二ヶ所据付けたのでは大して効目がない。成可く全國的に澤山の場所で觀測し其の結果を統一して始めて各地の相對的運動が明瞭になつて地震豫知上に貢獻し得る事になつて來る。これだけに豫知機などと云ふ名を冠した不都合は説明しなくも判る事であらう。マイケルソンの水準器は其の規模が大きく一つを作るにも莫大の費用が掛るので自分はもつと簡單で同じ程度に精測出來る傾斜計を考案中である。

(4) **土地の水平移動の觀測**　是も大陸移動説などから説明しなくとも地震豫知上大切なものだと云ふ事は判る事と思ふ。此の方法としては直接天體觀測による方法と無線電信を利用して正時を受信してそれから決定する方法と二種類ある。今では佛國のボルドウ無電局から正時を出して世界の殆ど各國でそれを受信して土地の緩漫なる移動の研究に資そうとして居るから此の方面で近き將來に一生面が開かれる事と信ずる。我國でも東京天文臺と私の所とで受信して其の調査を續けて居るがこれも二ケ所位では何等の効果がないから是非全國測候所で一齊に實行して貰ひたいと思ふて居る。

(5) **地下水温泉の觀測**。大地震の前兆として地下水や温泉の湧出量や透明度に違ひを來したと云ふ事は一々例を上げるまでもなく澤山ある事であつて決して珍らしい事ではない。ただ地下水や温泉は直接外界殊に降雨量などの影響が多いから此等外界の影響と地震發生に原因する夫れとの區別を付けるのに種々なる困難を感じる。然し理論的にも地下の歪が變化するゝ其の湧出量や色などに變化を來すであらうと云ふ事は證明される事であつて、成可く外界の影響の少ない様な深い井戸水や堀抜井戸乃至は温泉の如きものは其の湧出量、色、透明度成分等の變化を精細に觀測してそこに地震發生に關する密接なる關係を見出す必要がある。それと同時にかゝる變化が顯著に現れた場合には是非專門家に報告して調査して貰ふ樣にしたいものだと思ふ。

(6) **重力の水平分力の測定**。これも地殻の内部に於ける狀態を探究する一つの方法であつて割合に小額の費用で實行出來るものである。元來重力の方面は地球中心に向つて居るものと考へられて居るが精密に申すと多少偏位して居るのが常である。何となれば地表近くの山や谷の如き地形的影響が加はるからである即ち水平分力を有つて居る事になる。前に述べた樣に地下内部で物質が移動するものとするとこの移動は多少とも水平分力に作用す可き筈である。從つて精密な測定から逆にある。地方の重力の水平分力の變化から地下物質の移動引いては其の地方の歪の狀態を知る事も決して難くない。これも測地學者によつてぼつ〳〵我國でも行はれて來て居るが充分とは云へない。これと關聯した問題で大切なものは各地方に於ける地磁氣の觀測である。果して地下で物質の移動が行はれるとすれば。其の地方の地磁氣の水平分力や偏角に變化を來す筈であるから此れも重力の測定と同一程度に大切なものである。

(7) **地震波の研究**。地震波は震源から發して地下内部の狀態を我々に傳へてくれる唯一の材料である。從つて地震波の觀測を正確にして其の波の傳播する模樣から地中の狀態を察するは極めて大切な事である。一般に地殻を構成して居る岩石に歪を加へれば加へる程其の中を傳はつて行く地震波の速度が大きくなると云ふ事は日下部博士の岩石の深い研究の結果から得た結論であつて、博士は此の性質を利用して地震豫知方面に一生面を開拓した。卽ち或る地方に於ける地震の傳播速度の變化と其の進行方向の變化とから其の地方に於ける地下歪の狀態を察し地震豫知に資さうとするものであつて、其の爲めには是非共地方測候所の時計を一秒以内に正確にする必要がある。此の方法は現在我が國の地震學者によつて、ぼつ〳〵研究されつゝあるが、如何なる程度の速度の變化に達し

たならば地震が起ると云ふ程度までには進んで居ない。此れは今後に於ける觀測結果によつて證明さる可きものである。此の外地震計の記錄から地震の頻發する地方の發震力の大きさや方向から其の部分の歪の狀態を察す可く、此の方面からも地震波の研究は大切なものになつて來る。

(8) **地殼潮汐の觀測**　地球は一寸考へると全く固い玉の樣に考へられるが、種々の觀測から外力によつて動くものである。從つて月や太陽のために生ずる潮汐力によつてもあたかも海水に滿干を生ずる如くに地殼の變形を生ずる。この變化を地殼潮汐と名づけて居るのである。此のものは一日または半日の一定週期を以て規則正しい運動をして居るものである。所が地震發生の近くになると地下内部の歪力のために此の地殼潮汐に變調を來して來る事が多い。それ故此の觀測も地震豫知上大切なものである。

(9) **高温高壓の下に於ける岩力の力學的性質の研究**　前に述べた樣に大地震の起る深さは地下三四十粁から五六十粁位である。所が此の位い深い所になると温度も三四千度に達し壓力も七八千氣壓と云ふ樣な非常な高温と高壓の狀態になつて來る。

夫れ故此の附近を構成して居る岩石の性質も勿論地表面にあるものと異なつて來なければならない。前に多分粘性を帶びて來るであらうと申したのは、常温に於て粘性を有する物質でも温度を低下すると著しく彈性を帶びて來る所から想像したもので精確に研究の結果ではない。前述した幾つかの地震豫知の研究方法は主として起震力が働いた結果起る所の前兆の觀測を目的として居るものである。從つて結果は判つて居つても震源を構成して居る物質の力學的性質が判らない以上如何程の起震力がそこに働いて居るかは見當がつかない即ち地殼なる試驗片の性質も判らず起震力なる試驗力の大きさも不明な問題となるから、此の問題は全く數量的に取扱ふ事の出來ないものになつて來る。換言すれば震源を構成して居る岩石の性質が判明しない以上如何に前兆の豫測を熱心に實行したとて地震の豫報は不可能な事になる。あたかも人形を作くつて眼を入れない樣なものである。

從つて相當の費用を掛けても之れは是非研究しなければならないものである。唯た此の研究は一實驗室内で人爲的に高温高壓を作つて行ひ得る便宜がある。然し實驗上には非常な困難の伴ふ事を覺悟しなければならない。

以上數項に亘つて地震豫知に關する私案を略述したが或は此れ以外にもつと適切な方法があるかも知れない。夫れは將來物理學が進歩して物體の破壞等に關する研究が進むで來れば當然の結果として起つて來る問題である。然し現在の學問では此の程度の觀測研究を全國の出來るだけ多くの地點で實行して其の結果を統一したならば或程度までは地震の原因等も明瞭になつて、地震の豫報が可能になる時が必ず來るであらう。上記した方法は説明が簡單であるから一寸した費用と人力で足りる樣に思はれるが其の中の一つを實行するにしても各專門家と莫大の費用を要するものであつて仲々容易なものではない。

此の樣に考へて來ると地震の研究なるものは決して地震學者の專有に屬す可きものでなくつて自然科學に從事して居る人々の總動員によつて始めて完成さる可き大問題である。自分

はせめて其の一つなりとも徐々に實行されて行つたならば幸ひであると思ふて居る。

思ふに日本の如き大地震國に於て平均四年に一度位ひの割合で烈震に見舞れる地方では此の如き觀測は一日も早く實行しなければならないものであるが、單に此を國家にのみ依賴して居つては到底實現さる可きものではない。大地震の如き一度發生すれば其の地方全體が大慘害を被る種類のものに對しては、やはり其の地方民の自治的精神によつて事を未然に防ぐ手段に出なければならない。此の意味から大都市の一般住民はもとより殊に其の有力者や有識者たるものは其の地方の治安の上から自治的精神に基き此の如き根本的な觀測方法が一つなりとも實現される樣、出來るだけの援助を與へられる事を希望して止まない。

大地震の原因

以上の如く今日の地震學では地震の豫知と云ふ事は殆ど眼鼻が付いて居ないと云ふてよい。又將來前述した樣な種々な觀測を行つたにしろ其の結果を統一して一般世人が滿足する程度の科學的豫報の出來るのは多くの學者の努力が高く高く積み上げられた後であつて百年後だか千年後だか判らない。よし又た大地震の發生が確實に判る時代が來てもそれを中止させる事は出來ない。從つて震災豫防の研究は地震豫報の確實性が增せばます程必要になつて來る。早い話が明日正午に關東大地震に匹敵する大地震が假りに大阪に起ると云ふ豫報が絶對に信用し得るものとすると恐らく現在の大阪の住家と都市設備とでは誰れでも安んじて職に就いて居る者などはなくなつて總ての機關の活動も停止して震災に劣らない騷動が起り得る即ち地震の豫報が確實になればなる程各住家や都市的社會的施設が其地震に堪へると云ふ自信が付く樣にならなければ其の豫報も大した効果がない。從つて地震豫知問題と震災豫知乃至輕減問題は並行して進むで行く可きものでなければならない。我國には濃美大地震の後を受けて文部省に震災豫防調査會なるものが出來此の方面では各國に比ぶるものゝない程の進歩を示した。惜いかな地震學其のものが稍や後れて居る形である。自分は前述した樣に、地震其のものに就いて研究しなければならない問題が山程あつてどれから着手してよいか迷つて居る程である。夫れ故地震の豫防と云ふ問題に對しては頭を突き込む暇もないしまた日本には其の道の權威者も澤山居られる事であるから其の人達の研究に任せて決して手を當分觸れ度くないと思ふて居る。千手觀音の眞似はしたくない。然し自分が北但地震や關東大地震や島原地震で實地に見聞した事を發表して此等學者の研究上多少なりとも參考になれば幸と思ふから茲に此の問題に對し數言を費したいと思ふて居る。

七月號にも述べた樣に大震災は必ずしも大地震に伴はない。地震の强さと震災の程度とは必ずしも比例しない。然らば大震災の原因は何であるか先づ此れから先に解決して行かなければならない。

思ふに大震災の原因は大凡次ぎの二つに歸する事が出來る。即ち第一は大地震の發生である。こんな事は說明を要するまでもない。第二は人口の稠密と文化の高調と云ふ事だ。一體災害なるものは人間に對して云ふ言葉であつて他の猿や虫け

らの様な動物に對する言葉でない。從つて無人の境に大地震が起つても大震災は決して起り得ない同樣に眞の文化が高調に達し如何なる天災に對しても抗し得る施設が完成して居るならば多少の震災は起つても大震災は起らない。然し儘にならない浮世ではこんな完全な施設の出來よう筈がない。從つて各種の文化的施設が多くなればなる程震災を大くして行く恐れがある。いはんや今日流行の文化的施設に於てをやだ日下部博士は曾て『震災は文化の發達に比例する』と喝破されたのは寔に至言と言ふ可きである。

更に震災はこれを起す原動力の如何によつて大體次ぎの四種類に分ける事が出來る。即ち第一は單なる激烈なる地震動によつて起る災害であつて大地震に際し平地に建て居る建物煙突其の他の構造物が單なる地震動のために破壞倒潰しこれに伴ひ人畜の死傷するの類であつて此の震害は地盤の低平な軟弱な都會地に於て最も甚しい。第二は大地震に伴なつて起る火災による災害であつて既往に於ける大震災の八割は主として此の火災によつて生じたものである。其の主なる原因は消防機關の破損、給水の不足、人力の不足とか主要なるものであつて、やはり密集せる都市に於て最も猛威を振ふものである。第三は大地震に伴ふ山崩れ山津浪の樣な地變によつて起る災害であつて主に山嶽地方、河川、湖海の沿岸地方に於て甚だしき災害を呈するものであるが前二者に比較すると一般には範圍が狹く程度も小さい。ただ時には弘化年間の善光寺地震の如く大山崩れの結果信濃川を堰き止め其の上流の數ケ村が皆水底に沒したと云ふ樣な大慘害を起す事もあり得る。

第四は震源が海中か海岸近くに存する場合に時に津浪及び海震によつて生ずる災害である。海震による災害はひどくて漁船や汽船の沈沒する程度であるが津浪の災害は遙に之れよりも大である殊に淺く深く陸地に入り込んだ灣頭に於て最も猛威を振ふのが常である。然しながら此れも第一第二による災害に比較すると場所が局限されるだけ全損害は一般には少ない。然し時によると明治二十九年の三陸大津浪の樣に地震は殆ど感じないで世界未曾有の大慘狀を呈することもある。此如く震災の原因は大體上記四種の中に入てしまうから從がつて震災の豫防と云ふ事も如何にして此等原動力に抗するか如何にして原動力の作用を輕減するか廻避するかと云ふ事に歸着する。

大地震の豫防

我國には耐震建築耐震構造物等に對して佐野博士を始め内藤博士や物部博士の如き權威者が澤山居つて、各獨特の研究を進めて居られるから其の方々の學說を應用さへすれば多大の費用を掛けなくとも耐震耐火の施設が出來るものであらうし自分は全然素人だから其の方法が判る筈もないから自分が一住人として建築家に希望する點を述べて見たい。先づ耐震建築としての希望を箇條書にすると。

(1)第一には前に本誌にも述べた樣に在來の耐震建築には主として加速度丈を考に入れたが、もし能き得れば地震動の振幅や週期も共に考へて貰ひたい事である。換言すれば地震波のエネルギー其のものを設計上の考慮に入れてほしい。其の理由は前に詳論したから此處には略する。

(2)第二には在來上下動なるものは水平動に比較して非常に小

さいものと考へられて居つたが、夫れは主として完全な上下動地震計がなかつた罪であつて、近時優良なる地震計の觀測結果によると震災地方の烈震區域内では殆ど水平動と比較し得る程度の上下動の存在する事が明になつた。從つて此れに對する加速度も設計の時考慮に入れる必要がありはしまいかと云ふ事である。

(3)第三には耐震建築物では出來上つてしまつてから其の强さを知る方法として地震計を應用して其の建物の自由振動の寔期なるものを測定して居る。此れは寔に結構な事ではあるが實は建物が無事泰平の時の値のものである。實際少し大きな建物の倒潰の樣を調べると一時にガラ〳〵とやられたものは少なくつて多くは始め何箇所かに割れ筋が入つて次第に振動が大きくなつてそれが基になつて倒れたと云ふのが多い樣である。こうなると建物全體が一塊りをして居る時の週期も必要だが實は割筋などで幾つかに分れた場合の夫れが尙ほ更に大切である。それで自分は地震計を出來上つた建物にのみ利用しないで寧ろ建設中のものに利用して建設の各階梯に於ける各部分に於ける振動の模樣を調べて見たらばどうかと考へる。此によつて建物各部の强度も判り、逆に地震による建物破損の狀況などもよく判明して、眞に耐震建築として必要な條件などもよく判る事と考へる。

(4)第四は『建築は美術なり』と云ふモットーから見ると少々御小言を喰ふかも知れないがこんな事は二三千里もはなれた所にしか地震などのない歐米人の云ふ事で、何日何所に大地震が起るか判らない全く噴火山上に住むで居る樣な、日本の國には少々ハイカラ過ぎる。近時大阪市に出來る建物を見ても何れも御化粧に憂身をやつして居るものが多い。結局日本人は見得を飾る國民かも知れないが、少くも建築の設計や請負に從事して居る方々はたとい註文主の言であつても、此の外觀を飾る費用で耐震的方面に力を向ける樣導いて貰ひたい。同樣な意味から無暗に建物の上部や隅に必要のない塔などを作る事は眞平御免だ。

(5)第五に考へて頂きたい事は日本建築の頭を輕くする方法と梁や柱の接手を容易に地震でも折れない樣に經濟的に改善する方法である。一體日本の樣に地震の多い國で何故あんな重い屋根瓦なるものが發達したか不思議でならない。輕くつて彈性が相當にあつて然も耐火で熱の絶緣體である樣な屋根葺材料が是非ほしい。日本建築は屋根が輕くしかも相當强いものだと相當耐震家屋となり得る。

(6)第六には設計は如何に丈夫に出來て居つても、建築の現場監督が充分でないと何もならない。コンクリート打ちの仕事の仕切り目に澤山の塵埃や繩切れが這入つて居る樣では外見上一つの塊に見ねても實は澤山の塊が何等の連絡なしに山と積み重なつて居るのと等しく危險此の上もない。關東の大地震に鐵筋コンクリートの煙突の倒潰箇所を調べて見ると多くは上記の樣な欠陷があつた。

(7)第七としてはコンクリートのエージングに關するものである。鐵筋コンクリートが耐震上有效だと云ふ事は百も承知の事であるが此の物が年代を經るに從つて如何に强さが變るかと云ふ事は未だ充分に判明して居ない。まだこれが出來てからの二三十年の經驗であるから假りに七八十年目に大地震が來るものとすると今日の耐震家屋が其の時には既に非耐震に

なつて居るかも知れない。夫れ故このものゝエージングと其の風化作用の防止と云ふ事も是非必要なものではないかと考へる。

此の外細い事では註文が澤山あるけれども一般に誰れでも氣付く事だから止めて更に耐火構造上に對して希望を述べて見よう。

(1)第一に注意しなければならない事は平常の火災に際しては耐火構造のものでも地震に伴ふ火災では其耐火性を失ふ者が多い。例へば日本在來の土藏の如きも多くは激動で其の壁に割れ筋が出來る結果これから火が入るし煉瓦造のものなどでもよく破風の所が破れてそこから燒け落る事がある。此等は震動にも耐え得る樣改良を加へる必要がある。

(2)第二には防火戸の事であるが防火戸の必要な事は明であるが、夫れも不燃燒物で作つてないと何にもならない。鐵は常温では不燃燒物だが六七百度になると燃燒し出すから決して安心は出來ない。尙ほ熱の爲めに容積が增大するために平常では開閉自由なものがイザと云ふ場合に閉らないで何の役にも立たない事がある。其の操作なども却々精巧なものがあるが、精巧なもの程ある特別な人でないと作業が能きないとか動かす人は居つても地震動で具合が惡くなつて動かないとか事故が必ず生ずる。夫れ故この精巧なものを備へる場合には此れが動かなくなつた場合の萬一のときを補ふために極めて原始的な丈夫一方の副設備を必要とする。

(3)第三には高層建築に對する註文だ。一體建物が高くつて大いものは地震火災等の際外から來る火の子をかぶる事も最も多く從つて着火し易いし、一端火が着くと手の下し樣がないし、殊に建物が高いと高い煙突があると同樣に空氣の供給が充分で殆ど完全燃燒に近い白熱的の燃方をしてしかも火の子を高く遠くはき散らすから、これが更に第二第三の火元となつて益々火災を大きくする恐れがある從つて社會政策的の意味から申しても建物が高く大きくなればなる程耐震耐火を完全にする樣強制する必要がある。大きなビルディングの經營者三越白木屋と云ふ樣な大きなデパートメントハウスの經營者は單に自己防衛の意味以外對社會的にも心を茲に致す必要がある。

(4)第四には小さい事であるが大きな洋館や土藏などの空氣通しは震災等に際しては完全に密閉される樣にして置いてほしい。此等の建物は皆一つの煙突と見られるから火の子がこの空氣通しから流入して着火する恐れが多い。

(5)大きな建物では地下に非常室を作つて置く必要がある。これはそう澤山の費用を掛けなくとも室內に多少の水と室の蓋に砂がかぶさる樣に出來て居れば重要なものは此の中につめ込で置けば大抵は助かる。更に地下室から昔の城の抜穴式に裏庭の中央其の他適當な所にトンネルを作つてほしい。殊に人の澤山集る所に於て然りとする。地下室は最も安全な避難場所であるからこれに人々が集るのは當然であるがそれからの逃路がないと人々は皆燒死して了ふ。

次ぎに都市的施設や消防上に氣の付いた點を述べて此の御話を終る事にする。

(1)大地震に際しては必ず水道は役に立たなくなる。夫れ故大都市は平常から地下水の利用策を確立して置く必要がある。普通の井戸の外に堀抜井戸の如きものを用意して置いて事變

に際して飲料水の供給と消防用水の準備がしてほしい。

(2)消防設備は精巧なものも大切だが其れと同時に極めて簡單明瞭な原始的の設備を必要とする。今日利用して居るガソリン自動ポンプもガソリンの供給が充分でないと機械があつても役に立たない。こんな場合に如何にして其の欠陥を補ふかと云ふ事は平常から準備して置く必要がある。同樣な意見で破壞消防に使用する鳶口、差又、鋸、大槌と云ふた類も充分に用意して置く必要がある。即ち消防設備に對しては第一段第二段第三段と小くも三通り位の設備を置いて臨機應變に消防火の實を上げる樣にしなければならない。

(3)平常近くに大河や大きな堀などがあると如何にも火災などの時に賴もしい樣に思ふがこれが案外賴みにならない事がある。夫れはポンプを其水面まで近づける樣な設備がないために外ならない。夫れ故大都市では所々に河や堀へポンプが近づき得る樣な道路と場所とを設ける必要がある。

(4)小さい樹木の多い公園の樣なものを都市内に點在させて置くのは面白くない。此等は大火災に際し必ず旋風を發生させる源泉となつて慘害を一層大きくする。もし出來れば此等の公園は廣い道路で連ねて郡部までも續いた廣場としこれを以て一面避難地避難道路とし同時に防火線とする事である。尙ほかゝる場所には多くの人々が澤山の家財を以て集る結果火災を起し易いから同時に消火設備を充分にする必要がある。

(5)廣い道路を以て防火網を作り、其れに出來るだけ澤山の街路樹を植るのも結構だが、其の防火網の位置は主として地質構造を標準として軟弱な地盤と堅剛な地盤とは一所にならない樣にしなければならない。且つ其の方向は其の地方に於ける卓越風の方向と一致する樣にするのが最上の策である。

(6)都市に於ける橋梁は出來るだけ不燃質のものでないと震火災等に際して避難路を中斷され大多數の死傷者を出す恐れがある。

(7)都市の主要なる物資の出入には如何なる烈震に會しても破壞されない樣にして置きたい。例へば棧橋の如きも大きくなくともよいから一つだけは耐震耐火のものが欲いし、また神戸と大阪とを結ぶ阪神國道の如きはたとい他の電車や汽車の交通が中絶しても破壞されないだけの用意が必要である。

(8)津浪は前述した樣に入り込んだ淺い灣に於て最も慘害を振ふものであるから大地震があつたならば此の樣な場所に住む人達は此の來襲に對して充分に警戒を要する。例へば假りに紀井水道に大地震が起つたとすれば神戸や大阪の海岸地方に居る人達は安閑としては居られない。殊に船に乘つて居る人達は早く陸上に逃げ上るか、逆に沖合遙かに逃げ出すかしないと大慘害を引き起す事になる。

まだ思ひ出す事を書き立てれば最限がないから此邊で止めるが是を要するに地震の豫報も震災の輕減も費用さへ惜まなければ決して不可能なものではない。ただ出來るだけ少額の費生用で出來るだけ有効な結果を得ようとする所に研究の必要がじて來る。それと共にかゝる問題は議論でなくて實行する所に値打がある。百の議論も一つの實行に及ばない。前に書いた樣な方法が一つ一つ篤志家によつて研究實行されたならばたとい其の歩みは遲くとも地震の豫知や震災の豫防が完成される時が來るであらう。私は其の時期の一日も早く來る事を祈りつゝ茲にペンを擱く。(大正十四年九月二十五日稿)



明治大正に於ける建築觀

增山新平

一、總說
二、明治前期(第一期)自明治　初年……至明治十八年
三、明治中期(第二期)自明治十九年……至明治三十年
四、明治後期(第三期)自明治三十年……至明治四十五年
五、大正前期(第四期)自大正　元年……至大正十二年
六、大震災後(第五期)自大正十二年……至現　在

歷史的事象を見るに、遠く年代を離れて觀察するときは、大綱と末葉の區別、本流と支流との連絡、原因と結果の關係を明瞭になし得るものなれども、自らその流れに浮游して左顧右眄するときはその流れの源をたづね、その河口の有樣を詳かにすることは困難なる如く、明治に生れ、大正の世に迷ふ筆者が淺薄なる知識を以て、當代建築の史的考察を爲さんとすることは、或は正鵠を期し難く、暴擧の譏りを免がれざる處なるべし。されど叙上の如き不



利あるにせよ、かの大震災の如き惨事に突如として見舞はれ幾多の好資料を失はれたる事を懐はゞ、資料の散逸せざる間に駄評を試みて愚見を叙せんとするも、強ち徒爾にあらざるべし。

（一）總　說

徳川の治世泰平の長き夢に眠りし我が國は支那と和蘭とのみ交易して僅に異邦の刺戟に接せしが、浦賀沖に現はれたる黒船は時勢の力を恃みて堅き掟の門扉を開かしめたれば、歐米の文物は恰も江河の決せるが如き勢を以て流れ來り、二千年來涵養せられたる我國の文物を破壞し、滔々としてあらゆる方面に浸潤せり。我が建築界に於てもこれがため異常の變化を受けたる事は、飛鳥朝以來前後にその比を見ざる程なり筆者は當代を稱して世界文明模倣時代と呼ぶも異議をはさむ人おそらくはなからん。

然してその變革の急激なる速度は世界の普く驚異とする處なれどもその順序には段階あり、道程あり、一進一退よく國力に順應し、民心と調和して取り入れたれば、移植となり模倣となり、折衷となり、創作となりて今日に至れるなり。各論に於ては項を分ちてこれらの徑路を叙し、事實を詳論せんとするものなれば、こゝにはその大要の經過を述べんとす。

歐米の文化は既に江戸末期より漸次移入の傾向表れたれども、明治維新となりては人心の動搖激しく工藝美術を顧るの遑なく、從つて建築界もその例に洩れず、暗黒界を低迷するにすぎず、僅に江戸時代より殘れる棟梁の手により、江戸時代よりの惰性的建築を繰返すにすぎずして、極めて皮相なる見聞により得たる洋風を加味し、所謂鵺的建築を首都及び開港地に建てたるのみなり。

かくする內に、外人土木技師の渡來するに及び純然たる洋式建築を櫻咲く我國に移植されたるなり、これらの建築は材料樣式こそ西洋式なれ極めて小規模にて見るに堪へざるものなりき。その後外人建築技師の移住により漸次樣式も規模も整頓せられたるもの生じたれども、これらは皆外國建築其儘を外人の手に生れたるものなれば我が國民性及び風土を顧慮せず甚だ沒交涉極まるものなりき。

然れども我國の抱擁力と進取的態度は之らの建築の存在を許容し、却つて新風物を愛してこれを增加せんと努力せり、おそらく一般の人々はその當時只驚異の眼を睜り無關心に眺むる者多くして多少外國の事情を知る者は嶄新を誇り且つ喜びてこれを迎へたるものならん。これを批判し注意を與ふる人とてはなく外人のなすまゝに袖手傍觀せるものなり。

かくて教育のみちも開け十年の後には工部大學造家科に於て養成せられたる邦人技師の聲を聞けるも未だ經驗淺く、大建築を完成する域に達せず、徒らに舊師の衣鉢を遵奉し、洋書の雛形に依り、未熟なる手法を以つて洋式建築を漸く模倣するにすぎず。從つて大建築は概ね外人技師の手に歸し、邦人技師は中以下の建築に携はるのみなり。この當時の建築は主として政府の營造物に限られ民間建築は以前として德川時代より引き繼がれたる惰性を繼續し洋式化するまでには至らざりき。以上の事象は明治十七八年頃迄の狀態にしてこれは明治前期の事柄に屬す。

この頃より邦人技師の內數名は相前後して歐米留學の途に

上り實際に見聞し且つ研究を齎し、歸朝後は大小の建築に腕を振ひ始めたり。而して續々養成されたる建築家が漸次經驗を積みたるため外人の手を煩はすまでもなく邦人の手により着々と獨力の事業を完成し得るに至れり。その時は既に官廳の建築のみならず民間の建築物にも洋式のもの著しくその數を增し第二期に入りては概ね東京に限られたるものが地方にも勃々公共建築の建設を見る。然れどもこれらの建築は材料に於て樣式に於て凡て洋式建築の模倣より一歩も出でず。前期に於て不完全にして未熟なりし模倣が當期に入りて正確に危ぶげなく模倣し得る程度に達せるものなり。

此頃より漸く國粹尊重の運動興り二千年來涵養せられたる古美術に對する價値も漸く認められ無批判なる洋風攝取に懷疑の念も生じたり。建築界に於ても從來閑却せられたる日本建築に注意をむけられ、二十二年頃より工部大學造家科の教課として日本建築構造の學科を加へらるゝに及び、二十七八年頃には日本建築の專門的研究家も現れ、之と相俟つて日本風の公共建築も起り社寺建築の復興されたるもの相つげり。又一方には外人建築家の再度の活躍により大建築の完成を見たり。以上は三十年頃までの事にて明治中期の收獲なりき。

明治後期には構造の技術進歩し鐵骨構架の方法により建築の規模益々大となる傾向生じたり。殊に日露戰爭後は國の進展に伴ひ、各種の公共建築、殊に會社、銀行、病院、工場等の施設は殆んど凡て歐米に倣ひたれば建築に於ても必然的に洋風のもの欲求せられ大都の外觀は歐州の植民地化せらるゝに非らずやとまで危惧せられたり。こゝに於て明治四十一年頃より建築樣式に關して識者の蹶起する處となり、伊東博士先づ（建築進化の原則より見たる我邦建築の前途）なる論文を發表せられ、これが導火線となりて我國將來の建築樣式は如何にすべきかといふ論爭各方面に起り學者間に喧かりしがこれが具體的運動は起らずして却つて洋式建築の工事に日も足らざる有樣なりき。かくして洋式建築が邦人の手に移りて既に二十數年の星霜を送り、技術は益々圓熟し外國の事情にも通じ洋式建築に對する理解も充分に普及し凡ての點に於て餘裕の生じたる事は一新轉機に向はんとする機運を醸成せり。

これ實に日露戰爭後の事にして日本は世界にも認められ內治外交の事も順調に整備し平和の基礎强固となりたるとき維新の大業を統べられたる叡聖明治天皇の崩御のことあり年號を大正と改元せられ國民的覺醒を要する秋となりたり。建築界に於ても目睫の事柄のみに囚はるゝことなく國家百年の將來に處する計畫を進めんと都市の改善に努力し建築法規の調査に着手するに至る。而して一方外國との往來は益々繁く圖書雜誌の輸入せらるゝ事敏速となりたれば外國に於ける新事實は須臾にして消化し應用され一時的にもせよアールヌーボー傳はり續きて獨塊に發現せるセセッションは我が國民の趣味に適せしものか忽ちにして擴まり、大正三年東京上野に開催せられたる大正博覽會第一會場の諸建築はこの樣式によりて發表せられたれば、この時期に於ける中以下の洋式建築は多少なりともこの樣式を加味せざるはなき有樣なりき。

又一方青年建築家の輩出は意匠に清新なる表現を與へ、それが皮想的にせよ局部の技巧に過ぎずと云ひ、自由の天地と獨自の創意を含むを以て社會の認むる所となり、明治末期に於ては臺灣總督府の廳舍を懸賞募集せるを始めとし、大正に

なりては一種の流行となりたる程しば〳〵行はれ、紀念的大建築の多くは懸賞募集に附したれば青年建築家の腕を振ふべき機會を與へられ、これがため技術の進歩を促せること多大なりき。技術の進歩は單なる外國模倣にあきたらず新表現に努力することゝなり、樣式の上にも變化を及ぼしたり。即ち明治神宮寶物殿の如く日本古代建築を洋式の建築法を以つて完成し又神宮繪畫館の如きはルネッサンスの樣式を體型となすとはいへ吾人に親み易き表現を有し暗に日本的の氣分を漂はしめたり。斯の如くして青年技術家の自信も生じ明治後期に起りたる『我邦將來の建築を如何にすべきか』の疑問に對して青年建築家の技術は一歩々々具體的解答を與ふるに至れり。而して青年建築家の胸底に沸きたる現代建築に對する不滿は各種の新運動となりて表はれ就中分離派建築家同人の叫びは鮮かにしてその主張が獨壇セセッションニストの主張に似たる點あるにせよ、現狀を破壞し新境地に進まんとの理想は無自覺なる歐米模倣者に對する宣戰の布告ともなりて、建築界に一大警告を與へたることは大いに賞揚するに足る。この主張の具體化されたるものは大正十一年の春に於ける平和博覽會の建築なりとす。その表現の大膽にして自由なる手法は多少の缺點を伴ふと雖も何らかの暗示を與へ從來の洋式建築に對して反旗を飜し世間に深き印象を與へたる事と信ず。

斯の如く青年技術家の間には各種の團體生れ樣式に於ける新運動興ると同時に歐州戰亂後の影響による我國經濟界の異常なる好景氣は國內の物價を昇騰せしめ土地及び勞働賃金の騰貴急進的なりしかばその生活も事業も世界的となり從つて外國大都市に於けるが如き建築物を社會は欲求する事となりこゝに生れたるものは高層ビルディング建築なりとす。大正四年海上ビルディングの建築が東京丸ノ內に建設せられ偉姿を現してより帝都及大阪には年と共に應接に遑なき程に增加せり。これらの建築は米國高層建築法を學びたるものにして樣式に於て構造に於て殆んど彼の國の直寫とも云ふべきものなれば來遊の歐洲人は日本の都市が米國化して日本傳統の建築美を損傷するものなりと非難する事を暫々耳にせり。これ即ち社會の欲求が急激にして新樣式の出現を待つこと能はざる結果ならん。

明治期に於て建てられたる洋風建築は重に公共建築に限られ住宅の建築は極めて少數なりしが、大正十一年の平和博覽會に於て十數箇の洋式住宅を建て、これを文化村と稱して人氣に投じたるに初まり大正十二年には大阪郊外櫻ヶ岡に住宅博覽會を開催して洋式住宅を宣傳したるを以つて洋式建築は住宅の方面にも普及せり。これらの住宅は重に外觀構造を洋式により室內には和洋の室をとりたるものにて要するに和洋折衷式なり。

上述の如く公共建築も住宅建築も洋式建築に變する時勢となり大都市は益々密集膨脹して過群狀態に陷り生活の保健上及び火災等の危險加はりたれば、ながくこの狀態を放置することを容さず。大正八年には都市計畫法及び市街地建築物法を制定し、大正九年には市街地建築物施行法及同規則を實施し建築物を取締る事になりたれば我國の都市も漸く將來に期待し得る準備を整へたり。

かくして都市は合理化に向つて進み實用本位となる傾きを生じ藝術的生命と都市の美觀に對する計畫は閑却せらる。か

くして都市の建築が無趣味に流れんとせるとき、米人ライト氏によりて創案せられたる帝國ホテルの建築は從來見馴れざる別種の表現を有し材料の上にも特種の工夫を施されたれば沈滯せる建築藝術界に對して警鐘を亂打せるにも等しく獨想の力強さを痛感せしめたり。以上は大正前期の我が建築界の情勢なり。

明治大正に亘りて我が國は幾多の危機を免ぬがれ國運は日に月に隆盛に趣き歐洲大戰後は世界の五大國の一として光輝ある御代を仰ぎしが大正十二年九月一日は何たる最惡日ぞ忽然として起りし大震災は東京府下及神奈川縣下に甚大なる損害を與へ殊に東京、横濱に於ては震災後の火災起り漸く建築群の整頓成らんとせる商業地域の大部分は燒き盡され一朝にして明治時代五十年間に築きあげたる建築の大部分を失ひたりしかのみならず愛惜に堪へざる資料も一夜にして姿を消し巨萬の財寶も灰燼に歸し文化的發展も阻止せらるゝ一大事となりて一時は諸外國よりその復興を疑はれ國力を量らるゝ程なりき。

然れども時の政府も國民も意氣沮喪することなく國を擧げて復興に力を注ぎ速かに計畫を進めたり。初め大規模なる復興院の組織成りたるが、後にその規模を縮少して復興局の官制を實施し、七億圓の費用を以つて燒失區域を復興する計畫を立てたれば今後十年の後には以前に優る近世都市の體型をなすに至らん。

これより先き東京横濱に於ては大建築の建設は都市計畫の確定迄一時停止せられたれば一時凌ぎとしてバラック建築を急速に建設することに忙殺されたり。

東京に於るバラック建築は六ケ月の後には大かた道路の兩側に軒を並べたれども横濱は東京に遲れ一ケ年を要したり、これらの假建築は震災直後には極めて粗雜にして僅に雨露を凌ぎ得る程度のものにて寒暑の防衛もなく體裁をなさゞりしが終りには青年技術家の手により傳統に拘泥せず表現的に取扱はれたり。而して樣式の自由は安價淺薄なる建物を變じて趣味に富み愉快なる精神を表せり。

かくの如く首都の大建築に一大頓挫を來せる間に第二の都市たる大阪に於てはビルヂングの建築陸續として起り中之島を中心として幹線道路の處々に建設せられたり。これらは皆震災の敎訓により耐震耐火構造に注意を拂ひ既定の計畫までも變更して萬全の策を講じたり。從つて大建築の本流は大阪に移れる感を呈し建築界の視聽を集めたり。

震災三週年を迎へたる大正十四年には東京も都市計畫の大綱を決して工事中なりし大建築の竣工せるもの及び修繕を完成せるもの生じ殊に異彩を放てるは劇場建築なりとす。即ち帝國劇場の修繕成り歌舞伎座の新築落成、邦樂座、新橋演舞場等相次いで工を竣り陋隘なるバラック街に光彩を添へたり。

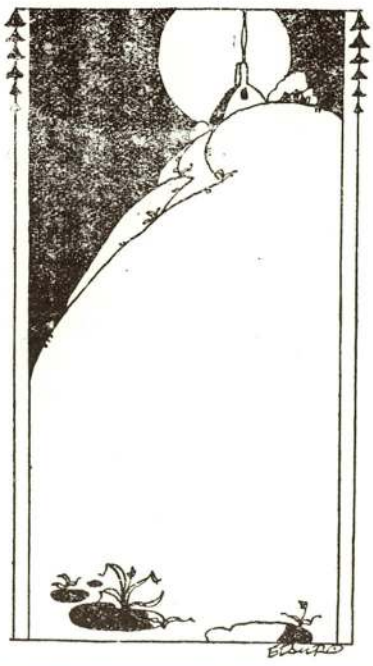
而して現今復興の諸工事は着々と進み區劃を整理し橋梁を架し公園を擴張し學校を建て諸官衙造營の方針を進めつゝあり。恐らくこの完成には今後十年を期せざるべからざるか。

終りに方りて我が國建築の將來を想ふに過去六十年に徵してその本流となるべきものは公共建築及び商業的建築なること疑ふの餘地なくその樣式及び構造、材料の上には國民性、風土、天産等の支配を受けて區々たる細部には特有の相違を生ずるは勿論なれども大局より見て洋風建築を基調とし世界

共通となりその色彩より逃るゝこと能はざるべし。これ交通機關發達の結果著しく外國との距離を短縮せるため世界の生活樣式及び趣味思想の接近せる事に歸因す。從つて今後大天才の現はれざる限り日本獨特の建築藝術の出現を見ることなかるべく、東洋趣味表現といひ折衷同化の作品といふも、その主體となり眞髓となるものは洋式建築の礎石の上に立つものと想像せらる。これ飛鳥朝以來佛教藝術が吾人に教ふる模倣より同化への示範なり。（總說畢）

太陽

おゝ、太陽
おゝ、光
お前は時の韻律の中に現はれて來る
お前に向つて又お前によつて
（太陽よ）
世界は定まる



都市經營の實際的施設

——英國に於ける都市經營（二）——

K・S

市の吏員 Town Clerk

英國の社會で、大抵一定の優秀なる地位を持つてゐるものは、都市の職員である。彼等の誰もが充分なる俸給を受けて彼等の生活を營むで居る。彼等の事務上の地位は、高級なる技倆の秩序を必要とするものである。そして彼が吏員となるためには、法律に通曉する必要があるので、その地位を得るために養成されるのである。グラスゴーの市吏員は一ケ年に一千弗の俸給を受けて居る。數年前までは、市の吏員に缺員が生ずる毎に、市吏員採用審査會（Council）は候補者に向つて先知するのである。獨逸では重なる人々に對してのみ先知した。

市會は問題の全體の上に於ける意見を市吏員に求める事が出來る。彼は又凡べての委員會の幹事となり、市の記錄の保管人である。彼は權威の中心となるべきリポートを作成する義務がある。立法事件の增加に伴ふて、都市自治體の議會に於ける代理者であり、市會として當然準備しなければならない義務、及び其他同じきものゝ爲めに彼は履行する。大都市に於ては、彼は彼が養成された如く、養成された數人の助手を持つてゐる。彼は英國都市經營の中心人物であり それは米國の市長や、オランダ、ベルギーの市長（Bargomaster）に最も克く類似してゐるのである。

市の雇員（Municipal employees）

さてグレート、ブリデンに於ては、その市の規定として何人も一律に市の雇員たる事は出來得ない事になつてゐる。然しこの規定は決して惡意の下にその法的意義を基礎づけてゐるものではない。それは同類又は個人的交際の結果として、公共的論議、公共的職責が利用さるゝ樣な事を、我慢しなければならぬ事件を防止するがためである。

さて或る一つの都市貿易（Municipal Trading）が擴大さるゝ事によつて、傳統的習慣が衰へるであろう事のために、彼

等の間に非常なる脅威を以つて迎ふるものがあつた。然し乍ら此の事件は起らなかつた。寧ろそれは、彼等が都市貿易の擴張されむ事を要求したのである。そして有權者の注目に基づいて、都市活動の重要なる理由の下に、彼等は優秀なる組織を益々强大ならしめむとした。又其の使用人の數は、その都市に於ける活動的政策によつて增加せられ、市の彼等に支給する賃銀並に俸給は、他の私的企業の使用人のそれよりも高き標準を維持し、その取扱ひは更に大なるものであつた。そしてその公共的の奉仕は常に最高の歡迎を以て酬ひられ、各部課に配分された彼等は、常に適當なる勞働によつて終始したのである。

都市管理の職員

Personnel of the Administration)

市會では往々にして、その議員たるものゝ中から商店主や貿易商人等を多數引抜いて、少數の專門家や、勞働者階級の代表者と對立せしめ、そして都市經營上の實際問題の考案に當つて反對せしむる樣な事があつた。又貴族政治と都市政策とは混合さるべきものではない。それは地方によつては利益であるからである。にも不拘、時とすると、偶然の機會に乘じて市會議員の中の或る者は、市の請負を試み利益を占むる事がある。併し乍らそれは甚だ稀らしい事である。そしてそのためにその事實を發かれた議員は、次の選擧の時には其の地位から退かねばならない事情を餘儀なくせられ、且つ甘受させられた。併し之も一般的に云ふと、それは決して賄賂の授受と云ふべきものでもなく、又機會的にそうするのでもない。且つ又それは掠奪的な組織(Spoils System)とも云へない。それは會計檢査の場合に於ける中心的權力の下に、或は又市民や有權者の凝視を無視して行はれる單純なる妨害に過ぎないものである。

英國の都市は、それでも尙且經營上相當の効果を收めてゐる。その都市の外觀は米國諸都市の廣濶なるそれよりも、又獨逸の諸都市のそれよりも科學的に劣つてゐる。都市經濟として見らるゝ一般的な方法は種々あるが、然し都市自治體が少しでも租稅を引上ぐべく計畫するならば、市民は甚だしく怒り易い。地方歲入の集計のために行はるゝ法則としては、借地人からするよりも、寧ろ財產所有者からせられてゐる。英國では地方稅を課するのに、今尙中世紀時代の組織に則つてゐるのであつて、所得者よりも寧ろ職業そのものに向つて租稅を賦課してゐるのである。そして全體の地方歲入は、この單純なる源泉から生れたものである。少しでも新しき事業が企てられ、或はよしその活動が不利益な場合であつても、その成行きは市民全體から熱心に注目せられた。

市會に於ては議員連は、餘程地方的に區別して見られて居る。夫は何れも彼等が引受け得る能力ある人々であるのであると解せられてゐるからである。グレート、ブリテンに於ける公共的の奉仕者の行ふ貿易的事業は、凡ゆる階級から利用せられた。一人の議員の事業は、そのために甚しく苛視される事もあるのである。そして彼(議員にあるもの)が若し判事(Magistrate)であれば、地方法院の長官として、又彼が若し市會議長である場合には、彼の義務は、その地位の示す所により甚だしく增大するのである。

投票 (Suffrage)

市會議員の選擧に對する投票は、地租又は地方稅負擔者の持つ特典であるが、そしてその範圍は、一定の所有財産なり或は俸給、又は一定の最低額の地代又は法律上必要なる期間に亘つて、都市生活を營めるものに限られてゐる。其他の範圍に亘る數は、まだ大なる制限を受けてゐるのである。グレート、ブリテンに於ける地方稅は、借地人に對するよりも、寧ろ、その所有者に向つて支拂はされてゐる。彼等はそのために財産の交換價値(Selling Value)に於けるよりも、寧ろ實際に支拂ふた地代によつて計算せんとするのである。故に凡そ各借地人は、選擧する時の意志や、その語る所によつて、彼は租稅を支拂ふのである。然しそれは英國都市としては、實際に貧い解釋の仕方である。或る一人の雄辯家の持つ精神は、他の何物よりもより大きく、彼等に向つて選擧の事を爲し遂げさせるもので、又民衆の實際に思考しつゝある所は、英國の都市をして、ヨーロッパの他のどこよりも價値づけんとする事である。納稅の形式は、往々にして話題となつて彼等の心を奪ふ事がある。各種の計畫、各種の支出、各種の活動等は地方稅の負擔者から、實際的な要點から論議されるものである。そしてそれらの人々は、往々にして市會の選擧に向つて投票しない事がある。それは地方稅の負擔に於いて、或る進歩せる方法を亂したりする候補者を發見した場合である。それは彼等自身を擁護せんとするに他ならないからである。而して又そのためには、獨逸或は合衆國の如き、公共的精神に向つて贊成しないものはないであらう。その故は彼等のそうした地位は、全く或る候補者のために脅威される樣な事はないからでもあらう。然してそうした脅怖が間々英國都市の或る部分に於て發見さるゝが故に、獨逸或は合衆國の都市よりも、學校、圖書館、遊戲場の廣濶なる施設に比して、甚だしく劣つてゐるのである。而してその地方稅は甚だ重くそしてそれは多くの人々によつて、意識的に感知せらるゝ所のものである。

英國都市の勢力

英國都市の勢力は、合衆國に於けるそれの如く、貨物の生産を以てその主たる題目としてゐる事と、議會的政策とを特に數へる事が出來る。その點では英國都市の如く獨逸の都市では、大なる獨立性を持つてゐない。そして諸種の都市的勢力は、往々過半數の人々の會議によつて決定せられ、その結果特別なる條例が屢々發布せられたのである。都市ではそれらの所有する特許權を案出したり、或は改めたりする事は出來ない。そのために一定の制限の下に、凡べて特許權と同じものを持つてゐる。そしてその指定する如何なる事業をも起し得、或は又如何なる行動をも採用し得るのである。而し多くの場合に於てはそれらの自由も、アメリカの諸都市の持つそれよりも、種々劣れるものである。若し或る都市に於て、水力事業を獲得すべく欲するならば、それらの計畫の是認されんがためには、議會まで行かねばならぬ。若し又その都市で、市街鐵道や、瓦斯及び電氣事業を得べく決せんとするならば、それは、是等の目的の爲に特別なる成案を提出すべく準備しなければならぬ。そしてそれは先づ第一に地方廳の委

員會に於て調査せられ、而して議會に送られるのである。そしてその時に於てその提出報告書が是認せられると、一つの法案が此の目的のために通過するのである。英國の都市では議會からの是認なくして經營し得るものは、市場、屠殺場の管理、スラムの撤去、模範的長屋の建築、或は市の外部に於ける市街地計畫等に限つてのみ、中央官廳の承認によつて行ひ得る。若し市街地に於ける鐵道馬車を電力索引に變更せんとする場合、又は罰金等の蓄積高を公共の用途に費消せんとする場合等は、都市自治體の思考のみにて決定すべく許されない。又諸種の公共的活動に對する發議權の行使も、獨逸や合衆國の諸都市に於ける如く自由なる地位を有しない。英國では都市の特別の使命のために、之等の權力は中央官廳又は議會の承認によつて之等の權力を賦與せられ、一端その權力が是認された曉きは特別なる理由のなき限り、その權力が否認されると云ふ樣な事はない。英國では都市は市民の大なる所有物であるとの關係から、議會との交涉を持つのである。

中心的經營及び管理

加之、這ふした都市の議會的管理や地方廳の會議は、何れも一の內閣大臣の下にあつて多くの都市條例の管理に任ずる之等の會議では、救貧法（Poor-Law）の管理や、保健狀態の維持改善を實行する。而して之等に對する會計檢査は、イングランド及びウェールスに於ける地方廳ではその會計官吏を都市から都市へ派遣し、右の會計官吏の代理行爲によつて、少しでも反則があるかどうかを調べる。一九〇九年の都市計畫法は、各都市の市外に存在する空地の發達、又健康狀態の增進や衛生設備のために、これらの會議を通過したものである。

そこで北米合衆國に於ける如く、英國の都市自治體では、中央官廳又は議會の承認なくして公認せられたる市債を發行する事は出來ない。そしてそのために中央官廳の是認なくしては一片と雖も借入金を爲す事は出來ないのである。そして一つの秩序や或る特別なる法律は、這ふした事を保證するの任務を有する。諸種の規定の中には、公債發行のプレミアムの割合、減債基金の設定等、諸種の內部的規定を含めてゐる又英國の都市では、公共的な勤勞團體のために、特許的地位を承認する事が出來る。　地方的狀態及び集團それ自身のもつ或る機會を考へたる後　それを聽許すべく、議會から同程度の承認が與へられてゐるのである。一般的に云ふと、英國の都市は私的協同團體に類似するものであり、諸種の目論見を引き受くために、好都合であると云ひ得るのである。

英國諸都市の上に附せられる凡べての此等の制限は、大抵地方稅の組織に關する國家的管理に於ての責任からである。英國では都市のために廣大なる地域を獨逸の諸都市の如く有せしめない。又そのために試驗する事も許されてない。そして地方稅の設定の方法や、新しき組織以外の租稅賦課に對する試みも、都市自治體としては許されないのである。而してその補足は、均一組織によつて必要なるそれらの地方稅を集むべく、都市は尙十八世紀以後も借地人に向つて、それらの政策を續行したのである。そして或る財產の中で、その價値が租稅賦課の原因にならない場合とか、若し又借地人がない時には　何人からかの地代或は其他の形の租稅を集めなければ

ならぬのである。市外の土地を市場園藝（Market-Gardening）の用達に供する場合、そこから地代を受領して租稅となる。時には都市の重要部に於ける未改良地（Unimpraved Land）から、その爲めに實際的なる價値を生み出し、自由に數萬弗の租稅を生み出す事が出來る。若し又、或る人の登錄財產（Business Propurty）が、住宅によつて占められて居るならば都市は、その住宅から受領する地代に對して賦課する。而してこれらの投せらるゝ凡べての地方稅は、生產者階級のために、土地の占有の奬勵から効果を減じたる土地の改良に向つて支出せられ、そしてその額は英國の諸都市の財政中、最も大なる負擔となるものである。

而し此のために幾分の不公平は免れない。その不公平に抗議すべく組織された團體は、五百よりも多かつた。一年は一年を經て彼等は恰かも北米合衆國に於ける如く、その首買に基く價値を公平なる組織によつて評價されむ事を議會に向つて請願した。併し乍ら議會に於ては勢力ある人々から、その爲めに變更せらるべく許す事を否認せられたのである。

米國、獨逸及び英國都市組織の比較

全ヨーロッパ諸國に於ては、それは單に一個のオフィシアルは、市民によつて選出されたものがそれに參加するのであつて、彼等は彼等の選擧區から決定されるのである。その他の凡べてに對する事は、市會の意志によつてその配置や選擧が、二者のその中何れかに決定されるのである。投票紙の內部には二人或は三人よりより多くの姓名を記入したり、又異れる黨派を指名したりする事は出來ない。國及び都市の選擧は、期日を異にして行はれるのであるが、それは併し都市自治體の犧牲ではなく、そのために國會の選擧の重要なる價値が滅失する虞れがあるからである。英國に於ては、指名の方法は選擧の各種の方法を通じて最も單純である。候補者は選擧管理者の前でその候補者たることを署名するが、そのために二人の提案者と八人の補助者とが正式に要求されるのである。

その他の都市に於ては正式に會議によつて決定せらるゝのであるが、それは責任ある行爲として重要視せられる。然しそうした事によつて行政部及び立法部に於て猥狼する樣な事もないし、自主的な公平さをも有しない選擧管理委員や選擧人も猥狼する樣な事はない。是等の特質の重要さは、極めて簡單に行はれるので、ヨーロッパの各都市の能率增進の上に有力な一つの說明となつてゐるのである。

又最近ヨーロッパ都市自治體に發展を遂げつゝある公共的奉仕組合（Public Service Corporation）の諸種の活動によつて、都市自治體の勢力は、著しく多方面に進展した。これらの團體は何れも市內に於て利用せられ、時にはドック、マーケット、屠殺場（スローター・ホース）にまで利用せられて居り、それらは都市の管理の下に一般的な活動を續けて居る。かくの如き重要なる理由に依つて、都市では之等の團體に對しての指揮的才能を有する人々をその經營のために奪ひ合する事がある。加之、アメリカの諸ル市に於ては、同一の勢力を有する團體に卷きこまれて爭ひを起す樣な事はない、彼等の何人が市會のオフイシアーに參加する爲に自由が認められて居り、その愛國心（Patriotism）のために私的利得を贏ち得る事を得としない。

これを適當に指導する事は、都市の重要さや又市民の心の樣子や、選擧人の心理狀態を明にし得るものである。ヨーロッパ都市に於ける這ふした背景は特にドイツ及びイングランドに於て然りである。

要　略

英國都市の統治的活動は、市會がその中心となるのである市會議員は市民から選ばれて市會のオフィシアルにだけ參加する。市長は一年毎に市會によつて改選されて決定する。そして市の吏員なり其の他の職員は、何れも同樣な方法に基づいて選ばれるのである。市會議員の選擧は廣い選擧區に亘つて居るものでなく、寧ろ彼自身の選擧區から選ばれるものである。

これは英國の都市組織に於ける骨組である。併しそれは又かくの如く單純である。地方に於ける選擧は數年毎に行はれるがそれは國の命令によつてゞある、そして結果に於ては、都市問題は、是等の選擧によつて混亂しないのである。市吏員の任命は等しく單純である。そこには情實を主とする黑幕會議(Caucuses)や或は醜い因襲(Convention)がない。任命は彼等志願者の請願によつて決定せられる。

都市經營上の諸事業は、諸種の實行的な委員會に於て決定せられる、それは何れも獨逸に於ける長老の一員(A Members of the Magistrat)の如き地位であつて、各部局の長としての地位を占めて居る。各委員會の委員長は、彼の極めて長き勤務を續ける理由に依て、一の專門家としての官能を有してゐる。獨逸ではこれ等の專門家は、皆有爲の首腦部として市の吏員を務めてゐるが、恰かもそれに類似してゐるのである。そしてその何れもが皆相當の年月間養成された人々である。そしてそれらの人々の有する能率が承認されると、地方の各都市へ移動的に任命されて行くのである。

市長は一種の有名無實の職務であつて、彼は寧ろ行政的な人である。彼は市會の決議によつて一年毎にその地位を改められるが、彼は彼の俸給を受ける事はない。市長は各部課の配置の都合によつて、貯へ置くべき職員を持つ事を許さないそして都市の高位者(Chief Dignitary)は必要でない限り段々少なくせしむるのである。

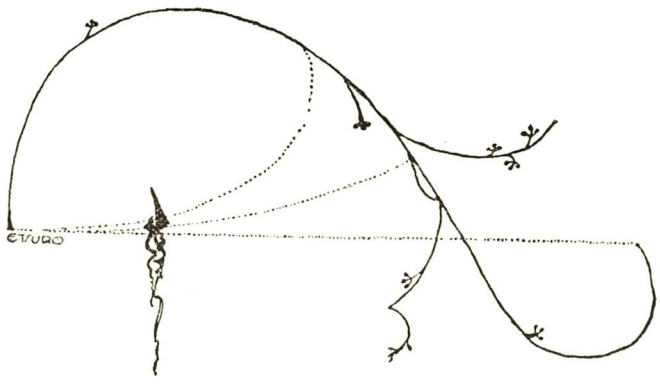
市會では貿易業者或は商店主から新に議員を迎へると、市政の上に於ける考察に就て互に反對する。投票は納稅者の持つ特權の一つである。そしてそれは近年人たるものは婦人に至るまでその權利を與へた。主に地方稅は借地人から集められる。故に都市の財源は甚だ乏しい。その理由によつて都市經營上の一般的費用は、一樣なる緊縮を實際に行ひつゝあるのである。それはアメリカの諸都市に於ける如く、たとひ外觀的にしろ大なる力を持つてゐないからである。又獨逸の都市の如き行動も取れない。これ等は大なる租稅の組織によつて支拂はるゝのであるが、何れも貧民階級の上に甚だしく不足を告げてゐるのである。故に都市の消費は嚴重に精査されるのである。

英國の都市は、上部的監督組織が多くて、その點では獨逸の都市よりも自由の範圍が廣いのである。それらの勢力は、一般的及特殊的法規によつて被れてゐるからでもある。そして、それは議會の復雜な法規上の論議によつて、特に目立つ

てそう考へられるのである。英國の都市では、それを行ふべく責任された範圍だけが、それを任意に行ひ得る自由がない都市の新勢力は市會の論議によつて、議會から承認された部分にのみ止まる。同樣に流出した權利を獲得するための同盟や、一の市街鐵道或は其他の公共的奉仕團體が、スラムを撤去すべく新活動を起したりする事は、先づ第一に市會に於て保證されたものでなければならぬ。そしてその時議會によつて是認される前に、充分なる報告書等の用意が必要となるのである。獨逸の諸都市の如きに於てさへも、尙且つ經營上の實際問題に就ては、議會によつて形造られるのである。英國の都市では會計檢査員と雖も諸種の法律の効果や、たとへば保健設備及び都市計畫法、並びに其他の多くの過程に於ける地方的な活動及び經營の實際をも監督するのである。

朝霧のやや
晴れゆけば
夏の日の

青み輝き
銀杏は
立てり



鐵及び鋼等の腐蝕に就いて

細木松之介

鋼鐵其他の金屬を其鑛石より分離精煉する事を發見して以降又此等の金屬を互に熔合して各種の合金を造る事を知りし以來此等の物を或は建築に或は家庭の器具に應用して廣く其利便を感じたものであるが惜いかな此等の金屬も其當初の狀態を永久に持續する事能はずして時を經るに從ひ或は空氣の爲に或は雨露其他の爲に作用せられて或は錆を生じ或は腐蝕せられて其用に耐へざるに至る者尠なからぬのである故に此腐蝕の現象や原因に付て研究したる者も却々多いのであつて殊に近代に至り鐵及び其製品を建築に使用する事が急激に增進したる爲に其腐蝕に關する研究も亦之に伴つて增加したのであるが其結果は互に異なる者多く全く矛盾せる者も尠くないのである斯の如き狀態なるにより今茲に數種の鐵及び鋼材の見本があると假定して此等を鐵の腐蝕すべき條件の下に置いたとして此等數種の見本の中の何れが第一番に腐蝕せらるゝや又其腐蝕せらるゝ狀況は如何なるべきやを豫報し得る者あらざるべし又化學者が此等見本を分析して其成分を精細に知ると雖ども之を根據として其腐蝕の遲速並に其狀況を豫知する事は不可能である斯の如くに其研究の結果に於て矛盾する所があつても又學理上より豫知する事が不可能であつても何れにも共通して相一致することは此腐蝕が電氣化學的であると云ふ一事である然れども此電氣化學的變化が如何なる要素に因て起こされるかゞ各研究者間に於て說を異にする點である即ち鐵も鋼も全く乾燥せる空氣中では錆を生せないのであるから水分の存在も鐵の腐蝕を生ずる一要素である又炭酸も或點までは必要であるとせられて居る然れ共一般の準據する所はヲルンスト氏の諸物の電氣ポテンシアルの順位により生ずる電流又之に從つて生ずる電解であるので鐵にしても鋼にしても全部が絕對に均一でない又均一であつても他の

金屬と接觸して一の電氣カップルを生じ茲に電流を發生するのであるから之が抑も腐蝕の發端になるのである今此ポテンシアルの順位を表示せば左の通りである

（陰　極）
セレニウム
イリヂウム
弗素
酸化鐵
黄　金
酸素
窒素
白　金
鹽素
硼素
パレジウム
臭素
炭素
銀
沃度
珪素
炭化鐵
硫黄
オスミウム
水　銀
燐
ロヂウム
砒素
水素（鐵に吸藏せられたる）
バリウム
銅
蒼鉛
カドミウム
リチウム
アンチモン
亞鉛
ナトリウム
水素
滿俺
カリウム
鉛
クロミウム
ルビヂウム
錫
アルミニウム
シージウム
ニッケル
マグネシウム
（陽　極）
コバルト
カルシウム
鐵
ストロンチウム

金屬の腐蝕に關する要素は左の四項である

一、金屬の成分
二、金屬を物理的に處理したる方法
三、空氣の成分殊に酸素
四、鑄又は腐蝕の成生物の影響

今此等四項に付き少しく說明を試みるのであるがヂルンスト氏の溶壓を根據とせる電氣說によれば鐵の腐壓は其成分によりて決定せらるゝものであると云ふので多數の化學者は此說を信ずる者である而してデユリロンの如き珪素鐵を除ける他の鐵及び鋼は容易に腐蝕するのであるが其成分如何によりて或點に於て此腐蝕の少なる所があるのであるから此點附近に於ける成分を研究すれば成分と腐蝕との關係に付得る所あるべきなり

次に物理的處理法に付ては鐵材を熱したる狀態に於て處理する方法即ちローリング及びアンニーリング其他の製造方法を云ふのであるが其內の或物は鐵の成分に變化を生せしめ他の者は單に物理的構造殊に其表面の組織を左右する者である而して腐蝕は鐵の表面に於て起るものなるが故に表面の組織如何は腐蝕に對する抵抗に大なる關係を有するから物理的處理法の如何は時に或は成分よりは大なる影響を及ぼす事がある

次に空氣殊に酸素は腐蝕の端緒を爲すのみならず常に腐蝕の主働者であつて又腐蝕の成生物を通じて間接にも働くものであるから他の要素よりも特に重要なものである斯の如く空氣又は酸素は直接に作用する外、更に腐蝕の成生物を通じて間接にも作用するのであるから之を總合したる結果は物理的處理法の影響よりも強く其強き事は物理的處理法が成分如何に勝るよりも更に強大である

第四の腐蝕の成生物は腐蝕を著しく速進せしむるのであつて先第一に腐蝕の爲に生ずる成生物は酸化鐵であつて此物は鐵に比較すれば陰電性である事は前に揭げたる表によりて明白であつて腐蝕を生ずるに際して陰極として働くものである又酸化鐵は空氣中の酸素を吸着して鐵面の腐蝕を助くるのみならず水分をも吸收して鐵の腐蝕を助長するものである斯くして行の一度腐蝕が始まりたる以上其進強弱は腐蝕の成生物の物理的狀態と其分布と其表面に附着する事の程度等によりて定まるのであり一般には腐蝕を助長する者であるが稀には少なくとも一定の時の間は腐蝕を防止する事もある是は成生物が鐵面に堅く附着して酸素其他の腐蝕作用を爲すものと鐵との接觸を絕つ爲である又此放生物の爲に時を異にして腐蝕の狀況をも異にせしむる事があるので假

令ば或時期に出來たる錆は疎鬆で且濕氣を含んで居つたものが時を經るに從ひ乾燥して鐵面に固く附着し又或時期に於て濕氣や温度の關係の爲に鐵面より剝落して新らしき鐵面を露出し茲に再び腐蝕作用を繰返すのであるが結局に於て錆が普通の腐蝕の主なる現象であつて啻に腐蝕作用の結果であるのみならず又其原因ともなるのである

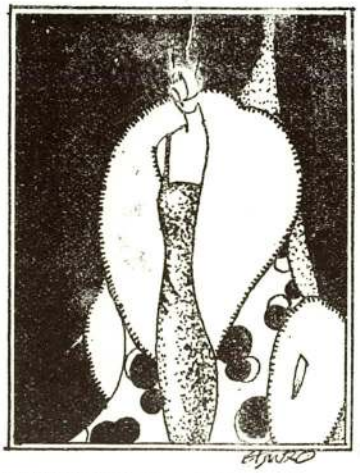
錆其物は空氣中の酸素が幾分炭酸の助けによりて生ずるのであるが其物理的の狀態如何は腐蝕の起る時の狀態如何によりて種々に異なるのである斯くて一旦生じたる錆の作用も鐵材が其製造の際に於て處理せられたる方法と其成分如何によりて異なるのである故に普通の鐵材に於て其腐蝕の狀況は其成分によりて直接に左右せらるゝ事は比較的尠なくして錆の理化學的動作と金屬の成分及び其表面の狀態如何との關係によりて種々に影響せらるゝのである故に錆なる者は此關係に於て二樣に働くのであつて一方に於ては電氣化學的に腐蝕を生ずる爲に働き又他面には物理的に腐蝕を防止する爲に働くのであるが斯の如き二樣の作用が全然正反對であるから其強弱緩急等の差異によりて復雜なる結果を生ずるものであるから腐蝕の作用も容易に說明の出來ない事のあるのは此一事からも推知する事が出來るのである

然らば金屬の成分と酸素と腐蝕の成生物の三者に就ての優劣如何と云ふに之れ頻る興味ある問題であつて酸素は腐蝕の出發點を決定するものであり酸化鐵其他腐蝕の成生物も腐蝕開始以後に於ける行程を定むるものであれば金屬の成分を果して如何なる感應を生ずるものであるかと云ふに素より多大の感應あるべきものである即ち假令ば珪素を多く含める鐵を普通の酸類の爲に侵蝕せられぬものである事は周知の事實であり又ニツケルを含める鐵も殆んど腐蝕せられぬものであり普通の鑄鐵も鋼や軟鋼よりは腐蝕せらるゝ事が少ないのである斯の如く成分に著しき差異のあるものに於ては其腐蝕性に於ても亦著しき差異あるが普通の鐵や鋼の場合に於ても其成分に著しき差異がないから其僅少の差異は其腐蝕にも著しき差異を現はさないの然れ共金屬の成分を之より生ずる腐蝕の成生物に大影響を有するを以て之によりて間接に腐蝕の行程即ち進行上に大なる影響を與ふるものである然れ共腐蝕を開始する者は前にも言へる如く酸素であつて此酸素は金屬の爲に吸藏若くは吸着せられたるものか又た肉眼には見へざる薄膜をなせる酸化物となれる物か未だ充分なる決定を見るに至らざれ共兎に角腐蝕の第一步を占むるものは酸素の作用である而して斯くの如く酸素が腐蝕の要素である事は疾よりウオーカー氏等が唱へたる處であつて同氏の說によれば酸素が腐蝕を進行せしむるのは水素の薄膜に作用して之を酸化せしむるのである即ち鐵面に水素が吸着せられて薄膜をなし鐵面を包みて其酸化を防止し斯くて腐蝕を止むるのであるが此水素膜を酸化して更に腐蝕を進行せしむるのが酸素の働きである又酸素は第一鐵のイオンを酸化して第二鐵に變せしめ斯くして更に第一鐵を溶解せしむるのが又腐蝕の進行となるのである又腐蝕の成生物が腐蝕作用を增進せしむるものなる事を最も明確に述べたるものはフレンド氏であつて氏の說によれば一度鐵が空氣中に於て腐蝕し始むる時は其作用は急速に進行するもので全面が腐蝕するに至るまでは止まぬのである且又錆は吸濕性強きを以て輝きたる鐵は錆を生ぜざる空氣中に在

ても腐蝕によりて生じたる錆は斯る空氣中よりも濕氣を吸收して腐蝕を增進せしむるものであると

之より腐蝕を防止する方法に就き一言せんに鐵材が大氣の作用によりて腐蝕せらるゝのを防止するには二法があるのである其一は鐵材を機械的に濕氣其他凡ての腐蝕作用をなすものより絶緣するのであつて第二は鐵及鋼材を被覆するに特種の化學的性質を有するものを以てするのであつて此被覆物を鐵鋼よりも好んで腐蝕せらるゝ性質を有するものを以て被ふのである素より腐蝕防止法は絶對的永久のものではないが其間に大なる優劣差等があるから其優良なるものに至つては全く防止したるものと云ふを得る而して此防止の目的を以て多種の物質を種々なる方法によりて使用するのであるが此等物質は之を三種類に大別する事が能るので第一は金屬被覆物で第二は鐵の表面を變化して腐蝕さる程度の小なるものとなす被覆物第三はペイント、ワニス、エナメル等の如き有機性被覆物であつて第一種の金屬被覆物を鐵及び鋼に容易に附着せしめ得べき普通の金屬を云ふのであつて鐵に對して電氣陽性なる亞鉛及びアルミニウムや同じく陰性なる錫鉛及び鉛の合金、銅ニッケル、コバルト黃銅青銅及び銀等である而して此等の金屬中に就て最良なる者は亞鉛であるので其理由は其電氣化學的性質によるのであつて普通金屬中に在て鐵に對して電氣陽性の物は只此亞鉛あるのみであるからである即ち鐵よりも酸化せられ易き金屬であるからである

今若し金屬性の被覆を施したる鐵面に抓傷を生じたる場合に於て其損傷の場所には鐵面を露出する事になるから茲に鐵と被覆の金屬との二種の異たる金屬が接觸して居つて又此所に空氣中より濕氣を凝縮せしむるから一のガルヴアニ電池が出來る譯である從つて電流が起り腐蝕が始まるのである而して此等二種の金屬中にて他の一に對して電氣陽性の金屬が酸化即ち腐蝕せらるゝので陰性の方の金屬は何等變化を受ける事はないのである故に亞鉛を以て被覆したる場合に於ては亞鉛の方が鐵に對して陽性であるから亞鉛が酸化せられて鐵は腐蝕を受けぬのである即ち亞鉛の爲に腐蝕を免れるのである然れ共亞鉛被覆の損傷の面積が大きくなつて露出せる鐵面の中央部は周圍の亞鉛によつて保護せらるべき範圍以外になる時は鐵も酸化せらるゝに至る事は當然あるべき事である之に反して被覆が亞鉛にあらずして錫であつたと假定せよ錫は前に揭げたる表によつて鐵に對して電氣陰性である故に此場合に於ては酸化せられ腐蝕せらるゝものは錫にあらずして鐵である即ち斯る場合に於ては被覆物たる錫は寧ろ有害であつて若し之なくして單純なる鐵のみであれば鐵が普通に酸化せらるゝ程度で進むのであるが錫なる被覆がある爲に前に述べたる如く小電池を造りて電流を發生するから酸化即ち腐蝕の進行を增大するのである故に亞鉛は鐵に對して電氣陰性である爲に其被覆部に針頭の如き小孔を生じ又小なる抓傷を生じたる場合に露出したる鐵面を保護する効力を有するものである亞鉛の外に普通金屬にて鐵に對して陰性のものが今一つあるのはアルミニウムである然れ共アルミニウムは亞鉛と同等の利便がないのは第一鐵に附着せしむるに亞鐵の如く幾多の方法によりて容易に出來ない事と價格に於て亞鉛の如く廉ならざる事と亞鉛の如く容易に鐵付ける事が出來ない事等で到底亞鉛に匹敵すべきでないのです。



汚物處理槽及び其他

＝建築物と汚物處理＝(二)

澤部實之介

A 腐敗槽

腐敗槽内に於ける汚物送水管の投入方法及位置又は腐敗槽内に於ける菌類の働に依りて生ずる事柄に關しては前に記せる處なれば、此には之れを省略し主として構造に關し説明せんとなすものなり。

便所内より鉛管又は他の材料及方法に依りて送水せられたる汚水を開口せしめたる片側壁面の下方に穴を有する一槽に導く之れを第一腐敗槽と云ふ、第一腐敗槽に入りたる汚物は其の汚物の固形狀態に依りて上方に滓層を形成なす物、中間にありて液層をなす物、又は下方に沈澱なし固形沈澱層をなす物あり、されば此等の三階梯内の中間にある液層は最も流動し安きものなり、故に此の中間層にある液體を、ある手段に依りて、他の一槽に導く時は其の槽に有する汚物の濃度は第一腐敗槽内に有する汚物より著しく固形物を有せざる液狀を有するものにして固形物を有する極めて微細なる物となり更に槽數の增加に依りて固形物を除去し得らる程度に至るものなり、されど斯の如きは限られたる容積槽内を數槽の腐敗槽に區分するが如きは、到底困難なる事にして、又容積小なる腐敗槽を斯の如く數多の槽に區分するが如きは却つて繁雜となり結果に於ても好結果を得る事は至難なれば、小人數用の物に於ては、先づ第一、第二の腐敗槽に區分せしめ微細固形物の除去困難なる時は除去すべき他の適當なる方法を講ずるを要する物なり。

而して腐敗槽内に於ける構造上注意すべき事項を示せば次の如し。

一　腐敗槽の容積
二　滓層と天蓋間に有する空間
三　空氣流通
四　次槽への流通口の位置
五　腐敗槽の深度

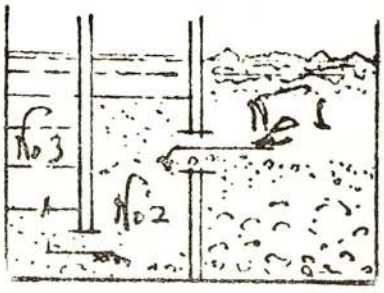
一　腐敗槽の容積

使用人員に依りて定められたる腐敗槽の容積は便所より排出せられたる汚水が槽内にある事四十八時間以上たらしむる事は前に示せる如くなれば、固形物を最も多く有する第一腐敗槽に於ては、固形物を極力沈澱せしめ、汚水の流動は極めて緩漫ならしむる物なれば、第一腐敗槽の容積は、第二腐敗槽より以下の行程にある腐敗槽の容積に比すれば、最大なる容積を有せしむ可く、槽數單に二個なる場合に於ては第一腐敗槽は第二腐敗槽に對し、十分の六割を占むるを可とすべく數槽に分劃せる時は順次容積を減少せしむるを可とす、されどこわ必ず、定められたる物に非ずして、實際上第一腐敗槽又は之れに接する腐敗槽は固形物を多く有するが故に沈澱せしむる必要上容積を

大にせしむる物なり。

二　滓層と天蓋間に有する空間

腐敗槽に於て最も注意す可き事柄は空氣に事更接せしむるが如き必要を要せざる物なれば、天蓋を有せしむる構造となすを可とす、而して天蓋を設くは臭氣の發散を防止するが故に非ずして、空氣に接せしむるを要せざるがためにして普通便所に比し臭氣を有せざる事は今更申す迄もなき處なり。



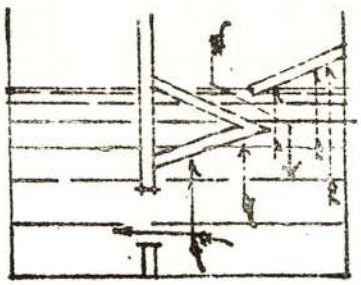
而して空間を有せしむるを必要となす故は第一腐敗槽内に於ける汚水上部に滓層を生じたる場合之れが層厚は大なる物となり空氣に接せしむる時は固化するがために、空間の小なる場合其の滓層のために上部天蓋外に汚物を流出せしむるが如き場合を生ずる物なるが故に天蓋と汚水面間に相當距離を有せしむるを必要となす故なり。

三　次槽への流通口の位置

腐敗槽内に於ける重要なる事柄の一として必要缺く可からざるは流通口の位置の如何に依る物にして、腐敗槽其の物の容積に拘はらず、底部より約一尺前後を流通口下部位置となし、一孔に一尺平方位を適當なる物とす、然れ共數多の流通口を有せしむるに依り小數なる程可なるが如し、されど必要なる場合に於ては流通口面積を擴大するを必要とするも、第二、第三等數槽を有する場合は其の位置は必ず全部を同高にせしむる可からず、こは、むしろ各槽毎に高を變化せしむるを要する事は次に述ぶるが如き事柄にて明白なり。

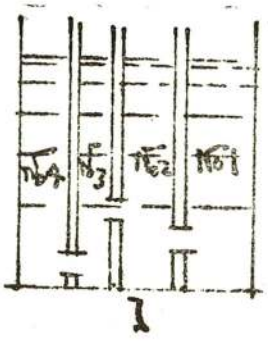
即ち固形物の沈澱狀態は、各槽通過後に於ける、粉末狀態が、甚だ相違するが故なり、されば此の場合に於て流通口の構造を次回に見る如く構造せしむる場合あり、此の手段を用ふる時に於ては、豫備濾過槽の設備を要せざるを特長となす物なり。

1圖及2圖は常に見る例にして3圖は特種なる方法と見る可き槽にして、固形物の浮力位置の狀態に依り汚水内に固形物を含有せざる部分のみ酸化槽に送水せんとなす場合に於ては最も完全なる送水方法にして、他の二者に比し流通口に於て故障を生じ汚水淨化に、支障を來す如きは絶體になき物と見得らる物なり斯の如く腐敗槽の構造は間仕切の構造に依り大いに趣を異にせる物にして、又次圖の如く排水せられたる汚水の投入つた水内の動搖を防止せしめ、減滅作用を完全ならしめんがために、二個の斜板を設くるが如き場合あり、されど要は即ち汚水の動搖を靜穩ならしむるに他ならず、其の他種々なる手段と方法を用ふる場合を有すると云へ共、復雜なる方法に依る物は、故障に對する應急策困難なる事を知り置かざる可からず。

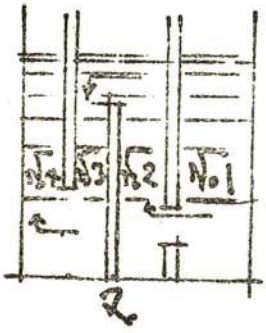


四　腐敗槽の深度

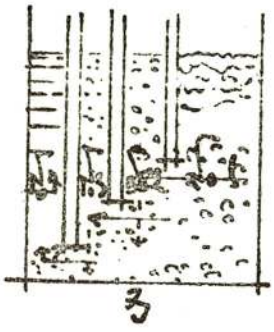
汚水處理槽に於て如何に面積廣大なるとも其の深度如何に依りて汚水淨化の及ぼす結果に大なる差を生ずる物なれば、



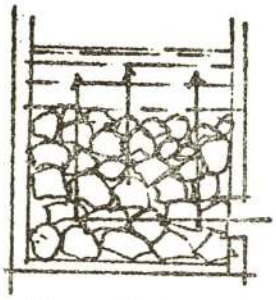
1

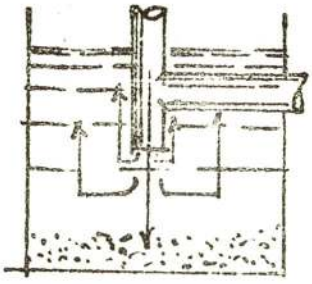


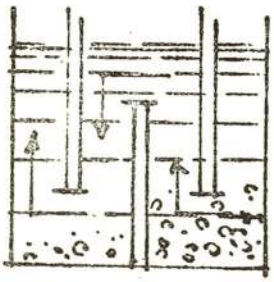
2



3







深度淺き物より比較的深き槽程、好結果を表はす物なれば此の點に關しても相當注意すべき事なり、されど現在に於ては學理的に於ても實際上の問題より見るも其の深度は五尺以上を有せしむるを可となす事は説明し得らる處なり、されば此の理由より腐敗槽の深度を定むるを可となす物なり。

B　豫備濾過槽

腐敗槽に於ける汚水の沈澱を完全に行はしむるが如き程度の容積を有する時は其の必要を認めざるも實際其の容積極小なる場合多きが故に、豫備濾過槽の設備を要する場合極めて多く斯の如き場合本裝置に依りて初めて濾過を完成せしむる物なり、されば本裝置は如何なる方法を以て裝置せられ居るなりやと云へば先づ次に示す如く之通りの方法を有する物なり。

一　濾過用碎石を用ふる場合
二　濾過用筒柱を用ふる場合
三　濾過用斜板を用ふる場合

一、濾過用碎石を用ふる場合

過去に於て、又現在に於ても最も多く豫備濾過用として用ひられつゝある物にして現に必ず碎石を用ふる物に非らざれば不可能なるが如く信ずる者ある程なれば固形物の濾過用として適當なる物なれ共碎石を用ふるが故に往々にして故障を生じ即ち碎石間の空間を固形物のため滿さるがため濾過作用の不可能なる場合を生ずるが故に先づこの點は缺點を有する物と見る可きなり。

二、濾過用筒柱を用ふる場合

一の場合に比し著しく簡單なるを特長となす物にして比較的故障を生ず可き場合も大いに異り腐敗槽より汚水の流出なす場合圓筒を中心として周圍に放散するが故に汚水の流動も靜かにして其の濾過法の異なるがために第三の方法と同く沈澱物と稱する物なり。

三、濾過用斜板を用ふる場合

此の方法は第二の場合と同じく砕石を用ふる事なく槽内を流動しつゝある間に固形物を沈澱せしめんとする物にして交々に上下に空間を有せしむる數箇の斜板間を汚水を流動せしめ其の間固形物を沈澱せしめんとする手段にして第一の場合に比し砕石を用ひざるが故に比較的安全なる物なり、以上は豫備濾過槽として現在行はるゝ其主なる槽を示したる物にして其の他腐敗槽内に圓筒狀鉛管を投入しこれより直接に豫備濾過槽を設くる事なく酸化槽に導く方法あり、されど何れの方法に依るも濾過せんがための手段なれば殘留せる固形物に對しての用意と、故障に對する相當なる處置を具備せしむるを要する物なり。

C 酸 化 槽

汚物の空氣酸化を完全に行わしむるを目的となす物にして汚物處理槽に於ける腐敗槽と共に重要なる一大要素たる物なり、されば酸化槽に對しては腐敗槽と共に其の容積は規定し居られる物にして腐敗物に對する二分の一以上の容積を有せしむるを要する物なり、故に腐敗物六十立方尺に對して其の容積は三十立方尺有るを要す、而して其の容積は三十立方尺を最少限度とせらるゝと共に其の深度に於ても三尺を以つて最少限度と定め居れり、故に酸化槽の深度は三尺以上を要する物たる事を知らざ可からず、されば其の深度とは普通砕石上面より底床板上面迄を以て有効深度と規定し居る物なり。

兵庫縣水槽便所取締規則第五條第四號に酸化槽内濾過床の高さは三尺以上其の容積は腐敗水容積の二分の一以上とし一日間に灌注する汚水量と同一以上の有効容積を有すること、又警視廳令第五條第三號に酸化槽内濾過床の高さは三尺以上其の容積は三十立方尺以上とし一日間に灌注する汚水量と同一以上の容積を有すること。

以上の如き規定の槽に先づ其の容積の算定をなすを要する物にして水槽便所の構造は必ず撒水式酸化槽の構造となす可き事を指示せらるも、今左に示すが如き淨化汚水の試驗的結果を得る物ありとせば撒水式濾過床の構造に依らざる事を得る物なり。

一 A 流出物は微に渾濁するも殆んど臭氣を放たざること
　 B Aに同じ
二 A 流出物は亞硝酸又は硝酸の反應著明なること
　 B Aに同じ
三 A 流出物はメチーレンブラゥ脫色試驗に於て褐色するも五時間以内に脫色せざるもの
　 B Aに同じ
四 A 流出物の四時間内に於ける酸素吸收量は十萬分中一、五分以下たること
　 B 流出物の酸素吸收量は四時間内に於て十萬分中一、五分以下たること
五 A 流出物の蛋白性アンモニアの含量は十萬分中〇・三以下たること
　 B 流出物の蛋白性アンモニアの含量は十萬分中〇・五以下たること
六 A 流出物は原汚水に對し酸素吸收量及蛋白性アンモニアの含量に於て四五%以上減少率を示すこと
　 B Aに同じ

以上に示す如く其結果良好なる物に對

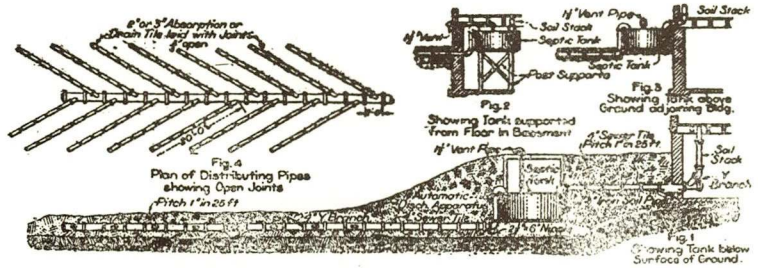


FIG. 111—SUB-SURFACE SYSTEM OF SEWAGE DISPOSAL SHOWING VARIOUS LOCATIONS OF SEPTIC TANK

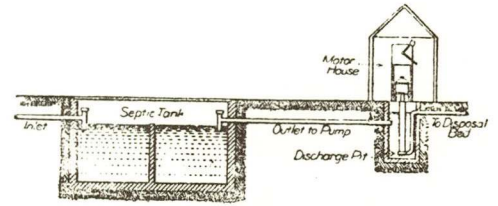


FIG. 118—METHOD OF DISCHARGING CONTENTS OF SEPTIC TANK BY AUTOMATIC PUMP

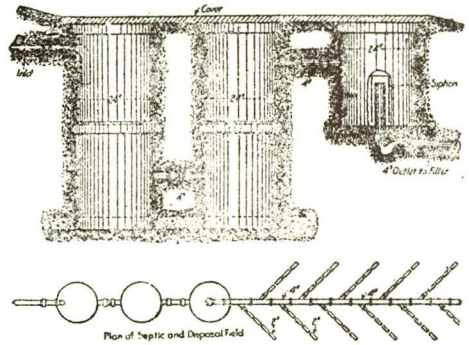
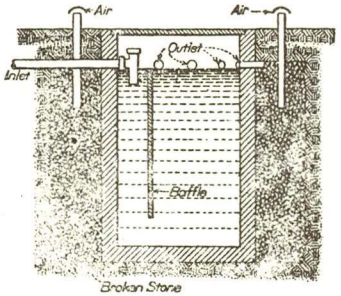


FIG. 113—SIMPLE SEPTIC TANK CONSTRUCTED OF SEWER PIPE



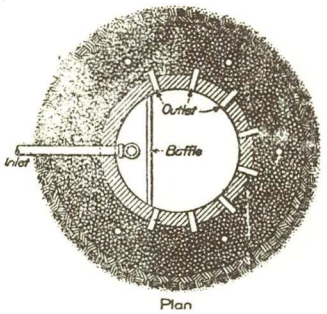


FIG. 120—DETAILS OF AN IMPROVED CESSPOOL

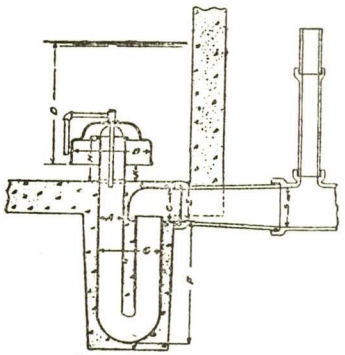


FIG. 114—SECTION THROUGH MILLER SIPHON SHOWING ARRANGEMENT OF VENT PIPES AND DISCHARGE

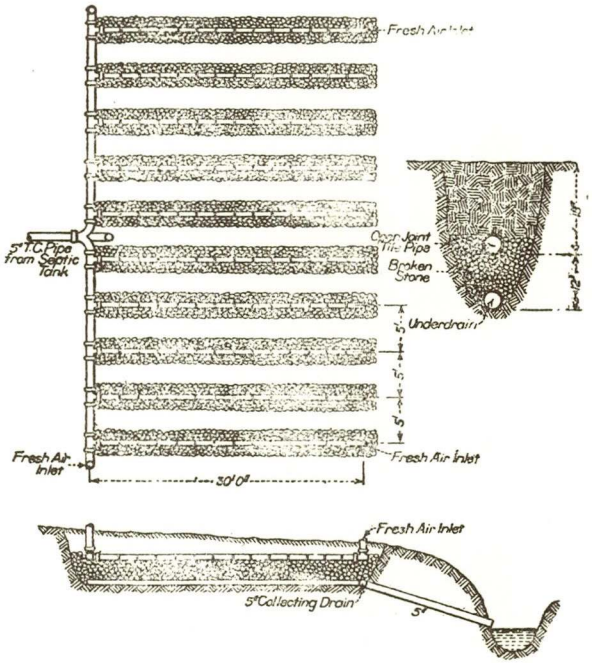


FIG. 121—PLAN AND SECTIONS THROUGH SUB-SURFACE IRRIGATION BED SHOWING METHOD OF SUB-DRAINING AND AERATING THE DISPOSAL BED

しては、酸化槽を有せざる構造にて可なるが如くなるも、實際に於て酸化槽を有する構造に於ても、構造の如何及周圍の狀況に依り限らず同一に好結果を表はしつゝある物に非らざれば、云ふ迄もなく酸化槽を有せざる物に於て、より以上の期待をなすが如きは不可能なる事と云はざる可からず。

酸化槽に於ける部分的の構造を示せば次の如し。

一　排氣管の構造
二　碎石の材料及積方
三　底床板の構造
四　側壁の構造
五　撒水管の構造
六　排水管の位置
七　送氣管の構造

一、排氣管の構造

酸化槽内に於て好氣性菌の活動を助長せしむるがためには、空氣の流通を完全にせしむるを要する物にして、之れが設備として排氣管を設置せしむるを要す、而して排氣作用を完全にせしむるがために排氣管先端に、電熱を利用なし部分的に温度を向蒸せしめ槽内に於ける空氣の流通排氣をなさしむる物、又は排氣管先端に廻轉板を附し風車の如き裝置となし空氣の動搖を大ならしめ酸化槽内の空氣の流通を完全ならしむる物なり。

而して其の位置は送氣管の直上を避け出來得る限り反對又は遠距離に設け送氣管に依りて送られたる新しき空氣の碎石面に接する部分を大ならしむるを要す、其の開口部は普通酸化槽撒水管上の空間に於て設くるを可とす、材料は主として銅板を使用したる物を、適材なりと見る可きなり。

二、碎石材料及積方

碎石は酸化槽内に於ける必要缺く可からざる材料たり、又汚物淨化上重要なる物たり、而して其の材料はコークス類煉瓦片又は石片を用ふる場合あれ共、いずれにするも其の形態圓形に近き物は、これを避くるを要す、故に出來得る限り多角形の物を使用するを可とするも、コークスの如きは其の性質上其の有効年限短かく、出來得る限り、石片による碎石を使用するを可とす、然れ共何物の立派なる材料を使用するも、其の積方の如何に依りては空氣の通過を容易ならしむる物なれば、空氣の流通は直接結果に及ぼす處大なれば、積方に於ても各種各樣の手法を案出するに到りたる物なり、碎石は下方を大にし上部に至るに從ひ徑の大なる物を用ふる場合又は全く其の反對なる場合を有するも、主として下方に至るに從ひ徑の大なる碎石を使用せしめ居るを普通とす、此の外、碎石を平板上に配列せしめたる物を數段又は數十段く形に設置し、空氣に接せしむる時間を大にせしめたる方法又は碎石を用ふる事なく點下中空氣に接しむるが如き方法等なるも濾過碎石法に勝る物他になし。

三、底床板の構造

床板は碎石の落下せざる程度の孔を有する構造とせしめ空氣の流通及點下汚水の排泄を完全に速かならしむるがためには無數の孔を有せしむるを要す、普通鐵筋入格子形床板にせしむるを有利とす。

四、側壁の構造

側壁は、空氣の流通を完全にせしめんがために必要上處々に孔を有せしむるを可とするも斯の如き場合には側壁を二重にせしむるか、又は孔の一端を地上に尖出せしむるか、又は側壁を地上に露出せしむるを要す、されば斯の如き場合は實際上に於て困難なる問題なれば側壁の構造を單なる壁となし別に通氣孔即ち送氣

孔を設くるを可とす。

五、散水管の構造

豫備濾過槽より出たる汚水を酸化槽に平等撒水せしめんがために行はる一つの手段にして、之れに霧吹式と點下式の二方法あり、然れ共一班に用ひらるは霧吹式に非ずして點下式に限る物なり。

點下式に依る撒水は、半圓形又はV形の鉛管樋（石綿板を用ふる物あれど、結果よろしからず）を五六寸間に並列せしめ各樋の兩側の適當なる位置に孔を有せしめ、汚水の一度深度に達する時は、撒水管より落下せしむる方法なり、霧吹式は點下に非ずして、酸化槽碎石表面上に撒水樋を設くる事なく撒水せしむる方法なり、されど斯の如きは事更に特別の手段と方法及常時勞力を用ふる事を要する物なれば小なる物に於ては反へて結果に於ては點下式に劣るも勝る事なし。

六、排水管の位置

淨化したる汚水は之れを排水せしむるを要す、されば其の位置の如何に依りて酸化槽内に於ける碎石面を常に浸すが如き結果を生ずる物なれば床板より下方に於て充分餘裕を有せしむるを要す、然れ共酸化槽の深度は碎石部に於て必ず三尺以上を要する物なれば、下水溝の如何に依りては何等施設し能はざる物なれば斯の如き場合に於ては、淨化裝置を地上に表はすか又は汚水を自動式排水ポンプに依り汚水の排除をせしむるを要す。

E 消毒劑

消毒槽は傳染病流行の際又は其の結果不良なる場合、汚水の放流危險なる物と認められし場合、藥品を以つて消毒せしめ得る程度の物、即ち槽を作成せしむれば可なる物にして、汚水淨化上必要なる物に非らざる事は云ふ迄もなき事なり。

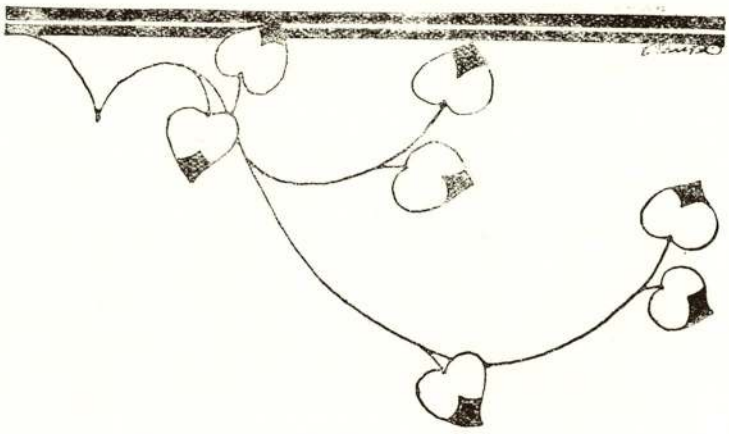
以上の如く汚物處理槽は構成せらる物にして、何等理論的に攻研せんとする必要はなきも吾人の立場として是非知り置く可き事柄と信ずる物なり。

尙此の他に小學校に於ける汚物處理槽設置に關し、其の容積を人員關係につき設置せられんとする人々に一言を呈せんとする物なり、今其大略を左に列記せんとす。

小學校に於ける場合に限らず前に示したる如く、單に人員に依り算定するが如きは注意を要するも、此の場合に於ては時に注意を要す可き事にして、先づ左に示したる如き事柄に關し攻研せられん事を。

A、全生徒の人員
B、全校に有する便所數
C、便所を使用し得べき時間數
D、大便所使用數と小便所使用數
、常時使用すべき人員數

右の如き事柄に關し相當注意をもつて算定せらるゝなれば、必ずや人員單に一人二立方尺としての算定と人員にのみ注意し、容積關係を度外視したるがために生ずる算定とが、如何なる結果に依りて表はる物なるやを施設者としての立場より觀察せられん事を望まんとする物なり



『太山寺』建築

═兵庫縣の古建築═

（四）

菅　登美雄田

第四節　太山寺

第一　概說

一、位置　兵庫縣明石郡伊川谷村字前開神戸市の西北約三里、伊川谷村前開にある天台宗で、三身山太山寺と號して居る、西代から太山寺へ行くには板宿、妙法寺、車を通つて白川峠を越へ布施畑を過ぎると直ぐ前開の太山寺に達する、途中少々山路があるのは單に白川峠の前後數町で後は道路平坦で自轉車でも容易に通ずる。

明石からは太山寺まで東北約三里道路平坦、人力車も通ひ、乘合自働車は明石太山寺間を通つて居る。

參考地圖　參謀本部二萬分の一　前開神戸

二、歷史的研究

今三身山太山寺の案內記に依ると

「爰に當寺の創建を案ずるに、藤原鎌足公の新願に基き公の長男、定惠和尙（或は孝德天皇の御落胤とも云ふ）の開基にして元正天皇の勅願所なり、鎌足公之を草創經營し其の孫宇合卿に到り靈龜二年堂塔伽藍漸く完成其の數四十一個の僧房を造營す……」と、

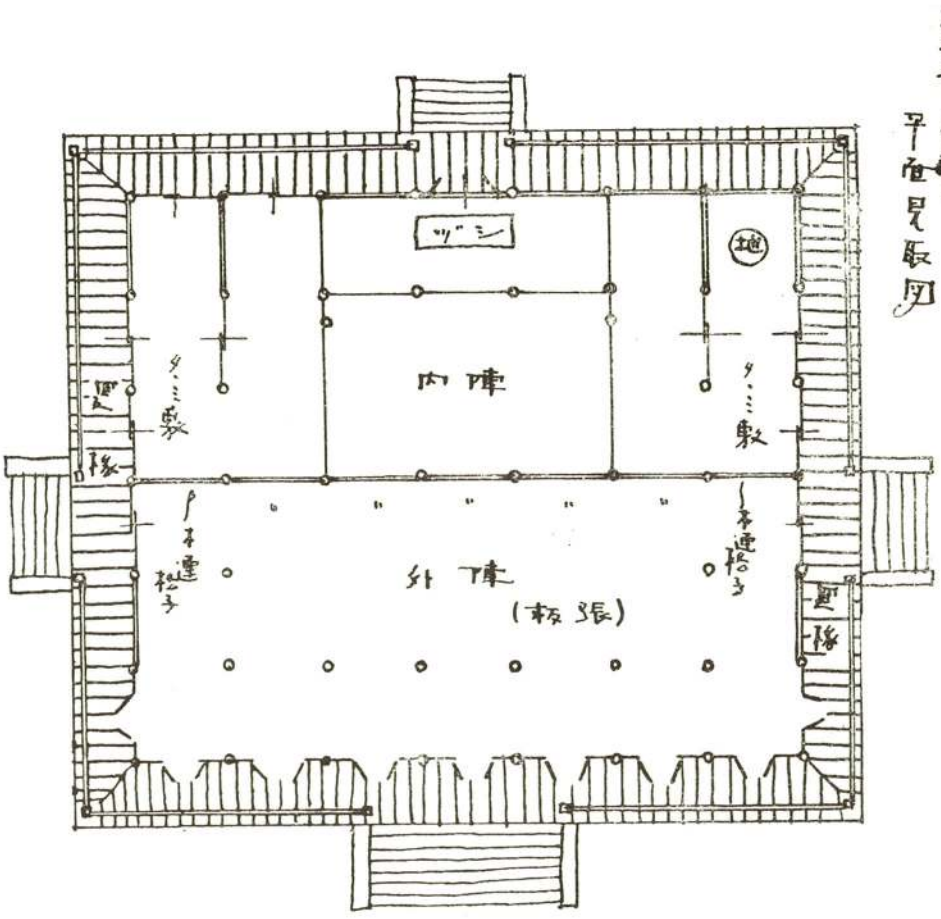
即開基は定惠和尙で藤原鎌足の孫宇合卿の時代になつて漸く最初の大伽藍が完成したものらしい、

「後白川法皇、後宇多天皇、崇光天皇の龍駕を此所に枉げさせ給ひし事往古より之を傳ふ、本堂正面の兩脇に天皇及勅使の入口あり其の構造神殿造にして更に古扉を開かず……」

所謂開かずの扉とか云つて其の名高い。

其の他當山には大塔宮の令旨とか又は殊に平家一族と密接な關係があつたものゝ如く平家に關係する品々を多く所有して居る。

39圖



第二　太山寺木堂

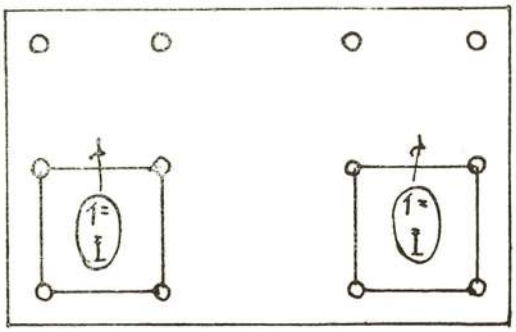
構造形式　七間六面單層屋根入母屋造本瓦葺

建立時代　鎌倉時代　乾元元年？

指定年代　大正二年四月十四日

太山寺本堂は南面し伽藍の後方一段の高所にあり二重の石段を前に控へた國家鎭護の一大祈念道場である、寺傳では乾元元年の建立（鎌倉時代末期、今を去る六百二十五年前）と云つて居る。

第四十圖　太山寺仁王門平面見取圖



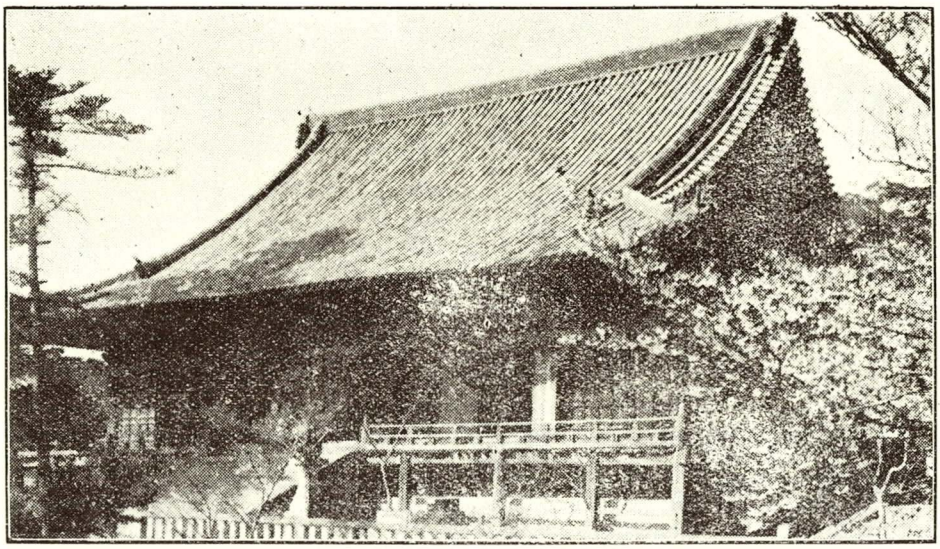
プラン――第三十九圖に示す如く七間六面の大建築で腰には丈の高い廻縁を繞

812

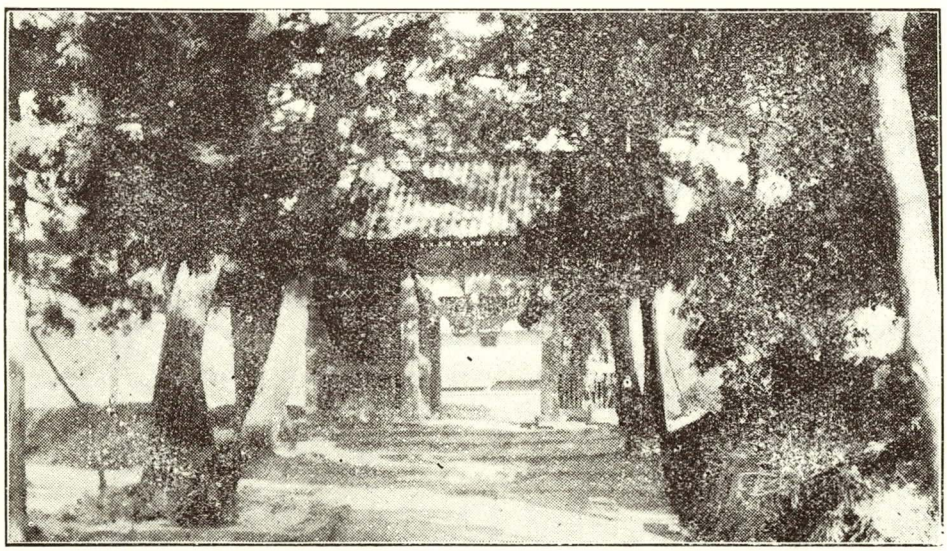
らし高欄を付けて居る、前面の各間には棧唐戸を開き左右兩側には最初の一間に棧唐戸次の三間には引違戸殘は板壁とし後面は板壁と引違戸とを併用して居る。

内部――は前面三間通りを外陣とし床總拭板張とし其の奥の内陣との境界には木連格子戸を用ひ明瞭に内陣外陣の區別を立てゝ居る。

内陣――には中央正面に厨子を安置し左右の兩側は疊敷で右側には石童丸の守本尊千體地藏菩薩を、左側には本山の開基定惠和尚とを祭つて居る。



第四十一圖　太山寺本堂



第四十二圖　太山寺仁王門

外觀――外部の形式大棟一直線で少しも變化なく屋根勾配急な事は少々許り有るべき物と思ふ。る軒の反轉を打消し屋蓋の自重で建物が壓迫された如き感じがする。

細部――種織細で中備には斗束を配し斗拱は出三斗で其の肘木は唐様の性質を持つて居る、即其の細部に

一、内陣柱と側柱とを連絡する繋ぎ虹梁反りの錫杖彫の形式

二、外部頭貫の形式

三、肘木、其の他の曲線等其の他

から考へて乾元元年と肯定され

第三　太山寺仁王門

構造形式　八脚門、屋根入母屋造本瓦葺

建立年代　室町時代？

指定年月　大正二年四月十四日

寺傳に依ると本堂と同時代の建物と云つて居るが其の建立年代は確とはして居ない。

プラン――第四十圖に示す樣に八脚門である、中央一間を開放し前面兩脇には木連格子を嵌め中に仁王を安置し後面兩脇間を開放して居る。

外部――一軒軒で其の出極めて少なく斗拱は三つ斗を組み。セクション圓形な柱の上には殆んど他と比較にならない位に大きな大斗を置き、中備には斗束を用ひて居る。

内部――天井化粧屋根裏を表はして居るが自分が見學に行つた、一昨年の十二月では破損の度甚だしく、内部化粧の板は落ちてその形を止めず甚しい所は破れ目を通して下からでも、棟木迄も見る事が出來る位だつた。

で其の細部

一、頭貫の末端唐樣の手法に層する繪樣彫刻のあること

二、肘木の曲線は和樣の手法を有すること

三、化粧屋根裏なること

及、本堂の建立年代とを考へに入れて本仁王門は建立は鎌倉時代（室町？）の手法第二新派、即和樣、唐樣、天竺樣の三手法の混合したものに當るのでは無いかと自分は考へる。

プロポーション――其の全體の形狀は圓柱の上の大斗は前述の通り丁度子供が大人の帽子を眞深に被つた樣で甚だ大に失し釣合が惡く且つ入母屋造本瓦葺の屋根に對して軒の出樣少なく屋蓋に壓迫されて居る樣な感がする、自分は本仁王門はプロポーションの上から述べたら其の價値は甚だ小なりと信じて居る。

第四　太山寺に藏する國寶に就て

前にも述べた樣に當太山寺は由緒深く創立遠く、歷代天皇の御信仰の厚かつた爲、國寶に編入された寶物も少なくない即

太山寺所藏にかゝる國寶

一、不動明王四童子像　絹本着色一幅

後鳥羽上皇の御宸筆、諸障碍降伏祈願の本尊とし祈禱施行の後御下賜さるると。

二、不動明王二童子像　絹本着色一幅

春日筆、傳來不詳

三、愛染曼陀羅圖　絹本着色一幅

弘法大師筆、大師の寄附と云ふ

四、釋迦文珠普賢尊像　絹本着色一幅

智證大師筆、大師の寄附と云ふ

五、兩界大曼陀羅圖　絹本着色二幅

傳敎大師唐より持歸り之を寄附すと云ふ、筆者不詳

六、法華曼陀羅圖　絹本着色一幅

智證大師筆、傳來不詳

七、十六羅漢の像　絹本着色、十六幅

兆殿司筆、傳來不詳

八、金剛經十六善神像　絹本着色一幅

宅磨法眼筆、傳來不詳

九、白衣觀音像　絹本着色一幅

春日筆、傳來不詳

十、阿彌陀如來座像

惠心僧都の作、大師の寄附と云ふ

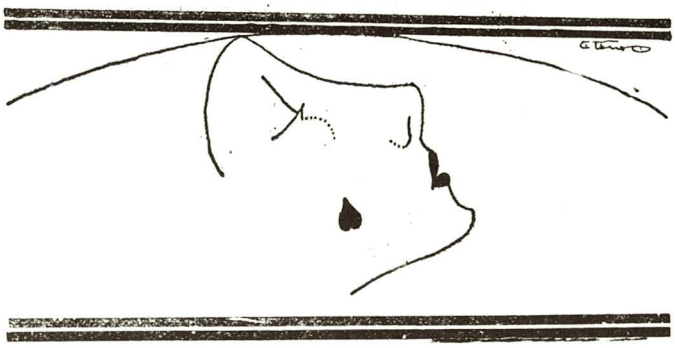
十一、法華經　三十二卷

白紙黑書にして卷物仕立總數三十二卷、平清盛一族合作に係り平家の寄附とす

十二、大塔宮令旨及注進狀　四通
元弘三年二月二十一日、北條氏討伐に付太山寺僧侶へ援助の令旨、祈念の事、知行の事等となす
十三、甲冑一領
佐々木高綱より寄附と云ふ
十四、十一面觀音像　絹本着色一幅
明兆道子筆、傳來不詳
十五、兩界曼陀羅圖　絹本着色二幅
傳教大師唐より持歸り之を寄附すと云ふ、傳來不詳（五の兩界大曼陀羅圖とは異品なり）
以上計十五點が國寶に指定されて居る、
（此の項は主として太山寺案内記に依る）

無始無終

終はない、何にも、
同樣に、
始があつて始まつたものもなたゞ時がある、
そして、その中に、
總てのものが生きて居る。



人生のための建築

＝生活されたる建築＝

加須賀澄

1

思想が單に思辯のための思想であつてならないのは當然である。藝術が藝術のための藝術であることは、酒が酒のための酒であるよりも尚ほ沒意義である。人生が單にきまぐれと安易とのみの益なき連續であらない限り藝術は單に遊戲と娛樂とであり通すことは能きない。藝術は遊戲であるにしてはあまりに嚴かであり娛樂であるにしては餘りに重たすぎる。藝術は人である。心靈である。人生への何等の寄與も考へないで藝術を考へることは、藝術それ自體にとつてもその本質的な意味では邪道である。藝術のための藝術は、畢竟、遊戲か娛樂かの雰圍氣の外に一步も輝き出で得ないものである。輕く滑な愉樂ではあるかも知れぬが重く質ある生活ではない。麻雀のための麻雀である。

2

藝術は最も常識的に言つて、或る特種の個體なる自己の生活の理想を、この地上の雜多なる規範と約束との下に、力一杯の緊張を以つて實現せしめやうといふことにその企圖の全てはかゝつてゐる。その生活があくまでこの現實世界に執念く膠着してゐる以上、その藝術の塔は、それが如何に象徵的なものであらうともこの現在、この手に觸れ、この胸にさはる世界から全然孤別して、確固たる生活相をとることは能きない。表面、或る一つの立脚點よりの考察に依つては、藝術はこの現實生活のいとはしき重荷からの唯一の解脫であるには相違ないのであるが、ボオドレエルのあの香り高き特異なる沒生活的陶醉も、眼前の今の現實の種々相に依つて、絶えずおびやかされないであることは能きなかつた。全らゆる偉いなる天才は全て自らの現實生活にあくまで眞摯直情であつて、何等かの高き生

活的創造を欲しないで、その日夜を唯徒らに空漠の世界に投げ棄てた者はない。彼の生活意慾が強激であればあつただけ彼の藝術は根強き確實性をもつてゐた。あくまでその現實生活に貪婪であつた彼は、自己の熱愛して止まない藝術へ、その創見への道をあくまで勇猛に突き進んで行つた。ミケランジエロは偉大なる藝術家である以前に、より驚嘆すべき偉いなる現實生活の英雄であつた。ベエトオヴエンは彼のシンフオニイに依つて輝く以前に、彼のその生活的信念の確實さ、強烈さを以つて、一段高き人類的巨人となつた。彼等はその現實生活の各瞬間を強く確に把握して、それに全部の内容的價値をあますところなくもりあげ、その瞬間が彼に與へるところの一切のものを完全に自己のものとしやうとした。寸時も停滯逡巡することなく、自己の永劫を自己の心靈の上にしつかり自信づよく積み重ねていつた。彼等はその眼前の現實に觸れゝば觸れる程燃え、燃えれば燃える程強く現實に觸れていつた。彼等の脚は完全に現實生活の根底に立つてゐたのである。從つて、如何に偉大なる理想主義者、特異なる象徴主義者も、その心靈の奥底に於いて現實主義者でないものはなかつた。「藝術は幻影を喚起して現實を忘却せしめやうとするものではない」とポオル・ゴオルチエは説いた。「現實を忘れることなく、しかも現實から一歩を踏み出せる狀態である。難者の言ふやうに、藝術は決して現實を忘れしめる幻影を喚起するものではない」

藝術への出發は、脚下からである。

3

言ふまでもなく、近代の如く所謂實生活が純藝術の中へ親しく突入せる時代はかつてなかつた。かつて藝術は生活の外遠くに香つた華奢な人造の花であつた。藝術は生活より高きもの、生活よりかけ隔りたる一種特別なるもの、或は極められたる技巧の美であるといふ思想が、かつての藝術觀に於いては正しき常識であるとされてゐたのである。過去の多くの藝術に、絢爛の美はあり乍ら、人をうつべき強激なる生活的迫心力なく、圓熟のたくみをもちつゝ、見るに足るべき人生的完成なき所以はこれである。世相は日夜に激しく轉變して止まうとしない。歴史は繰り返へさずして轉進する。近代文化が中世文化のそのまゝなる繰り返へしでないことは勿論である。近代文化がそれ自體にとつてあくまで色濃き近代的色調をもつて彩られつゝあることには何等の過誤もある筈がない。事はむしろ當然である。ただ、その文化がその基調としての必然なる永遠性を確實に具有してゐる場合にのみ限られて、喜び迎へらるべきであるといふまでゞある。一言に言つて、近代は生活發見の時代である。換言すれば、何よりも先づ長く塵埃の中に埋れし人間性の發見といふことに、その特質はあるのである。從つて、近代文化の黎明は、その藝術に生活を發見したことに依つて素早く誘引された。ひいては、藝術そのものを生活それ自體と同質のものとすることに依つて、その藝術は近代といふものゝもつ香耀を一入深く高くあざやかに反映しやうとした。かくて、近代劇はもとより、詩歌を初め、繪畫、彫刻の類に至るまで、生活の波は激しくおしよせたのであつて、未だ曾て今日の如く藝術の生活化を叫ばれたことはなかつたのである。全らゆるところに生活は叫ばれた。全らゆるものゝ生活的價値への轉換が要望さ

れた。今や、その生活が如何なる程度に藝術の本質と如何なる交渉をもつものであるかは、すでに問題ではなくなつた。藝術は、生活として創作され、生活は藝術として生活されなければならないからである。まことに、生活なき藝術はすでにそれ自體のその出發の當初に於て、當然その將來に於ける藝術的權威の破綻を豫期せるものであつて、それが長き世紀から世紀へと繼ぎ守られゆくべき貴純なる光輝をもち得ないであらうことは明瞭である。その存在の一切は、時代の過ぎゆくにつれて色褪せさびて、遂には唯徒らに塵埃の中に朽ち果て、その名を語り繼がう一人の後裔者もなく、一片の記錄すらも自ら失はれ果てるであらう。

藝術の光輝は生活の光輝である。生活されざる藝術は生長なき生命の如きものである。

4

もとより、建築は他の諸藝術と異りたる傾向をもつものであるが、先づ、建築は從來誤り考へられて來たやうに單なる術ではない。從來術としての建築は大いに論議され研討されては來たが、それは、正しき意味に於ての建築を高く評價し得たものであるとは言ふことは能きない。

術は、畢竟、手先の藝、頭の業であつて、生ける心の働きであることは能きない。術を唯積み重ね增し加へることに依つて、そこにあやしき人工の美しさと巧みさとは作り出だされるであらうが、その輝きは、唯傍人をして空しく怪訝の眼をみはらしめるだけであつて、その胸奥に親しく迫るべき眞實性をもつてはゐない。術のたくみは、畢竟、慣れ繰り返へされたる熟練の集積であつて、生活的なる必至の創造である事は能きない。偶然のものであつて、必然のものではない。相對の價値でしかなく、絕對の價値であることは能きない。

藝術創造は手先に依つてなされず、心に依つてのみなされなければならぬ。頭に依るよりは、胸に依られなければならぬものである。單にその術の巧稚に依つて建築の良否を論じやうとするのは、編柄の如何に依つて衣服の良否を辨じやうとするのと大差はない。術は藝術の本質ではない。生命がこそである。

もとより、建築に於ける科學的精神は他の如何なる藝術に於けるよりも一入重要視されて當然なのであるが、この場合に於いても、建築を單なる數理或は計算と考へることは、建築を單なる構造或は外觀と考へることゝ同等の早計である。建築は組成さるべき以前に思惟さるべきである。並置さるべきよりも先づ生活さるべきものである。

同樣の意味に於いて、當然、建築はまた單なる藝でもなく業でもない。如何なる藝の圓熟も畢竟よせ集められたる繰り返へしであり、如何なる業の極致も手先の器用さを誇示するに止まつて、そのまゝ生命ある藝術となることは能きない。こゝには生活なく、人生がないからである。

先づ澁渋たる生活を創見せよ。新しき藝術感覺を建てよ。

5

新しき藝術感覺なるものは、新しき時代の新しき生活意慾の上に建つべきものであつて、その求めらるべき新しき藝術的技巧は、あくまで力强き生活的技巧たることを要する。技巧に慣れることは易いが、生活を生きることは容易なことではない。藝術の極限は極つてその表現に

あるとの主張は正當であり、その表現としての技巧はもとより輕んぜらるべき性質のものではないのであるが、唯その技巧が技巧のための技巧であることは斷じて不可である。技巧は自らを誇示しすぎることに依つて、その効果を空しく相剋する。今や全らゆる藝術のその生活の本源へまで一度び歸へるべきことの提唱されつゝある時、建築に於ても、技巧の技巧に依つて、一擧に高き藝術の本源を突き、或は藝術らしさを裝つてそこに不當の價値を建てやうとするが如き思ひあがつたむら氣と野望とを棄て、一先づ、自己生活の本源へまで歸りゆくべきがほんとうであらう。新時代に迎へられんために加言するならば、唯外表偏幅を右往左往して技巧の効果をのみ暗中に模索して焦燥と神經衰弱との陷穽に落ちんよりは唯一意眞面目に生活の眞實をつらぬかん方が、はるかに藝術の本源への正道である。

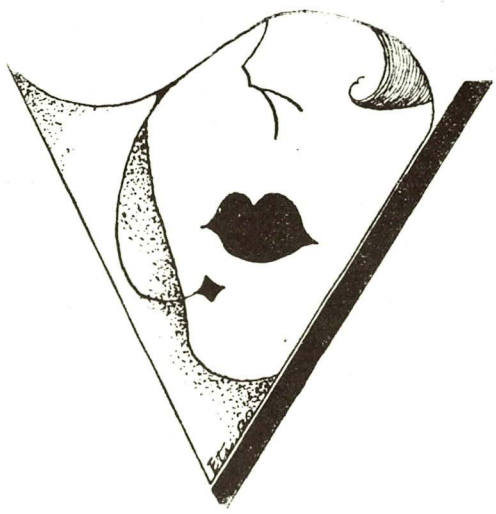
技巧の華やかさは應々にして小心淺見なる末梢的藝術家をして、核心なきみせびらかしの惑溺へ誘ひ易い。修辭學は畢竟藝術とは親しき關連なきものである。表現學は、畢竟要なき饒舌に過ぎない。生活なくして藝術を創見せんことは全然見當外れのわざである。今日まで空しき人類の虛榮心が追求して來つた世界の虛相を、そのまゝ傳統といふ美しき名に依つて頑にも守り傳へて行うとするのは言ふまでもなく空しいことである。過去の空しき技巧は今日放棄さるべきである。單に外なる姿、圍はれたる相のみを云々して我が能事終れりとする手合は、單にとり殘されたる型に徒らに執着するものであつて、自己の生活を高き氣品を以つて築く力を失へる者である。彼はただに藝術家ではないのみならず、生活失敗者である。

6

人生のための建築とは、畢竟、生活されたる建築の謂である。生活されたる建築とは、我々の生活と俱に息づく建築の謂である。我々の思惟と俱に思惟されたる建築の謂である。我々の魂と親しく觸れあふ建築の謂である。單に積み重ねられたる石積、とり圍まれたる周圍ではない。その表現は單なる過去の形骸の保守ではなく、その技巧は單なる外面の粉飾でもなく、その建築自體の本源よりしてまことの誠實もて力强く積極への境涯へ踊躍し、創見への道へ進出するもの、即ち、正しき人間的生活へまで些の躊ひもなく進展し得べきものであることを要する。建築は何よりも先づ我々の生活意慾の端的なる必至の表象である筈である。我々の建築が我々の生活意慾と何等の親しき交涉をもたない時、我々はこの不要物を滿足して我々の身邊近くに置くことは能きない。建築は今や肉體のためのものでのみならず、魂のためのものであるからである。

人生はあくまで生命的でなければならない。藝術はあくまで人生のものでなければならない。建築をして人生の高き表象たらしめよ。あくまで熱あり光あらしめよ。希くは、建築をして最高の藝術たらしめよ。即ち、求めらるべきは、清鮮純正なる生命的光輝である。健全重厚なる永劫的の氣品である。充實したる生活的な確實性である。

□　□　□



建築界は好況でない

Q Q 生

建築界の好況に目をつけた税務署

設計、監督業者の所得を徹底的に調査

近頃大阪、神戸、京都などの都會は家屋の新築や増築が著しく増加し、三市を通じて一年二萬戸を下らないといふ勢である、この現象は帝都の復興事業が一向にはかばかしくないのとその他の理由で建築材料が比較的安値を示してゐる關係から、財界不況の折柄とはいえ家を建てるものが多く、隨つて建築業のみは不況の打撃を蒙ることなく寧ろ關東震災以來は大はビルディング、百貨店、銀行等耐火耐震的大洋館から小は文化住宅等の建築に忙はしく專門の建築設計ならびに監督者を要望することが切實となつて來た、この事實にかんがみ、かたがた本年は所得稅額が不況のために幾分減少を免れぬからその埋合せ策として大阪稅務監督局では本年第三種所得調査新施設の一つとして右設計ならびに監督業者の所得調査を徹底的に行ふことゝなり、過般來同局直稅部では監察員約十名を京、阪、神の各市に派し調査させた、その結果によると從來の營業納稅者人員は十六名で、本年の所得金額は十八萬二千五百圓であつたが、今回の調査で新規に百三十四名、所得額四十五萬三千圓を增し、合計百五十人で所得額六十三萬五千五百圓との見込がたつた、之を前年の十六人分決定所得金額三萬四千九十一圓に比べて總額で六十萬一千四百九圓（歩合では百八十六割強）の增加となつたわけである（大阪朝日新聞所載）

九月五日の大朝の記事は上に掲げた通り、建築界の好況を報じ、設計監督業の所得稅の調査を徹底的にやるべく稅務署がいき込んでゐる事を數字的に統計を示して特筆大書した。

他所の花は赤い、建築界殊に設計監督業と稱してゐる所の建築家の此頃の狀態を見てもらひ度い、一人一人についてその內容を調べたらとてもお話になるまいと思はれる。

建築は他の事業や商賣と異つて好況時と云ふものは極めて短い、他の事業が好況を示した後、一時安定の時迄二三年過ぎてから初めて建築でもしようかと云ふ段取りになる、それから工事にかゝるかからぬ中に不景氣風が吹きそめる。それがいつも同じ週期でくりかへされる。從つて中止になる工事の多いことも建築が第一だらう。

設計監督は營業ではない、報酬を一定率に從て貰ふ一種のプロフェッショナルウォークなんだ。醫師、辯理士、辯護士に類する點が多い。報酬も一見多い樣に見えて實は甚だ不如意なものだ。年中續けて仕事があれば普通の營業と同樣に利益があるかも知れないが仕事の出る割合は

實にむらで昨今の如き不況時には一年に一つでも仕事があればとこひ願つてゐる建築家もあるとか。だから一つ仕事を設計してゐる期間だけに標準を置いて報酬を考へるなれば或はいゝ商賣にも見ねよう世の中は仲々そう問屋が卸さない。

最近ではビルヂングの借室料、助手の給料にも毎月首をかたむける方が多いとの事だ。建築請負者と設計者との經濟的比較は誤りの第一歩であるが、設計者は報酬で事務所を維持して行く、それと他の外國の建築家に比して極めて少い率でやつてゆく苦境を世間に知つてもらいたい。

大正七八年の好況時から延いて大正十一二年に建築を計畫し初めたものゝ幾分かが現在工事中で人目をひいてゐる爲に建築は好況だ等とは皮相の觀察だ。都市計畫だ斬切りだと云つても所謂大工が忙しいので堂々たる建築家の手をわづらはす仕事はほとんどないのだ。鐵筋コンクリートで新に建てるより高價な或は同じ位の金を出して舊い木造家屋をヒツバツて妙なタイルを張つたり銅板を張つてゐるのが多い都市計畫を見て建築家が忙しいとは片腹痛い次第だ。と云つて仕事がひまなのが自慢にはならないけれども全く苦しいのだから仕方がない。

次に一面から見ると建築設計の事務所がよさそうに見ねるので代書屋さん抔が建築事務所と看板を掲げ、設計、監督、出願手續一般等と業務目錄を列べる向が多くなつて來たので、建築事務所は玉石を混えて、素人から見るとどれもこれも判別出來かねる位になつたと云ふ惡原因もある。

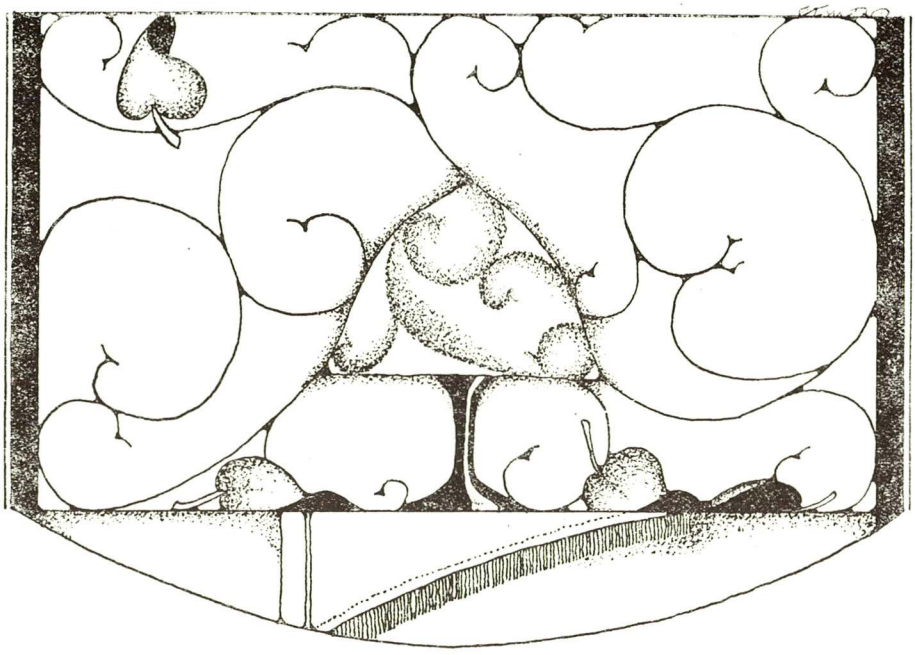
建築士、工學士、何の某と名乘る人も設計業何の何吉と稱するも腕前や信用は看板だけでは判らぬから無理もない。

之も要は日本建築士會の主唱するとは別の立場から、法定の建築士會を內務大臣が主管して、權威のある建築士の事務所が公認せられる必要を、裏書する一つの出來事だと思ふ。

終りに稅務署がもう少し賢明な比較判斷をする豫備として建築家を理解してもらひ度いと思ふ、又大新聞は之に限らず輕率な態度で民衆の好奇心をそゝつたりしないだらうとは信ずるけれども、念の爲に、そんなことのないのを希望する次第である。

疲れつゝ起き出で來ればみじか夜の

月殘りゐて黎の葉の影



創作

菊と嫉妬

—歸米して結婚せるエム・ケエ・ヘスラに—

草房主人

×

腹が立つ！

神樣！　なんぼなんでもあんまりぢやありませんか！　どうあつても一言私が言つといてやる。あいつは私の言ふことを何も彼も聞く筈です。律的（おきて）はモオゼの昔からその一點一劃も違へないで確く守らるべきものです。こんなことは今更ら言はなくつたつてわかつたことです。あいつは私の下につくものですから、私の許可なしに時間外にまで外出してゐてはならない筈です。それに、昨夜は九時の門限になつたつて素直に歸つて來ないで、締め出しをくつとき乍ら、今朝ミセス・ワグナアに聞けば、いつのまにやら鼠のやうに自分の寢床へもぐり込んでゐるなんて、あんまり酷いことです。さうぢやありませんか！　ひどいですとも！　どこに婦人傳道師らしい含羞（はにか）みや愼しみがありますか！　第一、この私を見くびつた話です。いゝえ神樣、第一、あなたの律法を平氣で破つてをります。私はあなたのために、あいつを平氣で棄てゝをくことは能きません。言ふだけのことをきつぱり言つとかなくつちやなりません。こんなことが例になつては、敎會の中がうまくまつ直ぐにゆく筈はありません。あいつは現に牧師の遠藤とはあんまり仲よくないぢやありませんか。何と言つても、敎會

といふものは牧師と傳道師とが仲よく手をつないで仕事をしてくれなくつちや、うまく和やかにゆく筈がないのです。信者だつて、遠藤の言ふことゝあの水町の言ふことゝが違つてゐれば妙な顔もしてみせるのがほんとうです。あいつは自分では誰や彼やに信望があるやうに思つてゐるかも知れませんが、それは大きな向う見ずな自惚れと申すもの。あいつは實際を言へば何一つしつかりした働きが能きるといふのぢやなし、たゞ、もとはやはり牧師だつた水町の未亡人であるといふに過ぎません。あいつの位置は、たゞ、みんなのあり來りの同情に依つて安全なんです。それに、如何にも自分は婦人傳道師だといふ冷たい思ひ澄した顔をしてゐるぢやありませんか。私がアメリカで一生懸命夜もろく〳〵安眠しない位、努力して嫌な日本語の研究までして、全三年もかゝつてやう〳〵婦人宣教師といふ肩書をもらつて、はるばるこの日本へ渡つて來たのとはだいぶ質が異ふのです。私はすでに大きな大きな犧牲を拂つて來てゐる！　おゝ、神樣！　私はすでに三十三にもなつてしまひました！　婚期は十年も前にすでに失つてしまつた！　もとはと言へば、あのヘンリイ・デビソンが約束ある私を棄てゝしまつて、あのいけ好かないリリアンの奴と結婚してしまつたことから起つて來てゐるのだ。ふゝん、あの二人のあの憎々しい平氣な顔つたら！　ああ、ああれからもはや十三年にもなる！　二人はもう三人もの子供を生んで、あの森の外れの向日葵の咲いてゐた家に今も住んでゐるんだらうか。なにがわからないつて、運命つていふもの程わからないものはないもんだ。あの村中で、この私こそがヘンリイのおもはれものだと噂されて、まつかに羞んで、明るいおちつかないその日その日を送つてゐた私、思つてみれば幼い田舍娘の私があさはかだつたのだ。あの時、私はあのまゝピストルを買ふために町へ急げばそれでよかつたのだ。なんにもあんなに思ひつめて、こんなに遠い日本の汚い町まで逃げて來ることは要らなかつたのだ。だけど、私はまだ〳〵邪氣がなかつたからこそ、一途に、早速婦人傳道師になる決心して、うるさい試驗もうけて、一生懸命說敎學や日本語を練習して、かうしてはるばる、痛んだ胸を抱いてこゝへやつて來たのだ。これも思へば、あの村一番のしやれ者のヘンリイが、これは日本の東京から來た菊の花だと言つて、一寸變つた花をあの書齋の窓下へ五六本も植えてゐたのがたつた一つのきつかけだつたのだ。氣に入つたので、私が奇麗な花ね、やつぱりどこか東洋的な異常な感じがあるぢやないのと言つたら、あのしやれ者のヘンリイが、一番大きなのを一輪手折つて私の胸に插してくれたのだつたのに！　そして二人が結婚したら、三年ばかりの豫定で世界を歩いて來やうこのためには村で一番だといはれるすつかりの財產を失つたつていゝんだ。第一には日本へゆかうよ。日本つて、ずゐぶん面白い奇妙な國ぢやないか。ヒロシゲとブシドウとの國だ。リキシャマンつていふ馬のやうに強い野蠻な人間がゐて、エミウのやうに車を曳いて紳士を乘せて五哩でも十哩でも走るんだ、（エミウつてヘンリイの飼つてゐた驅馬の名だつた）なんて眞顏で言つたんだ！。ふゝ！。だからあいつが私を裏切つたと知つた時、私は早速本日ゆきを決心して、かうやつて滅茶苦茶に來てしまつた！。あれから後の私は、たゞ自分の運命だと信じて、たゞ生眞面目に運命をまつすぐに歩いて來

た。こんなに澤山の痛い惱みをもつて私が今日まで來たと知つてゐて下さるのは、神樣、あなたの外にはありません。さうです、神樣、私はもう誰にだつて頭をおさへつけられるのは澤山です。馬鹿にされるのは澤山です！。水町なんかに無視されるために來たのぢやありません。そんなことなら初めから印度か朝鮮位へゆきますよ！。婦人傳道師は婦人傳道師らしくしてほしいものです。九時の決つた門限にはきつちり歸つて來てほしいものです。この宣教師館のうちらには、ワグナア夫妻とあの水町と下女の前田と私とが住んでゐますがこの中の一切の權利はたしかに私にあづけられてあるのです。教會でなんの集合もない時には、私はこの館の門はきつちり九時に締めることにしてゐます。どんな用事のためであらうと、約束はさうやす〳〵と破つてほしくないものです。あいつは一體婦人傳道師らしくありません。大切なのはこの點です。これ以上、神樣、あなたの御旨に適はないやうなことがもちあがりましたらそれこそ大變です。第一、私の責任問題が起ります。私は私として今のうちに私自身の立場をはつきり守つてをかなければなりません。私は信者間では冷たい理性の女だと評判されてゐるんださうです。何が冷たい女です！。ねえ、神樣、するだけのことは果さなければならないぢやありませんか。どうぞ、神樣、あの水町が私の言葉を入れて早速悔い改めることの能きるやうな柔和な心を彼女に與へて下さいまし。彼女のために私は祈ります。私は彼女のために唯よくあれかしと希つてゐるのです。彼女を愼ましい女であるやうにして下さいまし。彼女を悔い改めさせて下さいまし。私は言ふだけのことは言はうと思つてゐます！。

×

なんといふことが、ああ、起るんです！。

私の階段を下りる靴音が大きかつたといつてミセス・ワグナアが第一に私に吃驚した顏をドアを少しあけて見せる。目ざす水町はすでにミセス・ワグナアの椅子の前に坐つて、はかどらない日本語のお稽古です。私は偶然にもこの二人を向ふに廻して饒舌らなければならなかつた。私だつて、自分が不利だといふことは充分承知はしてゐたが、ゆきがゝりといふものはどうにも仕樣のないものだ！。私は言ひたいだけをすつかり言つてやつた！。それが當然だから當然のことを言つてやつたのだ！。

それにまあ、あいつはなんといふ頑迷な片意地な女なんだらう！。だから私、日本の女つていふものが嫌ひなんだ。嫌やにこせ〳〵僻んで、ひとをじろ〳〵瞶めるのだ。神樣、私があの時つい腹を立てたのはちつとも無理はなかつたと信じてゐます。もし、私が思はない罪を犯してゐたのでしたら、神樣、どうぞお宥し下さい。私はあなたご自身に向つてはちつとも罪は犯してゐないつもりではありますが！。

私はどうとう言つてやつた。

『あなたは昨夜は矢代さんの宅へいらつしたのではないでせうね！』

私は胸がすうつとしたわ！。

『いゝえ、ご冗談ばつかり！』と流石に少々驚き乍ら、あいつはきつぱり言つてのけた。『昨夜は杉田さんと堀內さんとをお訪ねしましたのです。杉田さんの奥樣が數日前からご病

氣でお臥みになつてゐますから、お見舞に行つて少々遅くなつたのです。奥樣がも少し話していつて下さいと言はれるので、つい〳〵九時には歸つて來られなくつてワグナアさんをお煩はせしたのです。三十分もおくれてはゐなかつたと思つてをりますが』なんて！

『それにしたつて、以後はよく〳〵注意して下さい』と私は頭の上から笑つてやつた。『あなた、近頃矢代さんを可愛がりすぎるといふ許判ですよ！』

『まあ！』つて、あいつの驚いた顔つたらなかつた。ぼおつと紅くなつたのは、あいつのさもしい心を私の言葉が痛く刺し通したからだ。ミセス・ワグナアは吃驚して私の顔を見上げたが、私だつて、も少しは柔らかい日本語も心得てゐるのだ。女がどんな言葉を使つていけないか位はわかつてゐるのだ。も早や日本語を饒舌らねばならぬやうになつてから十年近くになるし、馬太傳や羅馬書の難しい文字がかなしでもすら〳〵讀める私だ。だからこそ、わざと知らない風をして粗野な言葉であいつをぴつたり釘づけにしてやつたのだ。この釘に打たれておとなしくしてゐる間、あいつは底知れない罪の深淵へ墮ちるやうなこともあるまい。今にあいつにもわかる時が來れば、私のこの激しい忠告に感謝しなければならなくなるだらう！。

私は言ふだけ言つてしまへばさつさと部室を出て來ればよかつた。相手の返辭を待つてゐた私はあまりに正直すぎた。『昨夜街の通りで菅井さんにおあひしましたら、今日午後あなたをお訪ねするつて言つてらつしやいましたよ』

ふゝん！。私はちつとも顔色は變へなかつたと信じてゐる。菅井と私とが何の關係があるのだ。そんなことで、私にそれとなく復讐しやうなんて、あんまりさもしい事だ。私はそんなこと位ぢや顔を赧くするやうな女ぢやないのよ！。

『あゝ、さう』と私は冷たく受けてやつた。

『あらつ』とあいつが立ち上つた。だしぬけだつた。窓の外へにつこりして見せた。矢代がすぐそこへ來てゐた。なんといふことだらう！。矢代は菊の花を片手一杯に持つてゐたのだ！。

私の動悸は今もなか〳〵おさまりさうもない。私はあれから早速自分の部室へ歸つては來たが、なんだか胸がむか〳〵する。矢代は神學校の學生だと言ふが、さうだからつて、水町なんかと特別に親しくしていゝ理由はない。菊は彼が水町に與へるためにもつて來たのだ。なんて嫌やなことをする奴等だ。私は今にあいつらのひそ〳〵話を壁のこちらからはつきり聞き出して、きつぱりした態度をとつてやらなくつちやならない。私は矢代といふあの青年もどうも虫が好かない。どつかに角のある獸りやで、そのくせ嫌やに叮嚀に口をきく。水町には今度こそ痛い忠告をしてやらなくつちやならない。どこまでこの私をないがしろにしやうといふのだ！。あんまりぢやありませんか！、神樣。

おや。ノックだ。ふふ。嫌やに注意深い輕いノックだ。あいつだな。水町の奴だな。知らぬふりして默つてゐてやらう。一度引きかへしてまた出直すがいゝ。せめて、私のこの胸騒ぎがやまつた頃にはお出でよ！。

ふゝん。一度ひきかへしたと思つたら又やつて來たな。今度は少し手強く、こつ〳〵やつてゐる！。私はできるだけ冷

たい顔をしてゐてやらう！

『おはいり』

そら！。やつぱり！。おや、菊が！。まあ、なんて失敬な！。考へのないにも程がある！。

『ヘスラさん、菊をさしあげませうか。少々早咲きで珍らしうございます』なんて！。

『えゝ、ありがたう。だけど、私、菊はあんまり好きにはなれないの。いやな思ひ出があるのでね』

『まあ、さうですか』

引つ込めるのかい？。ちやあ、貰つてあげやう！。

『だけど、まあ、せつかくだから頂いときませうか』

『えゝ、どうぞ』

さつと菊をひつたくるなり、私はぴしやりとドアを閉めてやつた。あいつが吃驚してくれゝば、私も本望よ！。えゝ、えゝ、たんとたんと、私をみくびんなさい。どうせ、私は偏狭なオオルド・ミスなのよ！。

あゝ、神様、私は今少時はたつた一人でじつとしてゐたいのです。あんまり私は荒れてしまひました！。女らしくありませんねえ。

あゝ、あゝ、これはまたなんといふ花なんだらう！。遠い遠い昔の香ひがする。遠い遠い裏切りの匂ひがする！。あゝあゝ、なんていふ花なんだらう！。

×

神様。私は何も彼もをあなたの御前に投げ出してゐます。私を私であるやうにして下さい。私は眩暈がします！。

私はいけないことをしてしまつたんだらうか。宥されないことをしてしまつたのだらうか。あゝ、たつた一つのあやまちが、そんなに批難されてはあんまりだ！。いゝわ、私は悪いことをしたんぢやない。なんにもかも當然ぢやないか！。何も彼も丁度いゝ具合だつたのだ。

あの時菅井が來てくれなければ、私はもう一寸であの菊の花をばら〳〵にしてしまふところだつた。

私は早速あの菊をテエブルの上へほうり出してをいた。菊は勝手に香り高く匂つてゐた。しばらくの間に、部室じうが菊畑になつてしまつた。胸は痛んだ。故郷の青空が窓のカアテンの上へはつきり見えた氣がした。リリアンの奴が向うを向いて立つてゐた。目が痛たかつた。あの時ふと涙ぐんだ私は流石に少し弱かつたのだ。

いゝえ、私は弱くはない！。ふふん！。女々しい私自身に腹が立つ。私は早速とびかゝつて、あの菊の花をむしつて、むしつて、むしり切つてやるつもりだつた！。

『Good afternoon, Miss. Hessler.』

まあ、だあれ？。不意に！。ノックをなさいよ！。

『まあ、菅井さん、吃驚させるぢやないの』

『Oh, beautiful chrysanthemum !』

『きれいでせう？』

『あゝ、すゐぶん』

『あなたにあげやうと思つてゐるの』

『さう？ Many thanks.』

三人はすでに向ひあつて坐つてゐた。私はすつかり輕い氣持になつてゐた。菅井のへんてこなアクセントが私を微笑ま

せたのだつた。私は笑つてじいつと菅井を瞶めてやつた。
『菅井さん、あなた私の前ではもうそんなへんてこな英語なんかつかはなくつていゝのよ』
『ヘスラさん、あなたの日本語だつてアクセントがなつてやしないんですよ』
『これで、私にはようくわかるのよ』
『僕も自分ではこれでいゝつもりでゐる』
『まあ、なまいきな！。スクウルボオイのくせに』
『アメリカの學生にだつて、ずゐぶんませたのがゐるつていふことですね』
『まあ、なんて口のわるいヘンリイ！』
はつとした！。
『えゝ？。ヘンリイつて？。僕がそのヘンリイつていふ男と似てゞもゐるんですか』
『えゝ、當つたわ。それはようくね』私は流石に少々困つた。
『ヘンリイつて、私の——弟よ。三つ年下の』
『へえ？。今、やつぱりアメリカに？』
『えゝ。そりや、幼い時はよく喧嘩して、二人とも祖父さんによく叱られたものよ』
『今はもう立派な紳士でせうね。口髭のある？』
『えゝ。もうずつと以前に結婚して！』あゝなんといふことを！『三人も子供があるのよ！』
あゝ、神樣。
『その弟の妻はリリアンといふのよ！』
『リリアン？　きれいな名——』
はつと、手をとつた私もわけがわからなかつた。私は、次の瞬間、驚く菅井の頰に自分の顏を伏せてしまつた！。
『僕はあなたを尊敬してゐます。崇拜してゐます』と菅井はすつかり面喰つて、慄ゐ乍ら、おど〳〵と、しつかりと私の手を捕へてゐた。
『あなたは私の弟ヘンリイよ。わかつて？　誰にも秘密よ。また明日午後三時に。ね』
私は菊を無理おしに押しつけて、まだ夢のやうな昂奮から醒めてゐない菅井を早速歸らせた。
今はなんにも考へたくはない。默つてぐつたり、明日の朝まで、寢床の上で思ふさまぶつ倒れてゐたい。
泣けたら泣けるだけ泣いてやるのだ！。
私は、今の今になつても、やつぱりあのヘンリイ・デビソンを愛してゐたのか！。
菅井はその歩きつ振りが一寸あのヘンリイに似てゐるつていふまでだ！。
いんま、はつきり氣がつけば、水町はあのリリアンに似てゐるのだ！。あの目付きつたら、ようもまあ似てゐる！。
初めつから、なんだかあいつがいやだと思つてゐたら、あいつはリリアンだつたのだ！。
眩暈がする。なんといふ熱だらう！。體溫器はどこへしまつてをいたかしら。

×

『先生お手紙が來ました。アメリカからですね』つて、下女の前田がもつて來てくれた封筒。それがまあ、意外も意外、あのヘンリイ・デビソンからの便りだとは、神樣、今の今ま

で、私どうして氣がつきましたでせう！。

これは屹度水町あたりの惡戲ぢやないのかと、初めは人を疑つたからつて、神樣、いちがいに私をお責めにならないで下さいまし。ほんとうに、これは、十三年のあのヘンリイの筆蹟です。まあ、この嵩高い手紙。これは眞實遠いアメリカから來たものに違ひありません。

あゝ、私の指先はやつぱり慄えてゐる！。

神樣、私はすでにもう三度もあなたに繰り返して祈りました。このまゝ無事に燒き棄てやうか、讀まうかと、私はもう一時間といふものを、決心したり躊つたりしてゐます。あゝ、火を前うしろにした氣持です。

ああ——私！。

やつぱり讀まうと存じます。神樣、これはあなたのお心でございませうから、やつぱりこの手紙は素直に讀まうと存じます。あなたは讀めとおつしやつて下さいます。有難うございます。私は讀みます。讀んだうえでのことです。

私は既に封を切りました。胸騒ぎを沈めて下さいまし！。

——リリアンは流行性感冒から急性肺炎を並發して、この春三月死去。與へられた三人の子供は、二人とも幼いまゝに神の邦へ歸つてしまつた。私はたゞ空莫たる數多の部屋に、三人の下女下男と倶に淋しくやるせなくとり殘された——

ふゝん！。男つて勝手なもの！。誰が！。

——リリアンは流行性感冒から急性肺炎を曳發して、この春三月死去。——

ねゝ、それが當然ぢやなかつたの！　神樣は不公平では決してない！。あなた、たんと泣きましたか！

——今更ら、私は正面を向いてあなたと顏を合はせやうとあつかましく望んでゐるのではない。たゞ私にとつて痛く心にかゝることは、あなたはすでにどうあつても日本の土となる覺悟で、歸來の希望を自ら絶ち、住家を巡つて數百株の菊を植えつけ、（あゝ、思ひ出の菊の花よ！。時はすでに過ぎたが、あなたはあの時を忘れましたか！）靜かに行ひすまして、たゞ淋しき信仰の道を歩いてらつしやるといふ噂をきくこと。あなたはそのご生涯を私を憎み蔑んで過ごされやうとで自由ではあるが、たゞ、希くは　すでにお互に年老いて、若き日の怨恨や戀情を語るにも早や野望も亂心も感じなくなつた頃、是非、是非、せめて今一度だけあなたにお目にかゝりたい。あなたの去つた村には　リリアンや子供達の死んだ外には、自動車が多くなつた位で大した變りも見られぬ。ふとした氣まぐれから今年は例年になく澤山菊を植えたので、しきりにあなたが思はれてならぬ。——

なんていふ手紙だらう！。

まあ、なんて虫のいゝ！。ふゝん、こんなことで私のこの石になつた胸を解かうなんて、ヘンリイもあんまり私を知らなすぎる！ご。うして私、ヘンリイの目先きへなど、死骸になつたつて歸るものか。まあ、なんて不快な手紙だらう。

なんといふめに、ああ、私はあはねばならぬのだらう！。

おや——？。やつぱりノックなのか。お早うつていふ聲がする。今頃、誰よ、一體。

『おはいんなさい』

遠藤だ。牧師に似合はないおべつか野郎のご機嫌とりだ。

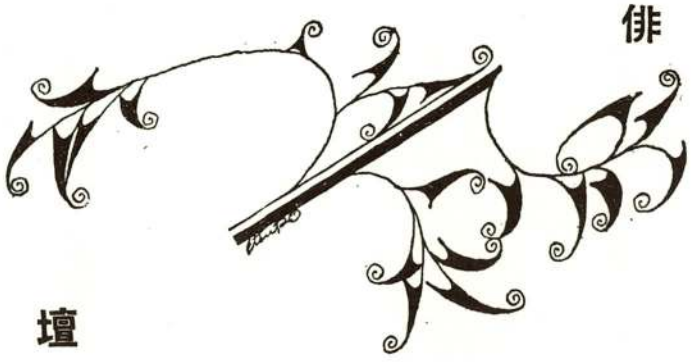
『お早うございます』
『あゝ、いゝお天氣ね。今日も』
『ご書見ですか。お邪魔致します』
『いゝえ。まあ、おかけなさい』
私より脊丈の低い遠藤はちよこなんと椅子へおちついた。
『實はこんなに早くからお伺ひしたのは外でもありません。實はこれからあちこち信者を訪問に廻らうと思つて、一寸初めにお寄りしたのですが、じつは一寸お耳に入れたいことができましたのです。と、言ひますのは、あのう――それ、水町さんと矢代さんとの問題なのですが、――あなたも或はお聞きになつてらつしやいますでせうが、實は――』
『えゝ、何も彼も充分知つてをります』
私は急いでゐる。今は遠藤どころぢやない。早く切りあげなくつちや！。
『で？』と彼は私の鼻息を覗ふつもりなのだ。
『あなたは馬太傳五章二十八節をどういふ風に解釋します』
『勿論、字義通りにです』と言つた彼のあの顏！『つまり、婦人を見て色情を起したものは全て立派に姦淫罪に問はるべきものです。敎會法にはなんと名記してありますか』
『勿論、死に當る罪だといふまでゝす』
『さうです。――それから、これは婦人に對する男子にだけではなく、婦人の立場からもこれと同等であると見るべきだと私は信じてをりますが、つまり、矢代さんだけを責めるんぢやなく、それと同等に、或はむしろ、主として水町さんの反省を促さなければならぬと私は思ふのです』
『さうです。婦人は第一に愼しみ深くありたいですから』
『さうですとも』と彼は念を押した。『そこで、ヘラスさん、實は、今日午後、あなたを初め、ワグナアさんご夫婦、重だつた信者の方數人、それに私なんかゞ集つて、その場へ水町さんと矢代さんとを呼んで、皆でひとつ、悔改めを促してみやうと思ふのです。友が罪に陷ちてゆくのを私達はそのまゝ見過ごしにするわけにはゆきませぬから』
『さうですね、全く。私もこれまで一二度個人的には水町さんに忠告はしてをきましたが、あの方は少々片意地でしてね』
『さうです。さうです。それが罪の根です。そこで――』
『さて、遠藤さん、あなたは何かはつきりした證據を握りましたか。二人があひびきしたとでもいふ？』
『いゝえ。別に――』と驚いた彼！『ですが、すでに何彼とあちこちから聞いてゐますし、それに、こんなことは、誰よりも二人自身がよく知つてるでせうし、何と言つても神樣が――』
『さうさう、銘々がこそ自分を知つてゐるのです。あの人はいづれ辭表を出さねばならぬことになりませう』
『あのやうな方が若い青年を愛するなんて以つての外です』
『遠藤さん、あなたは人を憎んだことがありますか』
『ちよ、冗談でせう！　私は誰も彼もを祈り心を以つて愛してゐます。今度のことだつて二人のためを思へばこそです』
『さうでせうとも。牧師といふ立派な職分を忘れてはいけません。――ところで、さう言へば、私と管井さんとがなんとか言はれてゐさうですね』
『ご冗談ばつかり！』と驚いた彼の樣子は面白い！『あなたを私達が疑ふなんて！。管井さんは時々英語を習ひに來なさ

るだけぢやありませんか」
『さうさう。昨日、矢代さんがあの人を訪ねて來ましたよ』
『さあ、それがです！』
「菊を持つて」
『へゝ？——それが第一いけないんです』
『いゝえさ、その菊は私も有難くおすそわけして貰つたのよ』
『そりや？——まあ、いゝとしまして、今日午後三時に皆さんに教會へ集つてもらうことにしては如何でせうか？。今夜は祈禱會ですから』
『三時は私困るのよ。祈禱會のすんだ後にしちやどう？』
私、もうめんどうくさくなつちやつた！。それよりか、私今から管井を連れて一寸神戸まで行つて來やう。次に出るアメリカゆきは何日かしら。なんなら來月早々の汽船にしやう。たつた一目あのヘンリイに私はあつて　怨みのありつたけを言つてやりたい！。えゝつ？。十三年の年月が、手紙一通でもとに歸るなんて！、　馬鹿々々しい話！。

×

——しつ、しつ、しつ——。
『管井さん。ご苦勞さんね。私、一寸、汽船の都合を訊きに來たのよ。——お禮にはどこかで晩餐をご馳走するわ、ね』
嬉しいんだな！——しつ、しつ、しつ——今日の靴音のいゝこと！——管井は羞んでにこにこしてゐる！。可愛いゝボオイ！。もうお別れよ！。
『管井さん、私ね、來月七日の横濱發のであちらへ歸るのよ』
まあ、あの驚いた顏！。
『あなたとの昨日のことね。あれがもうすつかり人に知れてしまつたのよ。うつかりして窓のカアテンを下してをかなかつたものだから、つい人に見られてしまつたのよ。私、今夜祈禱會のあとで辭表を書くのよ』
まあ、赧くなつたり、青くなつたり！。私、病氣だといつて辭職するのよ。心配しなくていゝのよ。私はアメリカへ歸りたいだけなのよ！。歸りたいのよ！。
『あなたは心配しなくていゝわ。一切を引受けて、私が辭表を書くのよ。日本にゐなくなるのよ。——だけど、あなたはいつまでも變らない私の弟よ！。
——しつ、しつ、しつ——なんて愉快な！。
『二人を見たのはね、管井さん、あの水町さんよ。だから私、今夜はあの人にも矢代さんのことで辭表を書かせてやるのよ！』
リリアンはも早や黒い土になつてしまつたらうな！。あの水町だつて、今少時しかこの町にはゐなくなるだらうよ！。
あゝ、ヘンリイ。たつた一目でいゝからあなたにあひたい！今にあなたを吃驚させてあげる！。汽船は來月の七日よ。
——しつ、しつ、しつ——
『管井さん、昨日あげた菊ね、あれはできるだけ大切にして下さいな。——私は菊が大好きなのよ——』

俳壇



溪舟選

踊り疲れて輪を出る二人三人哉　臘月
踊り子をいとしと思ひめにけり　知り人の踊り見つけて踊りけり　踊りたゞ見てゐる淋し心哉　埃草踏みつゝ踊りがへり哉　渡し場に來て笠ぬぎぬ踊子ら　月更けて疎らに動く踊哉　誘はれて踊りの群に入りにけり　今宵きりの踊と草も風誘ふ　切れし花緒すげて又入る踊哉　袖亭
酒の友誘うて出づる踊哉　晴峰
月いよ〳〵踊はづめる濱手哉　月雨

踊

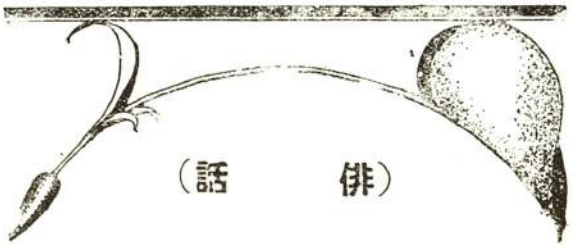
踊待て温泉壺に遠音聽ゐたり　すゞめ
踊疲れ伏す草や不圖暖く甘し　踊まつや月の障子の芒かげ　踊る輪の影にとぐきて浪白し　踊り疲れて踊子や寺の椽雨人　踊塲の月踊の輪ふくれたり　隱居處に踊子つどふ樂屋哉

秋の雲

大湖や一帆見えて秋の雲　昌朗
贈鳴り舟芦分けてゆくや秋の雲　風に乾く糊乾物や秋の雲　草の中に嘶く馬や秋の雲　縫終へてさやか綿掃く秋の雲　すゞめ
波白き岬はるかや秋の雲　秋の雲おどろ吹るゝ牧の山羊　音絶ねぬ野の大驛や秋の雲　丘に添うて過ぐ行軍や秋の雲　晴峰
橋普請の槌の響や秋の雲　秋の雲厄日事無く暮にけり　松すけて海見ゆ秋の雲はゆる　潤一路
池樋門ぬく日の晴れや秋の雲　屋根に屆かう枯朝顏や秋の雲　秋の雲窓をかすめて夕蜻蛉　暮村
夕晴れに煙突高し秋の雲　秋の雲と富士と明るき湖面哉　崖について溯る舟や秋の雲　參々
鳥それて獵ヶ矢は秋の雲に入る　秋の雲大江の果に山もなし　姑仙
岩の上の一つ祠や秋の雲　日續きのしけをさまりて秋の雲　酉水園
病馬曳きて野を町にゆく秋の雲　澄める空に立つ大銀杏秋の雲　一作
秋の雲或ひは嶺にかすれたり　大利根の川口ひろし秋の雲　袖亭
裏山に竹きる音や秋の雲　月雨

次號課題

◆「案山子」（鳥おどし）『夜永』　各五句まで
◆各題別紙に認む、但しハガキ一枚に一句づゝを認むる人あれど、それには及ばず、一枚に五句までよし
◆締切　十月二十日
◆屆先　大阪市堂ビル三階　日本建築協會



秋に入りて

（俳話）

溪舟

◎春夏秋冬、一年中の自然境はいつだつて句に適しないことはないが、しかも、その中で秋になると、俳人の句意が一とうよく働くやうである。それは、暑くるしい夏から、涼しい、爽やかな時候に移る快適な氣持からくるものゝやうに思はれる。

◎まづ、われ〳〵に、一とうよく秋涼の氣分を報じてくれるものは風である、秋分にはいつた時に、われ〳〵の肌にヒヤとして訪れてくる秋風である。秋の殘暑の日の力といふものはなか〳〵烈しいもので、日中道をゆくと、かなり暑さを感じるが、しかし、少しでも物の陰にはいると、秋らしい涼しさが肌にふれる。「あゝ、やつぱり秋だな」感じる。

◎自然は、實によくしたもので、春の風は低く暖かに柔らかに吹くが、秋の風は高く涼しく爽やかに吹く

◎春の風が低く暖かく柔らかに吹くが故に、地上に咲く草の花は大てい丈が短かい、すみれ、たんぽぽ、げんげ、みな丈けが低う地の上に咲く。

◎秋の風は高く涼しく爽やかに吹くが故に、地上の花は大てい丈げが高い、紫苑、なみなへし、男へし、尾花、桔梗、みな丈けが高い。

◎風吹くが故に、そこに花さくか、花さくが故に、そこに風ふくか、それはよく私は知らないが、兎に角春の風は低く、秋の風は高く、春の草花は低く、秋の草花は高く咲くこと丈けは知ることができる。

◎自然は、適くとして可ならざるはないことを思ふ

◎私は俳人ではない、その證據には餘り俳句を作らない。私が俳句に携つてから、すでに三十年近くにもなる、今の古い俳人たちが俳句を作り出してゐた頃には、私も間もなく作り出してゐた、私は俳句關係の本前ども二三書いて公けにしてゐる、句もその頃はかなり作つたかに思ふ、けれども、私は俳人にならうと考へたことは一どもない、たゞ俳句を一のある形式をもつた詩として、私はそれを樂しんできたまでゞある。

◎けれども、私は俳人ならぬ俳人であると、自分自身で信じてゐる。

◎俳人には俳人かたぎといふものがある、餘り句作に熱中し、俳句に囚はれると、世の中の事一切を、俳句から透してみるやうになる、故に、俳的でない事は何もかも邪道に陷つてゐるかのやうに解釋してそれを忌んだり、避けたりする、それほどでなくても、俳的でない事を悦ばぬやうな氣持になる。

◎このかたぎは、俳人として常に避けなければならぬ處のものである。何もかも、自家の型にハメて考ふる事はよいとは云へない。世の中の一切は、俳的にのみ出來てゐると思つてはならぬ。出來すべきものだと思つてはならぬ。

◎よし、俳句は作らずとも、眞の俳趣さへ解してゐれば、その人は立派な俳人である。

◎この間、ある方面から、私の親しいある俳人のその妻が、若いある男と通じてのがれたについて、その妻を俳人のもとにかへしたものであらうか、否かについて、手紙で慇々私の意見をもとめにきた人がある。

◎私はそれに對して次のやうに答へておいた。

◎私は何ともお答へしかねるが、それはその俳人の考へ一つにあることで、他の誰でもが知たことでないと思ひます。

◎何故なら、われわれが、それを元に返すのがわるいと云つて、百人千人口を揃へて主張したところで、俳人が、イヤ戻す方がいいと云つて戻したら、われわれはそれを何うする事もできないからです、云はばわれわれの決議(?)は、どちらにしてもムダなハナシであるからです。

◎もしこの善惡の判斷によつて、われわれがその俳人との交りを絶たうか、續けようかとの問題ならば、その俳人が戻した時、或ひは戻すことを肯んぜざる時われわれは自然に去るか、自然に就くかしたら一とういいので、この外には絶えて策ありとも考へられません。

◎私は右の如く返事をしておいた。

◎私は斯ういふことの起つた事を、深く遺憾とする一人である。

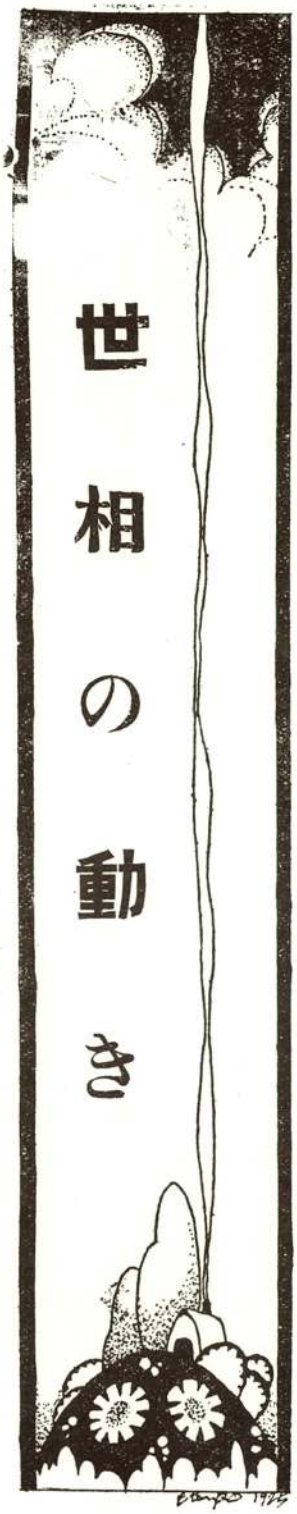
◎秋に入つてから、私の檢したこの雜誌以外のもので、よいと思つた句

迅雷や障子離れし火取虫　水香
雷過ぎて神蘇の思瓜をむく　種女
潮浴びて上れば砂に影長く　同
潮浴の減るに日くれて波頭　雛山

◎私のを二三句しるしておく

潮浴へ路岐るゝや松の中　溪舟
潮浴や輕雷雨をこぼしさる　同
潮浴場畳の垣根の花木槿　同
潮疲れ濵撫子を折りにゆく　同

世相の動き



◎建築材料界の近況

財界の不況に加ふるに東京及び横濱の如き震災地は區劃整理の完了しないためなほ本建築時期に入らぬ關係もあり我建築界は近來ます〳〵不振を極めつゝあるがこれに伴れて建築材料は引續き低落歩調をたどり日本銀行の調査に係る主要品築材料五器の七月中の指數を見ると二二二（三十三年十月を一〇〇とす）となり前年七月に比すれば五十三ポイント即ち二割弱、大震災前の十一年七月に比すれば六十五ポイント即ち二割三分の激落である、今その各月の消長を比較表示すると次の如くである

主要建築材相場指數比較

年次	木材	煉瓦	洋灰	疊表	平均
三年七月	一〇四	一一三	九六	八五	一一七
九年七月	三六二	四五六	二六〇	三五九	三四六
十二年七月	二八三	三〇四	一九六	一八二	二七七
十三年七月	二五九	二八八	二四六	一九六	二三五
八月	二五五	二八八	二四六	一九六	二三五
九月	二五八	二八〇	二三五	二二七	
十月	二五八	二八〇	二四一	二四八	二五七
十一月	二五八	二五五	二四七	二五九	二五三
十二月	二四三	二四八	二四九	二四七	二四〇	二五一
十四年一月	二六七	二七二	二四九	二四七	二五〇
二月	二五〇	二七二	二四九	二四七	二五〇
三月	二四三	二七二	二四九	二四六	二四五
四月	二二六	二七二	二一八	二四六	二三九
五月	二一〇	二七二	二一八	二四五	二三六
六月	一九九	二七二	二一八	二四二	二二一
七月	二〇一	二五六	二四四	二四〇	二二二

（備考）明治三十三年十月を一〇〇とす

更に都下第一流の某建築請負業者の調査に依れば金屬石材その他硬質建築材九品の八月中の平均指數は二一九（大正三年一月を一〇〇とす）木材類九品の平均指數は三〇二でこれを前月に比すれば前者は二ポイント、後者は四ポイント總平均において三ポイント方の低落を示し、前年八月に比すれば硬質材料は三十二ポイント、木材類は四十五ポイント安となり共に一割三分方の低落となつて居る。即ち各品別に昨年以來における相場低落の狀を比較表示すると次の如くである

建築材料品相場指數比較

種目	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十四年 十三年 八月
割栗砂利	三四九	三五〇	三五〇	三七七	三七七	三七〇	四一八	四二五	四四九
セメント	一八二	一八二	一七六	一七六	一七六	一七六	一七三	一七三	一九四
煉瓦	二一〇	二一〇	二一六	二一六	二一六	二一九	二一九	二二五	二三六
石材	三七九	三九七	三九九	四〇四	四〇四	四〇四	四〇四	四〇四	四四二
鐵物	一四七	一四六	一四七	一四七	一五一	一五四	一五八	一六三	一五六
亞鉛鍍鐵板	一六五	一六三	一六〇	一六三	一六六	一六四	一六四	一六四	二〇四
生子板	一五二	一四七	一五〇	一五〇	一五五	一五七	一七七	一七七	一六〇
銅コーベル板	一八五	一八三	一九〇	一九〇	一九九	一九九	二〇九	二〇九	二三三
家根材料	二〇六	二〇八	二一九	二一八	二一一	二一一	二一一	二一一	二三五
硝子	二一一	二一九	二二四	二二六	二二九	二三三	二四〇	二四一	二五一
以上平均	三五五	三五八	三五八	三五八	三五八	三五一	三五一	三五一	三八七
杭及梁松丸太	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二九六	二九六	三四四
長杉丸太	二九〇	二九〇	二九一	二九一	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三四四
押角山挽角	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三四四
板類	二五二	二五八	二六八	二七七	二七七	二五二	二五九	二五九	二九三
葉柄（杉松）	二五二	二五七	二五七	二五八	二五八	二五九	二五九	二五九	二九三
松挽立小屋材	二九四	二九〇	二九〇	二九一	二九一	二九二	二九〇	二九〇	二九七
米松角材	一三七	一三七	一三七	一三七	一六四	一六四	一六四	一六四	一六四
杉丸太	四一九	四一九	四一九	四一九	四一九	四一九	五〇〇	五〇〇	四八六
檜丸太	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四四〇
同上平均	三〇一	三〇五	三〇八	三一六	三一四	三一四	三二五	三三六	三四七
總平均	二六一	二六四	二六六	二七一	二七七	二七八	二七九	二八九	二九九

（備考）本表は大正三年一月を一〇〇とす

右に依ると硬質材料中前年八月に比し下落して居らぬものは割栗石と砂利及び亞鉛鍍鐵平板と生子板位のもので他は皆低落せるがなかんづく下落の甚だしきものは石材煉瓦、家根材料、硝子等で少きも二十ポイント、多きは七十三ポイントの激落である、また木材九品中騰貴または保合へるもの一もなく皆低落せるがなかんづく下落の甚だしきものは杭及び梁松、長杉丸太、板類、葉柄、松丸太及び檜丸太類で、少きも四五十ポイント方、多きは六七十ポイントの激落となつて居る、かくの如く建築材料の低落して震災前より低位となつたのは一は一般物價の下落に伴ふた點もあるであらうが他においては震火災地における本建築の一向進まないのと災害地以外においても不景氣のため建築を差控る氣味となりために木材その他建築材の需用が減少した結果である

◎農村住宅の改善

農村住宅改善に關しては種々なる方面から考究されてゐるが今回農林省に於ては徹底的に農村住宅改善の必要を感じ各府縣農會をして調査せしむると同時に調査に關しては相當の國庫補助をなす方針であるといふ、而して現在の農村住宅を見るに衛生、趣味、經濟の三方面よりして不備なる狀態にあり之が改善は生活改善同盟會等に於ても主張するが如く必要以上に緊急なる問題であるが從來は都會のみに生活改善が叫ばれ農村生活に對しては政府の施設は餘りにも貧弱なるのみならず一般の輿論も之れに向けられなかつたのである之は一面農村疲弊の極に達したる結果の衣食住よりも先づ生産增加に努めたるも其原因の一ではあるが農民の生活が向上すると同時に之が生活改善は益必要となつたのである、即ち非衛生的住宅を換氣、光線、溫熱の適當なる施設に依つて完備せしめ文化的ならざる農村住宅を趣味的たらしめ經濟的には起居のみならず農業に使用し得る設備を必要とするが養蠶室の如きは相當研究さるべき問題である、之等の關係上各府縣の農業經營の規模如何、氣候、農業狀態に依つて自ら構造、形體にも趣を異にするのであるが現在では愛媛、佐賀、岐阜、京都、神奈川等に於て相當奬勵調査され佐賀縣等は懸賞募集に依つて理想的農村住宅を設計して居る然るに政府の住宅資金は多く都會に向けられるが故に農村に於ける住宅改善は結局資金難に陷つて居るので農林省では產業組合を基礎とせる建築組合の發達に依つて之が改善を圖るの外はあるまいと云つて居る

◎中央官衙建築委員會織組

內務大藏文部其他中央諸官衙の建築計畫に就いては既報の始く過般來次官會議の議題として協議しつゝあると共に大藏省の營繕管財局でも敷地の割當を決定し速かに之に着手すべく其の調査研究を進めつゝあつて財政計畫上來年度豫算には建築費を計上する事は出來ないとしても其の準備費即ち敷地內建物の移轉又は地均し等の經費は計上される事が確實なので大藏省では更に各省廳舍の面積間取其他建築に關し營繕管財局との打合せ又は連絡を取る爲め濱口藏相を會長として各省次官營繕管財局長等を以て委員會を組織すべく既に其の官制は法制局に廻して居るので其の審議すみ次第發表すべしと

◎街路網の決定

都市計畫法によつて都市計畫を施行することに決定したる都市は六大都市をはへて四十七都市でこのうち六大都市のみはすでに街路網並に地區の決定を終り內務大臣の認可を得て都市計畫事業の遂行に一歩を踏出してゐるが六大都市以外の四十一都市は地域並に街路網の決定を見てゐないので內務省は都市計畫事業の實際に鑑みてこれ等の都市に對し都市計畫の根幹たる街路網完成を急がしめることになり近く各都市に向つて通告をなすことに決定した、右について當局者の語る處によれば都市計畫を實施することに決定したる都市は六大都市を除く外四十一都市であつてこれ等の都市は單に都市計畫を實施することだけは決定してゐるがいまだその根幹たる街路網の決定をみてゐない右四十一都市のうち約十都市はすでに大體の街路網の豫定計畫案を作製してこれが認可を要求してゐるがこれを除く他の都市に至つては未だ街路網のプランもできてゐないので速かに街路網の計畫を樹てプランを定めて上申せしむることになつてゐる。六大都市を除く四十一都市計畫は現在右の如き事情にかゝはらず調査してみるとすでに毎年四五萬圓を都市計畫事業費として計上してゐるが右の經費が果して如何なる方法によつて費されてゐるか頗る疑問である何とならば都市計畫はその根幹たる街路網を決定せざる限りその事業を開始することは殆ど不可能でなければならぬのにかゝはらずすでに事業費を計上してゐるといふのは寧ろ不可能の點がある。これは恐らく都市計畫なるものが實際徹底してゐない證據である。故に速かに街路網を決定せしめてこの決定したるものに對して着手せればそれ迄つひやした經費は或るひはこれより行はんとする都市計畫事業とは全然無關係のものとなる恐れがある。都市計畫は兎角都市擴張事業や市區改正と誤られる傾向がある。

この點は特に都市計畫委員の注意を促したい都市計畫は有機的のものである故に地區の決定即ち工業地、商業地、住宅地を確然と決定しこれによつてすべての計畫を進めて行かればならぬものであつて市區改正や都市取擴げの事業とはその理想を全然ことにしてゐる。街路網のプラン製作を急がしめると共に地區を速かに決定しておきたいとおもふ。

◎四十一都市に市街建築法實施

都市計畫法は現在四十七都市に實地されてゐるが六大都市以外の四十一都市はいまだ市街地建築物法が適用されてゐず、事業計畫を進める上に支障少くないので、内務省官房都市計畫課では關係各府縣に對し照會を發した結果すでに大部分回答が纏まつたのでいよ〳〵勅令案の起草に着手するごとくなつたから、遲くも本年内には發布を見るはずである、しかして右回答の内市街地建築物法全部の適用を希望してゐるのは堺、尼ヶ崎、廣島、吳の四市で他の悉く一部適用緩和規定を望んでゐるが、内務省としては特殊の事情の存する堺、尼ヶ崎二市以外は全部緩和規定を實施する意見である

◎共同建築組合法

復興建築會社の設立は一時行惱みの狀態であつたが、中村市長、佐野建築局長等の努力で實業家側とも曲りなりながら意見の一致を見るに至り、建築會社と市との間の契約案も既報の如く十四日の東京市會で承認可決したから中村市長は十五日東京府知事を經由して内務大臣に認可申請の手續きをとつた、更に内務省から大藏省の預金部委員會に提案可決され次第認可となる順序で、遲くも本年中には會社成立の豫定であると、しかして防火地區内建築物はこれを統一するため建築物の高さを整然とし復興完成後の帝都として恥づかしがらぬものとするため目下復興局においては共同建築組合法を制定中であるが、その内容は左の如くである

一、耕地整理組合法に準據して地主借地權者等を强制加入せしめる事

二、建築物竣成後は各自の持分に應じて所有權を分割登記し抵當權設定の目的物たらしむる事

三、各組合員の共用に屬する水道栓廊下等は組合員の共同に屬せしむる事

等で、組合の特權としては別に低利資金融通の途を講ずべきか、あるひは復興建築會社から資金を融通せしむべきかの點は目下考慮中であると。

◎空家と新築家屋の激增

不景氣が深刻になるに連れて市内の空家は益々增加して行くが、これは家賃三十圓以上の家に多く、中には目貫きの大店舗が空いて居るものも些くないのに反して、これはまた誰もの豫想を裏切て新築戶數は昨年などに比較してどしどし增加してゐる、實例を以て示せば增加戶數は取壞を差引き本年四月の統計は所築棟數三百六十四棟この戶數一千二百十二戶であつたのが六月には五百二十七棟、一千五百二十五戶七月が四百八十七棟、戶數一千六百三十二となり八月は未だ統計が出來上つて居ないがこれ以上に增加してゐると概算されてゐる、これを昨年に比べると新地域編入の關係もあるが毎月三百棟、一千戶内外の差を以て增加してゐる、新築家屋の最も多いのは港區で毎月三百戶内外、次は東成、東淀川區等五十戶宛位增加しつゝあり、却つて天王寺區などは殆どないといふ狀態である、かく新築家屋が不景氣とは反比例に增加して行くのは不思議とされてゐるが、事實はこれが不景氣の深刻さを物語つて居るので、つまり多少の資金を抱く人々が他に有利な投資事業を見出さず、それより比較的安全であり且小住宅佛底の際ではあり直に確實な入ある家屋數を建てゝ利殖を計つてゐる向が多いためであると



主要建築材料値段

◎耐火リノリウム　市内施工　大阪耐火リノリウム會社

チョコレート色	四分仕上坪	八、五〇〇	円
褐　色	同	八、二〇〇	
赤　色	同	九、〇〇〇	
青　色	同	三、〇〇〇	
マグネシアセメント市内倉庫渡し		九五、〇〇〇	
ドロマイトプラスター	同	八、〇〇〇	
一號品	一タル四切半	七、〇〇〇	
三號品	同		

ストロブロック（模造天然石）工事　市中

寒水石大理石類	尺坪	八、八五	
花崗石類	同	一二、〇	
防水劑ポースイ			
三封度入		一、五〇	
五封度入		二、三五	
四〇封度入		三、〇〇	

◎リノリユーム　英國チーアン製　奥村重兵衛商店

巾六呎　長九〇呎（十五坪巻）

X	一、九ミリ	一坪ニ付	七、八〇
E	二、二同	同	八、六五〇
B	三、〇同	同	三、四〇

◎ウオールボード　英國ゼームス純製

一坪			四、二〇〇
寸法	巾三呎	巾四呎	
	長六呎	長九呎	長八呎

◎メタルラス（和製）

廿六番	巾二呎長六呎	一枚	〇、四八〇
廿四番	巾六呎長六呎	同	〇、五五〇
廿　番	巾三呎六六呎	同	三、〇〇〇
十八番	巾三呎長六呎	同	三、八〇〇
十三番	巾五呎長六呎	同	四、八〇

◎壁紙　英國製

	巾一尺七寸	一巻	一、〇〇〇以上各種
	長三十六尺（張上約一坪五合）		
米國製	巾一尺五寸	一巻	一、二〇〇以上各種
	長五十三尺（張上約二坪）		
	張手間	一坪	一圓四十錢以上

◎金屬天井

材料	蛇腹	逃板付	一坪 三、〇〇以上
同	逃板ナシ	同	一、〇〇 同
張工賃		同	三、〇〇同

◎日の出印便利瓦　日本建築紙工　大阪出張所

半號	巾三尺二寸	附屬品及	四、五〇〇
	長七十二尺	ペイント添	
一號	一巻	同	七、五〇〇
二號	一巻	同	二、五〇〇
三號	一巻	同	二、四〇〇

◎鶴印便利瓦

半號	一巻	巾三尺二寸	附屬品及
		長七十二尺	ペイント添
一號	同	同	三、五〇〇
二號	同	同	二、五〇〇
三號	同	同	一、五〇〇

◎日の出印砂付便利瓦

半號	一巻	三尺二寸	附屬品及
		長七十二尺	ペイント添
一號	同	同	六、〇〇〇
二號	同	同	三、〇〇〇
三號	同	同	二、四〇〇

◎日の出印建築用紙　ビルヂングペーパー

一號	一巻	巾三尺二寸	三、〇〇〇
		長七十二尺	
二號	同	同	四、二〇〇
三號	同	同	五、三〇〇

◎日の出印パーマネントルーフ井ング

一號　巾三尺長三十六尺　三十六坪以下一巻トス　坪平方尺一七、〇〇

◎日の出印衛生疊下用紙

一號	一巻	巾三尺二寸	三、〇〇
		長七十二尺	
二號	同	同	四、四〇〇

◎日の出印瀝靑（モスパーピール）

一號	一枚	巾二尺八寸	一、二五
		長三尺二寸	
二號	一枚	同	一、〇〇
三號	同	同	七五〇

◎日の出印アスファルトフエルト

一號	一巻	巾三尺二寸	三、二〇〇
		長七十二尺	
二號	同	同	四、二〇〇
三號	同	同	五、三〇〇

◎スレート　淺野スレート販賣株式會社

	長	六尺	一枚單價
		七尺	一枚單價
	巾	六尺	荷造ナシ
		七尺	荷造共

◎大平板

厚	三尺	同	二、一五
一分五	同	同	二、二〇
一分八	同	同	二、三五
二分	同	同	三、〇〇
二分五	同	同	三、八〇
三分	同	同	四、五〇

◎同波形附屬品　ゴム座付

丸額釘	長三吋	同	〇、二五
同木捻子釘	同三吋	同	〇、三五

◎スレート角板

大サ	白又ハ黒	董	赤	青
一六吋、一二吋	淡黒	一、二五	一、三〇	一、三五
一六吋、一〇吋	同	一、一五	一、二〇	一、二五
八吋、五吋	同	〇、三八	〇、四〇	〇、四二

◎石綿スレート　石綿スレート株式會社大阪支店　淺野スレート販賣株式會社　金剛商會　野澤幸三郎商店

一枚	角	十六吋	同	同	同	〇、二七
		十二吋	同	同	同	〇、二三
	淡黒色	十六吋	同	同	同	〇、二三
		十二吋	同	同	同	〇、二〇
	灰黒色	十六吋	同	同	同	〇、二〇
		十二吋	同	同	同	〇、一七
	董色	十六吋	同	同	同	〇、一七
		十二吋	同	同	同	〇、一五
	赤色	十六吋	同	同	同	〇、一八
		十二吋	同	同	同	〇、一六
	綠色	十六吋	同	同	同	〇、一九
		十二吋	同	同	同	〇、一七

◎葺上標準値段

（一坪アスファルトフエルト下葺）（鋼鉄、亞鉛鍍鐵釘使用手間賃共）

◎菱形葺（網目葺）十六吋角使用

重ナ	灰白	淡黒	黒	董 赤 綠
二吋半	七、〇〇	七、五	七、三	八、一六 九、六一

◉同　上　十二吋角使用
二吋半　八、三五　八、九〇　九、〇五　九、七五　一一、二五

◎一文字葺（十六吋角二ッ切使用）

色合　葺足五寸五分葺足五寸

灰白、淡黒色	一〇、二〇	一一、七〇	一二、八〇	一三、八〇	一四、九〇
灰黒色	一一、三八	一二、五三	一三、八〇	一四、九〇	一六、〇五
葷色	一一、八三	一三、二五	一三、九〇	一五、二五	一六、六五
赤緑色	一四、九五				

◎石綿盤葺上標準値段

（一面坪單價）
野澤幸三郎商店

網目葺（菱形）フェルト一號品敷込材料間儀共

色合	寸法	十六吋角重三吋半	十二吋角重二吋	八吋角重二吋
灰白色		六、九〇	七、四〇	八、二〇
淡黒色		七、三〇	八、〇〇	九、二〇
黒色		七、五〇	八、二〇	九、三〇
葷色		七、七〇	八、三〇	九、五〇
赤色		八、一〇	八、八〇	一〇、〇〇
緑色		九、二〇	一〇、三〇	一一、七〇

色合	寸法	十吋角重二吋	八吋角重二吋
灰白色		八、二〇	九、二〇
淡黒色		八、四〇	九、四〇
黒色		八、六〇	九、六〇
葷色		八、八〇	九、八〇
赤色		九、〇〇	一〇、二〇
緑色		一〇、二〇	一一、四〇

◎ロッコー瓦葺上標準値段

（阪神間ニテ）

平瓦各號共一尺一寸角葺足九寸
一坪約四十三枚葺、軒先及螻羽棟伏等道具瓦完備

灰白色、黒色、葷色、赤色共	一面坪ニツキ	八、五〇	
フェルト敷込			
棟、隅斗二段半圓形伏	一間	三、七〇	
同　同　箱歴振伏	同	五、八〇	
隅斗一段積	同	三、七五	
緑色ハ三割高			

◎亞鉛引平鐵板

月星印30（米一）	一、二四	一、三四	一、四四	一、五四	一、六四	一、七四
タヒ印30（米一）	品切	品切	品切	品切	品切	品切
犬印30（米一）	一、二一	一、二九	一、三八	一、四八	一、五八	一、六八
三星印30（米一）	一、三一	一、四一	一、五一	一、六一	一、七一	一、八一
太陽印30（米一）	一、三三	一、四三	一、五三	一、六三	一、七三	一、八三
エビ印30（米一）	品切	品切	品切	品切	品切	品切
船印30（米一）	一、九一	二、〇一	二、一一	二、二一	二、三一	二、四一
月星錨印30（米一）	一、二三	一、三三	一、四三	一、五三	一、六三	一、七三
山星印30（米一）	一、三〇	一、四〇	一、五〇	一、六〇	一、七〇	一、八〇
五寸切レ（米板）	一、三〇	一、四〇	一、五〇	一、六〇	一、七〇	一、八〇
蝶印30（英一）	品切	品切	品切	品切	品切	品切
ラクダ印30（英一）	一、九一	二、〇一	二、一一	二、二一	二、三一	二、四一
地球印30（英一）	一、九一	二、〇一	二、一一	二、二一	二、三一	二、四一
赤丸一印30（英一）	品切	品切	品切	品切	品切	品切
桃印30（英一）	一、七一	一、八一	一、九一	二、〇一	二、一一	二、二一
首印30（英一）	品切	品切	品切	品切	品切	品切

#28	一級品	一、四四	一、五四	一、六四	一、七四	一、八四
#26	一級品	一、六五	一、七五	一、八五	一、九五	二、〇五
#24	一級品	二、一〇	二、二〇	二、三〇	二、四〇	二、五〇
#22	一級品	二、九〇	三、〇〇	三、一〇	三、二〇	三、三〇

◎同浪板

同　店

#30	六尺	一、九〇	二、〇〇	二、一〇	二、二〇	二、三〇
#30	七尺	二、一六	二、二六	二、三六	二、四六	二、五六
#30	八尺	二、三九	二、四九	二、五九	二、六九	二、七九

#28	六尺	一、三〇	一、四〇	一、五〇	一、六〇	一、七〇
#28	七尺	一、五〇	一、六〇	一、七〇	一、八〇	一、九〇
#26	八尺	一、七〇	一、八〇	一、九〇	二、〇〇	二、一〇
#24	各尺百斤ニ付	一、九〇	二、〇〇	二、一〇	二、二〇	二、三〇

各參錢上り

◎鋼瓦板

巾一尺　長一尺二寸

井筒政藏商店（大阪）

名稱	單價	和百斤ニ付
一枚目付薄增値	自拾二代至八代	一二〇匁八〇匁
建値		壹、〇〇

◎バイブ

金剛商會大阪支店

長	價格					
内經	七代	七〇匁	壹、〇〇	一、〇〇	一、一〇	一、二〇
厚	六代	六〇匁	七、〇〇	一、〇〇	一、一〇	一、二〇
二吋	五代	五〇匁	八、〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇
二時十	四代	四〇匁	九、〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇
三吋半	三代	三〇匁	一〇、〇〇	一三、〇〇	一四、〇〇	一五、〇〇
四吋	二代	二〇匁	一三、〇〇	一七、〇〇	一八、〇〇	一九、〇〇
五吋						
六吋						

四分ノ一吋　同　六呎
十六分ノ五吋　同　同
八分ノ三吋　同　同
二分ノ一吋　同　同

◎金剛板

巾三尺　長六尺　一枚ニ付

厚サ	重量	圓
二分	五貫二五	三、六〇〇
三分	七貫五〇	五、三〇〇
四分	一〇貫五〇	七、五〇〇
五分	一二貫七五	九、七五〇
六分	一五貫〇〇	二、二五〇

◎塗料

日本ペイント製造株式會社
大阪營業所

シンクペイントA印	一二斑半	九、九〇〇	
白鉛ペイント	同　同	一〇、二〇〇	
光明丹	同　同	七、六〇〇	
ボイル油	同　一六瓩	五、三〇〇	
コーパルワニス	一哦	六、〇五〇	
ゴールドサイス	同	六、〇五〇	
建築用特種塗料			
調合ペイント白色上塗	六〇磅	三五、〇〇〇	
同　上白色下塗	同	一六、〇〇〇	
同　上各色	同時々引合		
光澤塗料（プライド）	一〇磅	四、六〇〇	
水性壁塗料（メロニア）	四〇磅	七、一〇〇	
亞鉛松用トタンペイント	三〇瓩	一六、五〇〇	
暖房塗料	一立	三、五〇〇	

スパーワニス（耐水性）	一哦	六、〇五〇	
金圖磨（コウミヨー）	大罐	三、五〇〇	
コンクリートペイント	三〇瓩	三、〇〇〇	
パテ	七〇磅	四、九五〇	

大東塗料株式會社
大阪營業所

品名	容量	定價
グラファイトペイント各色	五〇ポンド入	二四、〇〇〇
セクロン		
乙種黒色	五〇ポンド入	七、〇〇〇
特製黒色	同	一、〇〇〇
ネヅミ色	同	三、〇〇〇
銅及赤色	同	三、〇〇〇
木管用黒色	同	五、〇〇〇
不二水性ペイント	五〇ポンド入	二、〇〇〇
各色共		
大阪及東京渡値段		

田中源太郎商店

性質	品名	種類	單價
水性、壁、塗料	アラバスチン白	容器五封度入	三、〇〇
同	同	各色	三、五〇

シミ止	アラバスチンコーター	小瓶入	二、
パテ材料	アラバスチンパテ	小袋入	一、六
型紙	アラバスチンステンシル		四〇ヨリ一、五〇迄

性質	品名	種類	單價
艶消ペンキ	赤三角又ハ紅葉印サテン艶消ペンキ	各色容器	一ガロン入 一、五〇〇
同	同	同	八分ノ一ガロン入 四〇〇
ジンクペン用	ホワイト	外部用	一ガロン入 二、四〇〇

一ガロン入　一〇、八〇
紅葉印コーパルバニシ
同　一ガロン入　六、五〇
ワンダーホワイト　艶消白
同　一ガロン入　一〇、八〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、七五
エナメル代用　ワンダーホワイト　エナメル白
一ガロン入　一、二〇
同　同　二分ノ一ガロン入　五、八五
自動車塗料　オートフィニシュ　各色
八分ノ一ガロン入　三、三〇
コンクリート塗料　コンクレライト　各色
五ガロン入　四九、八〇
性質　品名　種類　色
汽車屋根塗料　ルーカスルーフセメント　黒
容器　一ガロン入　単価　四、七五
シエツドウオーターブロダクト
會社製品
性質　品名　種類
リノリユーム ホワイトリノリ
防水塗料 ユームバニシュ
容器　四分ノ一ガロン入　単價　三、八五

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所
ウオータイト　一〇ポンド入　五、五〇〇
同　七〇ポンド入　三五、〇〇〇
クヰツクウオタイト
一〇ポンド入　六、〇〇〇
同　六〇ポンド入三〇、〇〇〇

油脂化工社
一〇ポンド入　五、一〇〇
四〇ポンド入一〇、〇〇〇
一〇ポンド入三、二〇〇
五〇ポンド入七、五〇〇
エキストラ　一ガロン入　四、一〇〇
同　四ガロン入　一六、〇〇〇
マノール
同
急結マノール
同
エキストラ
エキストラ

◎木材其他

田村商會（神戸）

◎金屬天井

平板　一坪ニ付　九、〇〇以上
蛇腹　長サ六尺物　一、〇〇以上
鈕飾　同　二、二〇以上
中眞飾　同　三、五〇〇以上

◎建築用壁紙

パブコボード　一尺平方　一五〇
アイボリボード　同　一五〇

◎メタルサイデング

平飯石角　一坪ニ付　八、五〇〇

◎メタルラス（引伸金網）

舶來品#26　一坪　二、八五〇
舶來品#24　一坪　三、二〇〇
和製品#26　同　一、五〇〇
同　#24　同　一、二〇〇

◎米松角材（木場渡し）

大角材　一八吋角上　長二四呎以上　一、〇〇以上
中角材　一二吋角上　長二四呎以上　九五〇以上
小角材　取合　四吋角　一〇呎　八五〇
四吋四分ノ一長一三呎　九〇〇
四吋四分ノ三　二〇呎　九三〇
平材No.8　厚六吋巾一二吋上長二〇呎　一、四五〇

◎米松角材

大角材　一〇吋角上　長二四呎上
小角取合　四吋角　一〇呎　八五〇以上
四吋四分ノ一角長一三呎　九〇〇以上
四吋四分ノ三角二〇呎　九五〇以上

◎米　杉（尺〆一本ニ付）

丸太　一等級　末口一八吋上長一三呎　一五、五〇〇

◎米　檜（尺〆一本ニ付）

丸太ツガクリヤ級末口二四吋上　長一三呎　二七、〇〇〇以上
同　末口一八吋上　長一三呎上　一七、五〇〇
米松床板（神戸同店渡し一延呎ニ付）
中六吋マーチヤンタブル級　〇、四五以上
中六吋板目無節　〇、六八以上
中六吋柾目無節　〇、六八以上
上巾四吋板目無節　〇、四五以上
巾四吋柾目無節　〇、五〇以上
同　二等級　同　三、〇〇〇
同　三等級　同　七、五〇〇

◎檜、榧、赤樺、白樺、櫻、桧、

（建築家具用）
新田ベニヤ製造所
三枚合、片面、巾二尺以上ハ厚サ一分五厘ノ（十六分三）
巾二尺ニ寸以上ハ厚サ二分（四分一）
何れも一平方尺ニ付キ

寸	法	定價（一枚ニ付）
巾	長	青二ツ星　青一ツ星
一尺一寸五分	六尺四寸	一、二四　一、八九
一尺二寸	六　尺	一、二八　一、九二
一尺三寸五分	六尺六寸	一、三三　二、〇三
一尺五寸	六　尺	一、三八　二、一七）
一尺六寸五分	六尺四寸	一、四二　二、一四
二　尺	四　尺	一、三三　二、〇六
二　尺	三　尺	一、二五　一、八九
二尺五寸	六　尺	一、三八　二、〇三
二尺五寸	五　尺	一、二五　一、八九
三　尺	六　尺	一、四二　二、一四
三　尺	四　尺	一、二五　一、八九
三　尺	三　尺	一、一一　一、六八

◎二　等　品（家具用）

厚一分五ノ（十六分ノ三）又ハ二分（四分ノ一）三枚合　片面

巾	長	代價（一平方尺）
二尺	六尺	表三枚又四枚矧混合　二、三〇
二尺	五尺	同　二、三〇
一尺五寸	六尺	同　二、三〇
一尺	六尺	同　二、三〇
一尺	五尺	同　二、三〇
一尺	四尺	同　二、三〇
一尺	三尺	同　二、三〇

◎天　井　用（一坪ニ付）（京間）

巾	長	青二ツ星	青一ツ星
一尺	六尺	九、八四〇	一一、三一〇
一尺一五	六尺四	一〇、一五〇	一一、六七〇
一尺三五	同	一〇、九一〇	一二、五二〇
一尺六五	同	一一、九四〇	一三、七一〇
二尺一五	六尺四寸	一二、四五〇	一四、三〇〇
三、一〇	同		

◎ **同上**（江戸間用）

寸法　定價（一坪ニ付）

巾　長　青二ツ星　青一ツ星

一尺六寸　八尺　八、四〇〇　八、六六〇

一尺二寸　六尺　八、四〇〇　九、六六〇

一尺五寸　六尺　九、四〇〇　一〇、八〇〇

二尺　六尺　一〇、四〇〇　一一、〇〇〇

三尺　六尺　一一、八〇〇　一三、一六〇

◎ **格天井用**　巾二尺以下一分五厘　巾二尺一寸以上二分

三枚片面厚

檜　柵　樺　櫻しな　栓　黄檗

寸法　樹種　代價

二尺角　青二ツ星　一〇、四〇〇

同　青一ツ星　一一、〇〇〇

二尺五角　青二ツ星　一一、四〇〇

同　同　青一ツ星　一三、一一〇

三尺角　青二ツ星　青一ツ星　一三、六六〇

四尺五寸角　青二ツ星　青一ツ星　一七、五二〇

四尺角　一五、二四〇　一七、八六〇

◎ **腰羽目用**　巾二尺以下一分五厘　巾二尺一寸以上二分

三枚合片面厚

楓　柵　樺　櫻　なし　栓

巾　長　青二ツ星　青一ツ星

一尺三寸五分　三尺二寸　一、〇一〇　一、一六〇

一尺六寸五分　三尺二寸　一、三七〇　一、五八〇

二尺　三尺　一、七四〇　二、〇〇〇

二尺五寸　三尺　二、一六〇　二、五二〇

◎ **楓、柵、玉杢**

三枚合、（巾二尺以下一分五厘　片面、厚（巾二尺一寸以上二分

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長　赤四ツ星　赤三ツ星　赤二ツ星　赤一ツ星

一尺三寸　三尺　一、六六〇　二、三五〇　三、一八〇　四、七七〇

一尺六寸　三尺　一、九六〇　二、七五〇　三、六八〇　五、五八〇

二尺　三尺　二、二六〇　三、一七〇　四、二〇〇　六、三九〇

二尺五寸　三尺　二、五六〇　三、五九〇　四、七二〇　七、一九〇

三尺　三尺　二、八六〇　四、〇一〇　五、三四〇　八、〇〇〇

一尺　四尺　二、六一〇　三、一四〇　四、二四〇　六、三七〇

一尺五寸　四尺　三、二六〇　四、七〇〇　六、三六〇　九、五六〇

二尺　四尺　三、九六〇　五、六九〇　七、四八〇　一一、一二〇

二尺五寸　四尺　四、八五〇　六、八一〇　九、一八〇　一三、七〇〇

三尺　四尺　五、八五〇　八、二一〇　一一、〇八〇　一六、四八〇

◎ **楢、柵、樺、櫻**（京間用）

五枚合、片面、青一ツ星

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長

一尺　五尺　三、二七〇　四、七〇〇　六、三〇〇　九、四〇〇

一尺六寸　三尺　三、九三〇　五、六五〇　七、五八〇　一一、二八〇

二尺　三尺　四、七〇〇　六、八〇〇　九、一〇〇　一三、七〇〇

二尺五寸　三尺　五、四七〇　七、九五〇　一〇、六二〇　一六、〇二〇

三尺　三尺　六、二四〇　九、一〇〇　一二、一四〇　一八、三四〇

一尺　六尺　四、七〇〇　六、八〇〇　九、一〇〇　一三、七〇〇

一尺五寸　六尺　六、二七〇　九、一〇〇　一二、一四〇　一八、三四〇

二尺　六尺　七、八四〇　一一、三〇〇　一五、一〇〇　二二、七〇〇

二尺五寸　六尺　九、四一〇　一三、六〇〇　一八、一四〇　二七、三〇〇

三尺　六尺　一一、〇〇〇　一五、九〇〇　二一、二〇〇　三二、〇〇〇

◎ **同上**（江戸間用）

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長

一尺　六尺　四、二〇〇　六、〇七〇　八、一〇〇　一二、二四〇

一尺二寸　六尺　五、〇四〇　七、二八〇　九、七二〇　一四、六八〇

一尺五寸　六尺　六、三〇〇　九、一〇〇　一二、一五〇　一八、三五〇

二尺　六尺　八、四〇〇　一二、一四〇　一六、二〇〇　二四、四八〇

二尺五寸　六尺　一〇、五〇〇　一五、一八〇　二〇、二五〇　三〇、六〇〇

三尺　六尺　一二、六〇〇　一八、二二〇　二四、三〇〇　三六、七二〇

◎ **楢柾目ベニヤ板**（兩面物及ピ厚物ハ別）

三枚合、片面、厚

巾二尺以下一分五厘　巾二尺一寸以上二分

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長

一尺　六尺　三、一三〇　四、五〇〇　六、〇四〇　八、九〇〇

一尺二寸　六尺　三、七八〇　五、四〇〇　七、二四〇　一〇、八〇〇

一尺五寸　六尺　四、七〇〇　六、七五〇　九、〇〇〇　一三、五〇〇

二尺　六尺　六、二七〇　九、〇〇〇　一二、〇四〇　一八、〇〇〇

二尺五寸　六尺　七、八四〇　一一、二五〇　一五、〇〇〇　二二、五〇〇

三尺　六尺　九、四一〇　一三、五〇〇　一八、〇四〇　二七、〇〇〇

◎ **新田式ベニヤ製圖板** ◇

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長

一尺六寸　三尺　三、二〇〇　四、八〇〇

二尺五寸　六尺　四、三五〇　七、〇五〇

三尺　六尺　五、六〇〇　七、九三〇　一〇、四四〇

◎ **丸鐵**　山本東作商店

徑　長サ

二分　五、〇〇〇

十二尺　五、五〇〇

十八尺　五、五〇〇

二十尺　六、〇〇〇

三分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

三分五厘　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

四分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

五分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

六分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

二十尺以上五十尺位迄　四、四〇

七分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

二十尺以上五十尺位迄　四、四〇

八分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

二十尺以上五十尺位迄　四、四〇

九分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

二十尺以上五十尺位迄　四、四〇

一寸　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

二十尺以上五十尺位迄　四、四〇

一寸二分　四、四〇〇

十二尺　四、九〇〇

十五尺　五、四〇〇

十六尺　五、四〇〇

十八尺　五、四〇〇

二十尺　六、〇〇〇

二十尺以上五十尺位迄　四、四〇

◎Lアングル

厚サ	巾	高	目付ポンド
一分	二十尺位		四、八〇
八分	同		四、〇〇
一寸	同		四、八〇
一寸二分	同		四、八〇
一分五厘厚	二十尺位		四、九〇
一寸	同		四、九〇
一寸二分	同		四、二〇
一寸四分	同		四、九〇
一寸六分	三十尺位		四、八〇
二分厚	三十尺位		四、二〇
一寸	同		四、九〇
一寸六分	同		四、九〇
二寸	同		四、九〇
二分五厘厚	三十尺位		四、四五
一寸六分	同		四、〇〇
二寸	同		四、〇〇
三寸	同		四、〇〇
参分厚	三十尺位		四、〇〇
二寸	同		四、〇〇
三寸	同		四、〇〇
三寸半	同		四、〇〇
四寸	同		四、〇〇

◎Iチヨイスト

厚サ	巾	高	目付ポンド
分厚	寸	寸	九、五
一、七	同	5	一一、〇
二、〇	同	6	一二、〇
二、五	4″/2	5	一八、〇
二、〇	4	7	一六、〇
二、二	同	8	一八、〇
二、五	同	9	二一、〇
三、三	5	6	二五、〇
三、〇	同	8	二八、〇
同	同	10	三〇、〇
同	同	12	三二、〇
同	同	15	四二、〇
同	5″/2	15	四二、〇
同	6	8	三五、〇
同	同	10	四一、〇
同	同	12	四四、〇
同	同	15	五九、〇
同	7	18	七五、〇
同	同	24	七九、九
同	7″/2	20	八九、〇
同	24	一〇〇、〇	

◎コチヤンネル

厚サ	巾	高	目付ポンド
分厚	寸	寸	五、二
二、〇	1″/2	3	六、八
二、〇	2	3″/2	八、〇
二、〇	同	4	一一、〇
二、五	2″/2	5	一一、〇
同	同	6	一二、〇
同	同	8	一五、〇
同	同	8	一四、五
三、〇	同	6	一六、三
同	同	7	一七、五
三、〇	同	8	一六、三
同	同	9	一九、三
三、二	3″/2	7	二〇、〇
三、四	同	8	二一、七
三、〇	同	9	二一、三
同	同	10	二三、五
同	同	12	二六、一
四、〇	同	同	三一、九
四、一	同	14	三六、五
四、〇	同	15	四一、九

◎丁形

厚サ	巾	高	目付ポンド
分	二寸	二吋	四、八〇
同	同	二吋半	五、三〇
同	同	三吋	五、〇〇
同	三分	三吋	五、〇〇
同	同	四吋	五、〇〇
厚サ一分	二寸	二吋	五、〇〇
同	二分	二吋半	五、三〇
同	三分	三吋	五、〇〇
同	四分	三吋	五、〇〇

◎合掌用切鐵板

厚サ	巾	高	目付ポンド
径一寸一分	長サ十八尺位	二吋	四、一五
一寸四分	同	二吋半	四、一五
一寸六分	同	三吋	四、一五
一寸八分	同	三吋二分	四、一五
一寸	二寸二分	三吋	四、一五
同	同	三吋二分	四、一五
同	同	三吋半	四、一五
同	同	三吋六分	四、一五
同	同	四吋	四、一五
同	同	四吋半	四、一五
同	同	五吋	四、一五
同	同	五吋半	四、一五
同	同	六吋	四、一五
同	同	六吋半	四、一五
同	同	七吋	四、一五
同	同	七吋半	四、一五
同	同	八吋	四、一五

◎丸鐵

◎角鐵

厚サ	巾	高	目付ポンド
一分五厘	十二尺位	二吋	五、一〇
二分	同	二吋半	五、一〇
二分五厘	同	三吋	五、〇〇
三分	同	四吋	四、八〇
四分	同	五吋	四、八〇
五分	同	六吋	四、八〇
六分	同	七吋	四、八〇
七分	同	八吋	四、八〇

◎平鐵

厚サ	巾	高	目付ポンド
一分	十二尺位	五吋	五、一〇
三分	同	四吋	五、一〇
四分	同	三吋半	五、一〇
五分	同	三吋	五、一〇
六分	同	二寸	五、一〇
七分	同	一寸六分	五、一〇
八分	同	一寸四分	五、一〇
九分	同	一寸二分	五、一〇
十分	同	一寸	五、一〇
一寸	十五尺以上	一寸	四、一五
一寸二分	同	一寸	四、一五
一寸四分	同	一寸	四、一五
一寸八分	十八尺位	一寸	四、一五
二寸	同	一寸	四、一五
三吋	同	一寸	四、一五
四吋	同	一寸	四、一五
五吋	同	一寸	四、一五
二分厚	十二尺位	一寸	四、一五
三分	同	一寸	四、一五
四分	同	一寸	四、一五
五分	同	一寸	四、一五
六分	同	一寸	四、一五
七分	同	一寸	四、一五

一寸八分	同	十五尺以上十八尺位	同	四三五
一寸六分	同	同	同	四三五
一寸二分	同	同	同	四三五
一寸	同	同	同	四三五
十五尺以上十八尺位	同	同	同	四三五
一寸八分	同	同	同	四三五
一寸六分	同	同	同	四三五
一寸二分	同	同	同	四三五
一寸	同	同	同	四三五
十二尺位	同	同	同	四三五
七分厚	同	同	同	四三五
六分厚	同	同	同	四三五
五分厚	同	同	同	四三五
四分厚	同	同	同	四三五
三分厚	同	同	同	四三五
二分厚	同	同	同	四三五
一分厚	同	同	同	四三五
十二尺位	同	同	同	四三五
十一尺位	同	同	同	四三五
十尺位	同	同	同	四三五
九尺位	同	同	同	四三五
八尺位	同	同	同	四三五
七尺位	同	同	同	四三五
六尺位	同	同	同	四三五
五尺位	同	同	同	四三五
四尺位	同	同	同	四三五
三尺位	同	同	同	四三五
二尺位	同	同	同	四三五
一尺位	同	同	同	四三五
十五尺以上十八尺位	同	同	同	四三五
十二尺位	同	同	同	四三五
十尺位	同	同	同	四三五
八尺位	同	同	同	四三五
六尺位	同	同	同	四三五
四尺位	同	同	同	四三五
二尺位	同	同	同	四三五

一寸六分	同	十五尺以上十八尺位	同	四三五
一寸二分	同	同	同	四三五
一寸	同	同	同	四三五
十五尺以上十八尺位	同	同	同	四三五
一寸八分	同	同	同	四三五
一寸六分	同	同	同	四三五
一寸二分	同	同	同	四三五
一寸	同	同	同	四三五
十二尺位	同	同	同	四三五
七分厚	同	同	同	四三五
六分厚	同	同	同	四三五
五分厚	同	同	同	四三五
四分厚	同	同	同	四三五
三分厚	同	同	同	四三五
二分厚	同	同	同	四三五
一分厚	同	同	同	四三五
十二尺位	同	同	同	四三五
十一尺位	同	同	同	四三五
十尺位	同	同	同	四三五
九尺位	同	同	同	四三五
八尺位	同	同	同	四三五
七尺位	同	同	同	四三五
六尺位	同	同	同	四三五
五尺位	同	同	同	四三五
四尺位	同	同	同	四三五
三尺位	同	同	同	四三五
二尺位	同	同	同	四三五
一

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

大正十四年九月三十日印刷
大正十四年十月一日發行（毎月壹回一日發行）

發行兼編輯人　大阪市東淀川區中津町一九八番地　江村恒一
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所　大阪活版所
發行所　大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九七五

特約販賣店
大阪市西區京町堀羽子板橋北　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二〇八四番

日本建築協會々報

第八輯
第十號

日本建築協會々則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トシ會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄シ會員タラムト希望スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

第五條　本會ハ其ノ目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附シタル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其ノ言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セサルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其ノ他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其ノ權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其ノ他ノ事由ニ依リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其ノ債務ヲ免カルヽコトヲ得ス

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名
二　副會頭　一名
三　理事長　一名
四　理事　十名（理事長タル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但シ會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但シ引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　二名
二　主計　二名
三　編輯　五名
四　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ニ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トシ爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員ノ職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ發表スルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催スヲ通例トス但シ理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其ノ他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但シ緊急事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
二　調査研究報告ノ發表
三　建築ニ關スル重要事項ノ議決
四　議事項ノ實行促進
五　會誌ノ發刊
六　建築ニ關スル圖書ノ刊行
七　建築ニ關スル講演會ノ開催
八　建築ニ關スル展覽會ノ公開
九　建築ニ關スル視察
十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會
十一　其ノ他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出スル但シ例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ特別贊助員ハ特別贊助費年額金拾貳圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金六圓本會ニ前納スヘシ但シ六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其ノ計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其ノ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

會　告

會員、贊助員所在不明者の件

會員、贊助員の現住所並勤務先不明者はお知合の諸氏より御報知に接し漸次判明致して來ましたが尙左記會員、贊助員は不明の爲整理上差支へて居ります就ては止むを得ず例會に附議して除名致さねばならぬかと存じますから御承知のお方は何卒本協會事務所へ御通報下さる樣願ひます

大正十四年十月

日本建築協會

會員　高堂德治

地方會員　安田繁

普通贊助員

伊藤武夫　戶山音二郎　太田四郎　若林俊一

吉本新之助　政安熊市　權藤洗二　小枝實

江藤猛夫　渡邊三郎　地福勇吉　田代正熊

矢田部喜平　野々山政金　靑木立三　小林久之助

清原佐市　坂根秋光　田中儀一　桑田誠一郎

八木幸助　板垣要　平田茂樹　池永恒男

好岡享　杉本久吉　大下守造　山口辰治

肥塚房春　松原喜太郎　湊饒　林德一

片山菊次郎　木越誠二郎　宮崎加平

會報

一、神戸新聞社主催納涼文化博覽會出品の件

神戸新聞社主催を以て本年八月一日より九月五日迄三十五日間神戸湊川公園勸業館に於て納涼文化博覽會が開催されました本協會は同博覽會へ參考品として改良住宅の模型及圖案を出品致しました處今回閉會するに當り同社より木杯壹個及左の感謝狀を贈られました

感謝狀

本社主催納涼文化博覽會開會に際し特に貴下の御同情と御援助に依り貴重なる出品を忝くし本會に一段の光彩を添ゆることを得たるは本社の深く光榮とする所なり茲に謹んで感謝の意を表明し記念の爲木杯壹個を贈呈す

大正十四年九月五日

株式會社神戸新聞社

取締役社長　進藤信義

日本建築協會御中

一、會員逝去の件

會員久保田繁亮氏は九月十五日午前七時逝去の訃音に接し洵に痛悼に堪へません本協會は弔狀を贈り哀悼の意を表しました

會合

○理事會法人組織委員會聯合會

△日　時　九月一日午後五時——十時
△會　場　清交社
△出席者　渡澤菊之助氏
宗副會頭、松本理事長、園部理事、和田理事、吉井理事、澁谷理事、古塚理事、光安理事、池田委員、横濱委員、瀬戸委員
△記　事
一、夕食後各理事及各法人組織委員列席の上渡邊辯護士より社團法人組織定款及細則の草案に付同氏の意見を聽取し起草委員其他よりも意見を述べて修正を要する個所は協議の上決定することゝし渡邊氏は退席す
一、次て松本理事長より形式的の手續を略し今夕直に理事會と法人組織委員會と聯合して再審議することを諮り一同の贊成を得て再審議に入る
一、逐條的に字句の改訂輕易なる條項の修正を終りたるも役員の數其他重要條項の修正は時間の都合により今一回聯合會を開き審議することに決し散會す

○定例理事會

△日　時　九月八日午後五時——六時
△會　場　本協會會議室
△出席者　片岡會頭、宗副會頭、松本理事長、園部理事、和田理事、吉井理事、澁谷理事、光安理事、松本儀理事
△報　告
八月分會計報告
△議　事
一、九月例會に關する件
社團法人組織定款並細則案決定次第開會することに決す
一、大阪市立衛生試驗所主催衛生展覽會へ出品に關する件
適當なる出品物なきを以て見合すことに決定
一、新名簿印刷するに付照會案の件
原案の通可決
一、會員銓衡

○理事會法人組織委員會聯合會

△日　時　九月八日午後六時——十時三十分
△會　場　清交社
△出席者　片岡會頭、宗副會頭、松本理事長、園部理事、和田理事、吉井理事、澁谷理事、光安理事、松本儀理事
△議　事
一、社團法人組織定款並細則案審議の件
横濱委員より前同の聯合會の經過に付其要點並に渡邊辯護士の意見を附加して說明あり前回に引續き審議に入る
一、定款第十六條の役員數及定款第十九條の會長副會長の制度に付て大に論議する所あり凝議の結果漸く決定をなし其他の輕易なる修正及整理を橫濱委員園部主記光安編輯に委託することとし散會せり

○構造計算調査委員會

△日　時　九月九日午後五時——九時三十分
△會　場　本協會會議室
△出席者　委員長　增田清
主査　八木幸次郎
委員　池田宮彦、谷田實、永澤毅一、青柳貞世、酒井勇三郎、鹽路惣吉
△記　事
一、左の二件に付提出者池田委員の說明ありて研究討

議をなす
1地震水平震度
2震力計算に用ゆへき動荷重
一、構造に關し谷田委員より諸種の質問ありて意見を交換し散會す

○臨時理事會

△日　時　九月十二日午後六時三十分―九時三十分
△會　場　清交社
△出席者　片岡會頭、松本理事長、園部理事、澁谷理事、伊藤理事、光安理事、横濱法人組織委員
△議　事　本日午後三時より清交社談話室に於て園部理事、光安理事横濱法人組織委員の三氏會合し社團法人組織の定款並細則案に付前後理事、法人組織委員聯合會にて決議せし意趣に據り同案の字句其他の整理をなし六時終る
一、社團法人組織定款並細則案に關し最終審議の件
午後六時三十分理事會を開會し先つ整理したる定款並細則案に付讀會を始め園部理事同案を朗讀し逐條的に審議を了り愈々本案に決定し九月例會に附議することに可決
一、九月例會に關する件
社團法人組織定款並細則案愈々決定したるを以て九月例會を左の通開催のことに決定
1時　九月二十五日（金）午後正六時
2所　大阪市中央公會堂中集會室
3順序　A報告　會務報告　B議事　社團法人日本建築協會定款並細則の審議
一、會員銓衡

○新入會贊助員

普通贊助員
魚田　常治君　大阪市北區南向心町一ノ二八
森　歡之助君　千葉縣松戸町千葉縣立高等園藝學校

○退會贊助員

普通贊助員
寺村　善助君　村上　寅藏君　上野佐一君　新居　定世君

○逝去會員

會員
久保田繁亮君　大正十四年九月十五日逝去

○住所及勤務先移動

會員の部
櫻井謙二郎君　京都市東山通り馬町下ル妙法院前側町音羽住宅第十七號
奥野　時三君　神戸鐵道局岡山保線事務所（宅）岡山市島田町一ノ三
久樹　麻一君　德島市寺田浦町中園
小池　光義君　兵庫縣武庫郡御影町石屋字旭詰二四五ノ一
鈴木　末尾君　山形縣酒田町光ヶ丘鴻池組出張所
久保福次郎君　神戸市兵庫明治通三丁目
鐵道官舍二十一號ノ三
三浦　儀市君　大阪府三島郡茨木町字北市場
地方會員の部
中　川　廣君　東京府下大森入新井町不入斗五三一
小林麟太郎君　東京市神田區鍛冶町一三
神田驛前大林組神田出張所
（大阪市東區內本町有田ドラック本店建築場）
（宅）大阪市東淀川區十三南町七四五白井方
德永　義治君
中村　義雄君　大阪市北區樋上町七四竹內建築事務所
坂本　義信君　（吉長鐵路管理局）（宅）南滿洲長春吉野町一ノ七ノ二
高松吉三郎君　（富山縣立工業學校）（宅）富山市千石町一七七
終身贊助員の部
糸永　文古君　大阪市東區備後町野村ビル內東京建鐵大阪支店
普通贊助員の部
本田　久雄君　神戸市水笠通五ノ三森垣方
若林　錬三君　東京市本鄉區本鄉根津八重垣町六一松吉方
北川　安成君　大阪市北區堂島濱通り大阪醫科大學新築工事場大阪府廳營繕課出張所
渡邊　義三君　尼崎市難波宇西島五〇三
浦野紋次郎君　大阪市住吉區平野宮町八
古林　秀雄君　兵庫縣武庫郡本山村野寄鄉の本三三五
原　定君　大阪府豐能郡豐中村上ノ町二三四
高橋　義隆君　德島縣小松島町北町高倉方
牧田　暉君　大阪市住吉區北田邊町三七三
谷山　恒夫君　大阪市東成區新喜多町二六七
小林清三郎君　大阪市東區京橋三ノ三矢部工業事務所大阪出張所

○會員歸朝

會員芝田知重君は建築界視察の爲め昨年三月渡米中のところ八月竹中工務店神戸支店に歸任されました

改名

特別贊助員　田中與君（舊邦昌）

寄贈圖書

工業ノ大日本　九號　工業ノ日本　社

電氣評論九月號　同　社
都人　第九光　都人　社
會　報第二九號　名古屋工業會
學士會月報八月號　學士會
建築世界九號　建築世界社
工業之友第一九號　工手學校同窓會
セメント界彙報第三三號　日本ポートランドセメント同業會
建築畫報九月號　同　會
住宅九月號　住宅改良會
工政九月號　工政會
土木建築八月號　土木建築社
建築新潮九月號　洪洋社
大阪工業倶樂部八月號　大阪工業倶樂部
滿洲建築協會雜誌八月號　同　會
帝國鐵道協會報七月號　同　會
工業タイムス八月號　同　社
滿洲技術協會誌八月號　同　會
電氣學會雜誌九號　同　會
鐵道軌道經營資料九月號　鐵道同志會
庭園九月號　庭園協會
生活九月號　生活改善同盟會
國際建築時論第八號　國際建築協會
建築の普及九月號　帝國工業教育社
東京工業會雜誌九號　同　會
工業評論八號　同　社
朝鮮と建築九號　同　會
建築雜誌八月號　建築學會
通俗衛生九月號　大阪府衛生會
大阪實業十三號　大阪實業協會
建築工材第四號　日本實業與信所
建築工材社
趣味ノ園藝九月號　關西園藝會
商工政策八月號　商工政策社
經濟資料第九號　東亞經濟調査局
日本美術協會報告第一輯　同　會
建築資料共同型錄　建築資料協會
電氣工學術語集　日本電氣工藝委員會
京都の實業八月號　京都商業會議所
後藤慶二氏遺稿　同氏遺稿編纂委員

役員及職員

會頭　片岡安
副會頭　宗　兵藏
理事長理事　松本萬象
主記理事　園部文雄
同　理事　和田貞治郎
主計理事　吉井長七
同　理事　澁谷五郎
編輯理事　伊藤正文
同　理事　田中綱
同　理事　古塚正治
同　理事　光安梶之助
同　理事　松本儀八

編輯係
江村郊邨
藪田夏治郎

庶務係
西谷節
鷲取陽

會計係
大和榮衛
山口スエ

會員	三八三	會員（地方）	一七〇
名譽贊助員	七二	終身贊助員	五四
特別贊助員	二八	普通贊助員	五一八
合計（九月二十日現在）		一二二五	

●第八集 第一〇号 掲載広告一覧（掲載順）

ロック、アスファルト工業
井上幸三商店
飾磨化学工業
大野正営業所
日本エレベーター製造
特許エレベーター製造
浅野スレート販売
小原鉄工商事
宇部セメント製造
田島安吉商店
伊丹商店大阪出張所
カール・ツアイス
石綿スレート大阪支店
大阪ビトロライト工事
南満鉱業
浅野物産
ベニス工房
木下商店
丸三セメント工業所
田村商会
玲光社
メタルラス社

HANKEN SEISAKUSYO
東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
東洋コルク工業
KENSEISHOKAI
日本建築紙工大阪出張所
高木鉄工所
原田商会
日本セメント防水剤製造所
野沢幸三郎商店
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会
大阪陶業
中村グラニット商会
浅海商店
桐田商会
山中商会
阿部鉄工所
長田商店
日本工剤

東亜ペイント
森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
三井物産
小野田セメント製造
城口研究所
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
野村、橋本建築事務所
安井武雄建築事務所

柳下建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店

岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
大阪耐火リノリウム工業
須賀商会
栄進社
松尾鉄骨橋梁
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
山本窯業商店
常盤貿易商会
高島屋呉服店
日本耐火スレート
内外土木建築材料
萩原煖房工務所
星製薬

みどり製作所
日米板硝子
日本木材工芸
熊谷組
河村青写真調製所
デゥエット商会
日米建築資料社
日本ペイント製造
田中源太郎商店
建築金物商会